

(表紙)

延享二
宝曆二
種子嶋家譜
久芳
廿一代
十五

女子

嶋津民部久甫室生二男、一女

○享保五年庚子九月二十三日、生于覺府名悦、母家女

房川嶋、
房氏女

○天明四年甲辰六月九日卒、法諱永照院殿妙觀日義

大姊葬于種子嶋本源寺、事詳久芳譜中

女子

北郷權八資盈室生三男、一女

○享保八年癸卯九月二十一日生名袈婆鶴、後改三保、母同前、

○安永二年癸巳六月五日卒、法諱光壽院殿花岳貞法

大姊、

始時

傳次郎 藤太郎 四郎右衛門

○享保十四年己酉正月十四日生、母同前、

○元文二年丁巳五月二十八日、元服、嶋津玄蕃貴儔

代 太守繼豊公公疾留滯江府、故如此加冠、嶋津主殿久貫理髮、

號四郎右衛門始時、賜御書、獻太刀一腰・馬代銀

一枚・折六合・樽酒三荷奉謝之、北郷四郎久達執

奏之、賜盃酒及御脇指治工國代一腰、

○延享元年甲子九月二十五日、奉父久達遺骸到、

○十二月四日夜亥下、卒于種子嶋、法諱誠諦院殿日

孝大居士初暫號清淨院殿日孝大居士、葬本源寺、事詳久達譜、

女子

嶋津藤九郎久起室、

○享保十五年庚戌七月十九日生名駒、母同前、

包時 久馮 久方 八郎次 藏人 左内 薙髮
名自遊、

○享保十九年甲寅四月二日生、母家女房川嶋氏女、

○延享二年乙丑正月十六日、包時継家督、父久達卒、

兄始時亦次卒、故親戚訴之官許之、國老嶋津左衛

門久甫傳命、即就奏者義岡左平太奉謝之、又到國

老・若年寄・大目附之第述謝、

○十九日、使獨步時房・平右衛門時庸自今以往出于

政府與聞一嶋之政事出於時、守心慮、

○二十日、兩本山備法華經各一部於日啓大居士牌前、

○與銀一貫目德永武右衛門、以仕久達勤勞也、

○正月、上里村羽生五右衛門為外城士、以仕正五郎

時庸于東都勤勞也、

○與祿一石川嶋長可妙運、以有由緒也、

莖永村之市造以調菜之功為足輕、與氏牧田、

○與祿三石日高喜右衛門、賞母子數年之勤勞也、

○住吉村深田善八以為始時僕勤勞為士、為亡叔父深

田善八家嗣、

○增田村日高仲藏以為始時僕勤勞與宅地、

○二月朔日、就禰寝孫左衛門清香、獻太刀一腰・馬

代白銀一枚・三種二荷於 繼豊公、奉謝家督、又

贈馬代銀各一枚于國老、白銀各二兩于若年寄・大

目附謝之、

○同日、火于西之表百姓喜左衛門宅、餘烟及三家、

事聞 官、

○八日、流人神田多町無宿大工次郎兵衛死、稟白

官、

○十五日、包時登 城元服、嶋津周防忠紀代 公加

冠繼豊公病在東都故忠紀代公、嶋津左衛門久甫理髮、獻太刀・

馬代銀一枚・天井折六合・樽酒三荷於 繼豊公、

時賜御書・御盃及御脇指波平安國一腰、改八郎次名藏

人、又獻折六合・太刀一腰・馬代銀一枚於 宗信

公、事見于左、

○五三四 島津繼豊加冠狀

○ 加冠

種子嶋八郎次

宜為 藏人

延享二五
三月二日 (花押)
(継豊)

○ 二十日、初狩、以始時卒未滿百日故到今日、名代

家老上妻小左衛門定央・物奉行上妻七兵衛真雄・

用人西村十兵衛時苗・三組頭日高源右衛門・西村

清兵衛時富・川内善左衛門時賢、如例、

○ 異國方用人蒲生十郎左衛門以簡令糸荷船之事、如

舊、

○ 三月三日、令用人讀法章于廣間以下、

○ 同日、瀬曳之規式、如例以下、

○ 同日、賜草餅各一重于三箇寺、慈遠寺獻草餅以下、

○ 同日、家老西村源五右衛門時之致仕、

○ 同日、以家格就戸田傳五郎、請賜諱字於 繼豊公、

見于左、

○ 五三五 種子島包時久口上覺

口上覺

私六代之祖種子嶋三郎次郎事後左近守、改名仕候、龍伯様江奉

訴、乍恐 御家御實名之字拜領被仰付、久時与名

乘申候、高祖父左近事忠時・曾祖父山栖久時・祖

父栖林事茂右之旨を以奉願候處、先祖以由緒、

御家之字拜領被仰付候旨、御直奉承知久基与名

乘申候、亡父彈正事茂 御諱之字拜領被 仰付、

久達与相名乘、冥加至極難有次第奉存候、依之近

頃恐多申上事奉存候得共、先祖共江被仰付候由緒

を以、私事御諱之字拜領被 仰付被下度奉願候、

為御見合、六代之祖三郎次郎久時江被下置候 御

判物之写差上申候条、此旨を以被仰上可被下儀奉

頼候、以上、

三月四日

種子嶋藏人

○ 島津義久証状

(本文書八四六号文書ト同文ニツキ省略ス)

○松平遠江守(A) 賜金子二百疋于山縣嘉左衛門、謝

延享元年八月攝州神戸浦九郎兵衛船漂来于種子嶋之時有苦勞、

○十三日、修日孝大居士百箇日法事、

○十五日、日舍辞本源寺隱居于妙久寺、

○二十一日、以平山佐司右衛門為家老、

○同月、命封國中點檢大小船槽數每槽納一錢、

○四月五日、以西村万七為下村新五郎二男家、割新

五郎祿之内十斛賜之、改号下村、

○十一日、賀襲家土踊、

○十二日、以襲家諸土盟于本源寺、

○十五日、使名代詣于熊野權現祈平安每月如此、以下效之、

○十八日、如所請賜 久之一字改久馮、獻太刀各一

腰・馬代銀一枚・三種二荷於 繼豊公及 宗信公、

金子三百疋於 吉貴公奉謝之、事開于左、

○五三六 島津繼豊一字狀

種子嶋藏人

久

延享二丑

三月廿八日(繪豊)
(花押)

(本文書ハ「旧記雜錄追録四」二二〇九号文書ト同文ナリ)

○五三七 島津久豪達書

種子嶋藏人

右依願、

久之御一字拜領、御折紙頂戴被 仰付候条、一世

可被相用候、

四月十八日

(島津久豪)
木工

○同日、贈太刀・馬代銀各一枚于嶋津玄蕃久典・比

志嶋隼人・嶋津木工・穎娃内膳・嶋津大藏・鎌田

太郎右衛門・樺山主計・郷原轉・嶋津左衛門久甫・

嶋津右平太、白銀二枚于嶋津權左衛門、白銀各二

兩于嶋津彌市郎・小笠原郷左衛門・伊勢兵部、謝

賜久字、

○四月、以異國船來之候、國老贈連名之書、事記于左、

○五三八 樺山久初外三名連署申渡書写

写

吳國船入津時分候間、兼而申渡置候通、浦と堅固ニ相守候様ニ、種子嶋江可被申渡者也、

但例年長崎御奉行吳國船入津時分ニ付、浦御觸被仰渡、其段申渡事候得共、御奉行松波備前

守様先月廿七日御死去被成候故ニ而茂候哉、

浦御觸長崎よりハ未被仰渡候、此段茂可被承

置候、

四月廿七日

鎌田太郎右衛門印(政邑)

北條織部印(時守)

伊勢兵部印(貞色)

樺山主計印(久初)

種子嶋藏人殿

○五月五日、賜粽三箇寺、慈遠寺獻粽(坐)以下、

啖告流人次郎兵衛死書中誤書生國、家老知覽孫兵

衛行孝・西村源五右衛門時之各納科銀十五匁于官

○十日夜、本妙寺僧惠順入遠妙寺僧宣長坊亭盜、宣

長叱咤焉、惠順傷之、故圜惠順、

○十一日、左衛門久甫奠法華經一部于法運院殿日啓

大居士影前、

○五月十八日、請令時庸樹家與祿二百石、大場庄太

左衛門執奏之、事開于左、

○五三九 種子島久芳口上覚

口上覚

私亡祖父種子嶋彈正三男亡伯父種子嶋左平太世梓

種子嶋正五郎事、段々難有被召仕、至私難有奉存

候、依之此節別立御奉公為仕度御座候間、御免被

仰付被下度奉願候、左様御座候ハ、買地を以忒

百斛附屬仕度御座候、私所帶方之儀近年不幸物入

(相脱)屯、身帶難續差支候付、親類共申談、内々可成程

取細用儉約候時節御座候付、急ニ者才覺不相調候得共、蒙 御免置候ハ、漸々相求附屬仕度候間、此節別立御免被 仰付被下度奉願候、正五郎亡父左平太事、兄種子嶋平馬不幸ニ而男上り奉願、三男ニ被仰付候節、御太刀目録進上仕、御礼申上候、然者正五郎事、元文四年未五月、薩州様御方奥御小姓被仰付、初而之御目見奉願候節茂、御太刀目録進上被仰付、御礼申上候間、家格之儀者御見合を以、被仰付被下度奉存候、此等之趣被仰上可被下儀奉頼候、以上、

五月十八日

種子嶋藏人

右、五月十八日大場庄太左衛門被請取置候、

○六月朔日、許時庸別樹家等之請、家格命代々小番、嶋津左衛門久甫傳之、事見于左、

○五四〇 島津久甫申渡書写

写

種子嶋藏人

右者、種子嶋正五郎別立并高式百斛漸々相求分地之願被申出、願之通被成御免候、家格代々小番被仰付候、

右、御格之通申渡、首尾掛江茂如例可被申渡候、

六月朔日

(島津久甫)
左衛門

○六月、國上村塩屋峰・花堂・矢鋒松・茅、變色如朱、

○四日、野間村百姓横町門之名頭善右衛門娘 盲目、名於吟

奉仕于 御本丸 於貞君在于久駕邸時奉仕、故從於貞君登 府城

○七日、以異國船來之候、有長崎奉行之命、國老傳之、見于左、

○五四一 樺山久初外四名連署申渡書

吳國船入津時分候処、長崎御奉行御死去ニ而、浦御觸仰渡無之候得共、兼而申渡置候通、浦々堅固ニ可守旨、先達而申渡置候処、此節如例年浦御觸

被仰渡候ニ付、又々申渡候条、承知仕候様、種子嶋江可被申渡者也、

鎌田太郎右衛門印

北條織部印

六月七日

嶋津右平太印

伊勢兵部印

樺山主計印

種子嶋藏人殿

○廿三日、莖永村遠妙寺之後石壁崩落、本堂・客殿

半破損、

○二十九日、夏祓、規式、如例以下、

○七月朔日、莖永村遠妙寺後石壁再摧裂、而本堂・

客殿微塵、

○七日、飾具足當番家、老拜之、如例以下、

○八日、大會寺施餓鬼、十三日、慈遠寺施餓鬼、十

四日・十六日、本源寺施餓鬼、十六日・十七日、

兩町祭禮樂、如例每歲、效之、

○二十一日、於川迎祭禮踊場、鮫嶋半助・鮫嶋半右

衛門・足輕牧瀬兵右衛門、與鮫嶋甚次郎・日高万

兵衛・羽生半右衛門諍論、双方多與黨、令組頭・

横目會彼輩于本源寺札之、罪之有差、禁錮一箇年

鮫嶋半助・鮫嶋半右衛門・牧瀬兵右衛門、六箇月

西村四郎左衛門・前田新五兵衛・前田六郎右衛門・

西村淺之進・野間仲左衛門、五箇月西俣正右衛

門・日高源右衛門、四箇月鮫嶋甚右衛門・羽生半

五左衛門、四十日渡邊喜兵衛・前田次郎左衛門、

三十日鮫嶋万兵衛・渡邊勘右衛門・川内慶兵衛・

吉良六右衛門・下村萬七・吉良孝兵衛・岡留平七・

最上與兵衛・緒方助右衛門、廿日羽生半右衛門・

鮫嶋甚次郎・笹川安左衛門・上妻七郎左衛門・

知覽休右衛門・美座源太・美座權太夫・平山左傳

次・日高条右衛門・八板諸左衛門・遠藤六郎左衛

門・西村七左衛門・八板平太右衛門・牧嘉右衛門・

岩川喜平次・中田市郎左衛門・平山周九郎・川

嶋勘右衛門・小田庄兵衛・市来休之丞・日高関之

- 丞・池村平七・川内八兵衛・上妻市左衛門・井元
利右衛門・上妻甚五郎・西村善五兵衛・芝與兵衛、
一七日岩川十右衛門・上妻小左衛門・西村權右衛
門・上妻休心・平山周右衛門・知覽孫兵衛・平山
治右衛門以上七人雖不聞其事以族類也、其余至親族禁錮者多矣、
○八月一日、就大嶋孫右衛門、獻太刀・馬代白銀一
枚、使者上妻七兵衛真雄、
○同日、慈遠寺・大會寺各獻紙中紙四百枚是古例也、
○七日、於真來、為浴瀨潮也、
○十三日、暴風、
○十五日、獻福多目各一壺于 吉貴公及信證院君・
於榮君・德姬君・於貞君・於嘉久君、
○同日、蓮勝寺獻三寸・洗米每歲效之、
○十八日至十九日、修日啓大居士一周忌、
○二十七日、平右衛門時庸以病辭聞政事、
○九月九日、令人讀法章、如例每歲效之、
○十四日、兩本山奠法華經各一部于日孝大居士之牌
前、

- 十八日、嶋間浦水手七左衛門坐出材木小桑于他國、
納錢二十貫文償罪、其所連及者、叔父嘉兵衛二十
貫文、伯父喜兵衛十貫文、伯父與兵衛三貫文、村
吟味一貫文、山師下西之表村鮫嶋與兵衛七貫文、
鮫嶋半助五貫文、嶋間村橫目川北長右衛門・川北
市左衛門・鮫嶋休内・庄官柳田源右衛門逼塞、是
以檢察船之不密也、遠藤才之丞禁錮、是應七左衛
門求造言之咎也、
○十月九日・十一日・十三日、蓮師講、名代由舊歲每
之微、
○十日、於真赴覺府、
○十四日、從三箇寺獻蓮師講菓子、
○十二月三日・四日、修日孝大居士一周忌、
○十二月、吉貴公命久馮可娶嶋津玄蕃久典女、伊
勢兵部傳之於時守家老・物奉行代上妻休七左衛門、用人、
請奉行代上妻源左衛門到覺府賀之、
○二十二日、筑後國三潯那榎津船船頭長六、水手共六人、破于西之
村、送船頭・水手于山川、
○二十七日、三箇寺・二十人家及鍛冶歲暮賀儀、如

例以下、
效之、

御船手附小船頭緒方清太為家臣、

除夜、持佛堂祈念、如舊、

○延享三年丙寅正月元日、國上村獻野老以下、效之、

○二日、國上村浦田浦・現和村庄司浦獻海物以下、效之、

○同日、七箇寺獻品物、如例以下、效之、

○同日、覽馬、如例於覽府久馮自覽之、於種子嶋、家老或氏族代之、以下效之、

○四日、五箇村庄官・小觸獻品物、如例以下、效之、

○同日、死骸及船牢流來于長濱、故達官、

○六日、初狩名代家老平山休兵衛兼當、物奉行平山藤左衛門友清、用人西村淺右衛門時方、三組頭種子嶋平内時甫・日高七郎左衛門實、如例、

員・牧弥七左衛門胤清、

○七日、中之郡・下之郡庄官獻品物、如例、

○十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座諸兵衛・川内

八兵衛、二番下村猪左衛門・下村七郎左衛門、三番上妻市右衛門・八坂平太左衛門、如例、

○同日、村々之諸寺獻品物、如例以下、效之、

○同日、蓮勝寺獻三寸・桑、如例以下、效之、

○二十六日、年頭船於佐多洋中折舵危急時、水手蠶

泊浦七之丞・池田浦孫左衛門游到大泊外之浦、告

事浦役人、即令小舟引入大泊、后遣塩三包・錢三

貫文于大泊諸有司謝之、賞七之丞・孫左衛門與米

一包、

○二月二日、種子嶋三左衛門家格為家老組、

○三日、奥州仙臺門脇船廿四反帆載南部修理太夫米赴

江府途、逢大風捨檣漂到于野間村、而賣貨物解船、

事達覽府、

○十四日・十五日、修世雄院殿日尊大居士二十五回

忌於本源寺、

○十八日、令三左衛門自今以往仲年頭五節句・朔望

之賀於政府、

○二十一日、宗門手札改檢使東郷仲右衛門・西之原

源左衛門來、

○二十二日、足輕日高松右衛門・野町者三右衛門有

罪放于琉球道之嶋、

○二十五日、洪水、中之村田地溝洫多損、

○二十八日、國老命以官庫財用不給、賦銀一匁于每

人、二匁每牛馬一匹、一匁每大小船、河平太帆一端、

○就糸荷船之事、異國方用人蒲生十郎左衛門傳命、如例、

○二月、寄附資堂米一石三斗于慈遠寺塔中妙法寺聖日

靈佛、一石于本源寺塔中本乘院佛和靈、永祭各靈、

家老知覽孫兵衛・上妻小左衛門・平山休兵衛・上妻九郎左衛門・西村甚七與證書于各寺役僧、寺行奉、

○同月、坂井村保正・村吏等請使淨光寺掌十八代久時所寄附于熊野宮高五斛之賦斂、即許之、令家老出證書、記左、

○五四二 西村時員外四名連署証文

証文

熊野權現宮

社領

高五斛

右者、元祿十六癸未年、嶋主十八世藏人久時公依御心願、新宮殿御造營為修補料御寄附、役人以證文本源寺支配被仰付置候処、延享二丑十二月坂井村役者以口上書申出訊有之候、然者 久馮公御若年故、達時興主上聞候処、淨光寺之儀者別當寺之

儀候得者、從是者淨光寺支配申渡、以所務米修甫、

祭禮等諸事先規之通、相仕廻候様被 仰出、淨光

寺支配申渡候間、各奉得其意、社領目錄并先役人

證文式通、淨光寺役僧・村役者方江可引渡者也、

仍而證文如件、

但已來本源寺江致格護置候社領方銀錢米、同断

可引渡候、

知覽孫兵衛行孝

延享三丙寅年二月

上妻小左衛門定央

平山休兵衛兼當

上妻九郎左衛門真富

西村甚七時員

本源寺

寺役人

右同

寺奉行

○五四三 西村時員外四名連署証文

証文

高五斛

熊野權現宮 社領

右者、元禄十六癸未年、嶋主十八世藏人久時公依御心願、新宮殿御造營為修甫料御寄附、役人以證文本源寺支配被仰付置候処、村役者申出訳有之候、然者 久馮公御若年故、達時興主上聞候処、浄光寺之儀權現宮別當寺之儀候間、浄光寺支配被仰付候、以所務米修補・祭禮等諸事先規之通、可申渡旨被仰出、自今年浄光寺支配申渡候条、右之旨相守、寺僧・村役者立合可致差引候、尤社領目錄并先役人證文式通可相請取候、祭米先規之通真米可為五斗事、

代定之儀寺役僧・村役者立合相究、帳面本立、自八朔七月迄一ヶ年分之本拂、年々寺奉行見届、其上締方可承届候間、帳面寺奉行方江可差出事、

但宮祈拂錢殘銀錢米、自本源寺相請取可為本立、宮掃除等之儀者、宮祈地自作人不怠様可申附候、浄光寺及修補之刻并檀力難調節申出候者、吟味之

次第承届、自官料方可為致借用候、其外猥成儀兼而有間敷事、

右之通得其意、役者替合之節、堅固可次渡者也、仍而證文如件、

知覽孫兵衛行孝

延享三丙寅年二月

上妻小左衛門定央

平山休兵衛兼當

上妻九郎左衛門真富

西村甚七時員

浄光寺

役僧

坂井村

役者

○三月、京都本能寺日守以為貫首贈書札及守、故如

舊例贈白銀一枚賀之、

○八日、出祭禮樂之時横目・町奉行・兵具奉行監兩

市街、横目・兵具奉行監西之表、兵具奉行監近郷

之令以去年於川、迎有爭論也、

○同月、赦大嶋流人川内休次郎、

○四月、異國船之令不詳、

○六月五日、令浮屠三十人零于鴨女川、此日雨、賞之與米一包、

○十四日、家老上妻九郎左衛門真富致仕、

○十八日、又令三箇寺僧於本源寺神前等、

○二十日、以美座七郎右衛門為家老、西村十兵衛物奉行、

○七月四日、本源寺僧宣令坊與本成院會于妙泉寺、伴婦時宣令坊溺死于鴨女川、人疑本成院所為、故拷問之不伏、同七日病發頓死于獄中、塩之以聞于官、

○五日、以平山周右衛門友程為家老、平山藤左衛門友清物奉行、

○八日、官命自卯年四年賦無高者每人銀五分、每牛馬一匹一匁、大小船・橋舟・川平太每一反五分、

○八月朔日、以西村次郎兵衛時影獻太刀・馬代銀一枚、奏者汾陽茂右衛門、

○十二日、札改檢使掃覽府、

○十七日、屋久嶋楠川平左衛門船四人乘來于住吉浦、

同廿三日、逢大風破船、

○十八日・十九日、修法運院殿日啓大居士三回忌於本源寺、

○廿三日戌時至寅時、大風大潮、崩田二千百六十七石、余阡陌七百五十五間、流家八字、倒家五十八字、損家百零五字、破厩三百二十、或斃或流牛馬廿五疋、破船大小三十三艘、

○九月廿日、長野彦七為樺山主計久初家臣、

○十月十七日、以西村清兵衛為物奉行、

○廿六日夜、持佛堂鳴、令三箇寺僧會于本源寺禳、

○十一月朔日、與足輕柳田善兵衛祿一斛、賞庖人之功也、

○十四日、櫃長二尺九寸四部、橫一尺六寸五部、高一尺九寸流來于赤尾木浦、達覽府、

○十七日、日高文左衛門為小頭、以為始時・久馮侍讀故也、

○本年二月、松平陸奥守采地門脇船漂來野間村東洋、

解船賣貨物歸國後、贈所管家老・横目・浦役人以

下至水稍等金銀、以謝其勞、各有差文銀各二枚于家老上妻九郎左衛門

門真富・平山休兵衛兼當、同各一枚于西村淺右衛門時方・西村

次郎兵衛時影・猶原秀兵衛、文金二百疋于牧傳兵衛、三百疋于

行司池村仁兵衛、二百疋于工匠一人、船頭一人、百疋于旅館主

二人、三百疋于熊野浦人及百姓四十人、二百疋于送山川水主六

人、五百疋于自熊野送、赤尾木水手二十六人

○十二月三日・四日、於本源寺修誠諦院殿日孝大居

土三回忌、

○廿日、石黒太兵衛以親次郎兵衛為智光院養子故為

小頭、

○歲暮、規式、如例、

○延享四年丁卯正月、規式、如例、

○四日、正五郎時庸以 繼豐公致仕、 宗信公襲封

為 宗信公之使節、自武陽到于覺府、同二月十三

日又東行、

○六日、初狩名代家老平山周右衛門友程・物奉行西村清兵衛時香・西村次郎兵衛時影・河内市左衛門時元、如例、

○十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座諸兵衛・川内

八兵衛、二番下村善右衛門・西村七左衛門、三番日高五右衛門・八板平太右衛門、如例、

○廿四日、家老岩川十右衛門信里死、

○二月十八日、沙汰諸寺檀方之多少、所屬本源寺中

之村寺檀悉加于大會寺、

○同日、上妻九郎左衛門真富下人藤右衛門與知覽才

兵衛(下) 下人藤五左衛門爭宅地境、追放藤右衛門

三族于砂坂塩屋、才兵衛下人孫六于中之村中之塩

屋、九郎左衛門・才兵衛各三箇月禁錮、連及現和

村保正・横目禁錮七日、

○二月、蒲生十郎左衛門異國方用人傳系荷船令、如例、

○三月三日、以平山藤左衛門清友為家老、

○同日、吉貴公以國中浦浦漁利少、奏神樂於磯蛭

子宮、賜札守于吾地浦浦、船奉行傳焉、

○十六日、以西村淺右衛門時方為物奉行、

○十九日、熊野權現山鳴、命淨光寺・本源寺祈禱、

○二十五日、與公族・國老・若年寄・大目附・一所

持・一所持格・寄合・寄合并、以使者佐多正右衛

門、獻 宗信公三種二荷・縮緬十卷、繼豐公二種

千疋・縮緬五卷于江戸、賀致仕・封襲、

○同日、現和村淺川塩屋茂左衛門坐不孝、流于沖之

永良部嶋、

○同日、船奉行田尻八郎右衛門・田中七右衛門・二

階堂十郎兵衛傳命曰、向所賜漁人磯蛭子宮札守神

樂料可人出一錢也、因賦漁家九十一戸男三百六十

四人出之、

○四月、以異國船來之候、國老鎌田太郎右衛門・北

条織部・嶋津右平太・樺山主計傳長崎奉行之令、

如例、

※五四四 樺山久初外三名連署申渡書

吳国船入津時分候間、浦々可入念旨、長崎御奉行

被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守候様、

種子嶋江可被申渡者也、

四月十七日

鎌田太郎右衛門

北條織部

島津右平太

種子嶋藏人殿

樺山主計(久初)

(種子嶋正統系圖十七)

○五月六日、小根占之商船船主周八從那霸還逢暴風、漂

來于國上村浦田修船、有羽州秋田能代者六人、求

速歸國、即送之山川、

○十日、以北條十左衛門私借銀遠五十八貫九百目余、

不能自償、樺山主計久初與平田新左衛門正輔謀欲

親屬從貧富償之、以告家老平山兼當・平山友程・

平山清友、相議答曰、今久瀧幼也、不可不得時守命、

又使木場次郎兵衛・有馬源五右衛門來云、若時守

知之則其責不可量、可曲而從之、於是乎達久瀧償

文銀二十七貫目、亦出一貫五十目為正五郎時庸償、

○二十五日、正五郎時庸從 太守宗信公赴武陽、

○六月十五日・十六日、修究竟院殿日等大居士第七

回忌於本源寺、

○廿八日、以久瀧幼使知覽孫兵衛行孝為側家老仕五年

於覺府官祿四、十石、

○廿九日、僧會零于鴨女川、

○七月六日、鮫嶋瑞頭・向田新八・羽生與平次坐爭論之事、逼塞一箇年、川内玄憚以為證人兩舌、没收扶持高為住吉村郷士、連坐武田彦九郎逼塞三七日、

○十日、三箇寺僧會中嶋零、

○十二日、本多伯耆守令搜索罪人中間庄助者、於是家老・横目・兵具奉行按察一嶋旅人、求之不得、

○嘗以殺害白金樹木谷百姓地畠之内元主人西之丸表坊主白井宗務女出奔也、

○廿二日、織部時守辭國老職、

○同日、千九郎時以為御側小姓、

○同月、紀伊宰相宗將卿嫡子直松君逝去、禁殺生・

遊興三日、

○八月一日、獻太刀・馬代銀奏者・使者不詳、

○初祭熊野權現于催馬樂屋敷、

○九月七日、久瀧請角入、見于左、

○五四五 島津久起口上覺

口上覺

私親類種子嶋藏人事、程比相應罷成申候間、御見分之上角入御免被仰付被下度奉願候、尤 御直元服被仰付、初而之 御目見相濟申候、此等之趣被仰上可被下儀奉願候、以上、

九月七日

嶋津藤九郎(八思)

○八日、許久瀧角入、國老鎌田典膳政昌傳命、到國老及月番御用人第謝、

○五四六 鎌田政昌申渡書写

写

本文願之通、角入被成御免候条、如例可申渡候、

九月 (鎌田政昌) 典膳

○同日、久瀧角入、

○十一日、權四郎時興補船奉行、

○同日、織部時守致仕、十左衛門(14) 襲家、

○廿日、織部時守剃髮号仲道、

○十月七日、以 吉貴公病、飛舟来自大泊告可祈禱之命、即三箇寺禱焉、同十二日、發飛船、翌十三日、到覺府獻卷數、宰領士緒方權右衛門惟類・足輕長山七郎左衛門、

○十日、吉貴公薨、法諱淨國院殿鑑阿天清道熙大居士、禁殺生・音樂・商賈・月代三十日、营作十五日、漁商・家職有聲者七日、至町人・百姓不禁月代、

○十一月六日、於淨光明寺 淨國院殿葬禮、時令本源寺代慈遠寺速成院及衆僧十一人諷經、事記左、

○五四七 慈遠寺速成院僧等諷經次第

一 經木一部

一 讚鉢

一 鏡

一 壽量品先例雖壽量品一返諸家混亂故略之

本實坊

源光坊

一 神力品訓讀

一 回向

一 此經難持以要言之終先例此時雖賜飯以寺內陝迫被禁止之

蓮光院

○九日、久馮獻祭文于 淨國院殿牌前、見于左、

○五四八 種子島久馮久祭文芳

維延享四丁卯冬十月十日、我尊君故正四位下左近衛中将薩隅日三州刺史兼領琉球國、

淨國院殿鑑阿天清道熙大居士、動靜無常、尊體日枯槁、神祇虛感應、醫術亡靈驗 於戲桑榆暮景徒瞻仰耳、乃於淨光精舍隨梵儀、以闡維矣、越家臣平氏久馮不耐慟哭之情、十一月九日恭備山茗蔬菓之微供、以設于奠尊靈帷下、且告以文、其詞曰、
嗚呼哀哉

文武明哲

中孝真人

海國伏威

閔塞潤仁

偉哉令德

壯哉精神

百揆惟叙

五典克修

逐時講武

聞道修身

光啓周政

優得漢民

遠頭祖宗 長坐絲綸 可貴可法 令聞未泯

嗚呼哀哉

茲歲何歲 此辰那辰 赫赫威烈 祁祁措紳

終如電微 又似霜新 一別多劫 九腸無拘

風雲長淒 草木空蕪 燕金失色 荆壁喪淳

嗚呼哀哉

一百浮世 結夢劫塵 七十餘霜 回魂齒隣

永值此悲 誰能恤臣 感腸辟斷 涕泗濕巾

速離埃纏 直脫迷漚 切竭丹悃 于採彼蘋

聊列籩豆 以供祭禮 伏冀靈爽 來格遊巡

嗚呼哀哉

尚饗

(本文書ハ「旧記雜錄通録五」一七七号文書ト同文ナリ)

一 祭文讀師 日輪寺住職 時祈念僧 顯成院

一 御供饗取次 慈遠寺僧 寬了院

一 御靈膳獻上 本源寺代慈 速成院 遠寺住職

右、終而久瀉焼香、衆僧十三人内二人妙顯寺僧列坐左右、

誦神力品真讀題目・此經難持以要言之、

○十二月十八日、家老平山周右衛門友程死、

○同日、許重出銀米、

○同日、宗信公命云、近年士之風儀不正、多耽利

欲、萬民習慣之則國家之風俗漸壞、宜慎之也、於

敷舞臺奉之、

○十二月、命宜獻歲暮・年頭之嘉儀於於嘉久君・於

貞君、國老樺山主計久初傳旨、

○同月、中之村本善寺僧本照坊、坐破戒囚獄、後為

瀛脇塩屋樵夫、

○歲暮、規式、如例、

○寬延元年戊辰正月、規式、如例、

○六日、初狩名代家老美座七郎右衛門時香・物奉行前田新五兵衛清倍・用人種子嶋平内時甫、三組頭西村文右衛門時勝・前田六郎右衛門盛、如例、

容・平山十郎左衛門兼寬

○十一日、具足祝、軍陣・温坐祈念、的始射手一番美座 諸兵衛・河内

八兵衛、二番上妻市右衛門・下村善右 衛門、三番鮫嶋十八・羽生源右衛門、如例、

○同日、以久瀉幼年、嶋津左衛門久甫預聞家事、

○十九日、家老平山藤左衛門頭友伴山奉行市米周七

年見・川内善左衛門時賢・村吏、到安城村角之荒、

點檢材木六百六十七本 五葉松三百五十五本圍自七尺至一丈四尺、黒松三百十二本圍自七尺至九、為後世之要用、

○二月十三日、以上妻七兵衛真雄為家老、

○十五日、福嶋船破于納官村、事告官、

○十九日、締方横目入佐助八・古後七郎右衛門來巡

行嶋中、從今年以往三州郡縣皆如此、

○二十四日、以種子嶋平内為物奉行、

○以糸荷船之事、蒲生十郎左衛門傳令、如例、

○三月一日卯時、大地震、

○七日、以平右衛門時庸之嫡男百市 實時庸二男、兄時利

子之及二女子 姉云仙、妹云松請為家臣、事見于左、

○五四九 種子島久馮久口上覚

(五四九の一)
口上覚

種子嶋平右衛門嫡子

種子嶋百市

右同娘

せん

右同娘

まつ

右者、私家内ニ而、種子嶋江罷居申候、御當地江

招呼、先きく別立又者縁付等為仕候存念茂無御座候ニ付、此節右三人共ニ家來ニ召成申度奉願候、此段御申可被下儀奉頼候、以上、

二月廿五日 種子嶋藏人

(五四九の二)
写

本文、願之通被成御免候条、如例可申渡候、

三月 (禪山久初) 主計

(本文書ハ五四九の一号文書ノ行間ニアリ)

○同日、久馮以嶋津左近久起、請剪前髮、事開左、

○五五〇 島津久起口上覚

(五五〇の一)
口上覚

私親類種子嶋藏人當十五歳罷成申候間、御見分之

上、前髮取 御免被仰付被下度奉願候、此旨被仰

上可被下儀奉頼候、以上、

三月七日 島津左近

(五〇の二)
写

本文願之通、前髮取被成、御免候条、如例可申渡候、

三月

(鎌田政信)
典膳

(本文書、五五〇の一号文書ノ行間ニテリ)

○十一日、獲鯨魚^{長三}于西之村、

○國老樺山主計久初傳命曰、從今唐船漂來、家老以

飛書告覽府、勿令横目告也、

○四月、以異國船來之候、國老平田掃部・樺山主計・

島津大藏・嶋津左衛門傳長崎奉行之令、如例、

※五五一 島津久甫外三名連署申渡書

吳國船入津時分候間、浦々可入念旨、長崎御奉行

被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守候様、

種子嶋江可被申渡候、以上、

四月十一日

(正體)
平田掃部

(久初)
樺山主計

(久藏)
嶋津大藏

嶋津^(久甫)左衛門

(「種子島正統系圖」十七)

○六日、宗信公返賜戸口・牛馬・船定賦外之賦、

○十五日、以自照院病、川内市次郎代久馮詣諸寺、

○同日、祈自照院病、久馮及三役奉納願文、

○十七日、嶋間浦小右衛門・孝左衛門・次郎左衛門・

十助鈞不歸、事告官、

○二十九日、家老美座七郎右衛門時香・物奉行知覽

才兵衛行徳開港五月三日到覽府、問自照院病、

○五月朔日、自照院卒覽府、法諱自照院殿蓮友日耀

大姊、四日戌時、殯于正建寺、舉喪五十日、禁殺

生・音樂・遊興三十日、營作十五日、漁商及家職

有聲者七日、足輕月代三十日、庶民不禁之、

○十四日、家老・物奉行・用人使者西村文右衛門時

勝、諸奉行・諸士使者下村七郎左衛門、船奉行殿

嶋甚右衛門親方、本源寺僧蜘蛛軒院、慈遠寺僧思定

院等赴覽府迎自照院殿遺髮、

○二十五日、權四郎時興・於真・後藤兵衛時庸・家

老美座七郎右衛門・物奉行知覽才兵衛等、奉自照院殿遺髮到、

○同晦日、葬自照院殿于本源寺、

○六月十日、中之村百姓七助與後妻謀、溺殺幼女于水中、事達于覺府、奉命七月囚獄之、

○廿九日、權四郎・後藤兵衛・於真・締方横目入佐助八等赴于覺府、

賜青銅六百疋于成瀬自照院老名敷也、百疋于多茂里・志滿

里、四百疋于曾茂、高一石身代銀百疋于惠根、宅地一箇于長野佐十郎、共以仕自照院故也、

○七月六日、赦鮫嶋瑞頭・羽生與平次・向田新八、

○十三日、締方横目伊地知七右衛門・平田次右衛門來、同十二月八日、歸覺府、

○十四日、宗信公覽家傳之南蠻鉄炮二一名故郷一腰指、

○八月一日、就寺山四郎左衛門獻太刀・馬代銀、使者西村淺右衛門時方、

○廿二日、佐竹右京大夫義明贈横目平山十郎左衛門兼寬・船方役人西村次郎兵衛時影、筆吏武田休七、

船頭松下孫兵衛及番人・水手等金子白銀、以謝去春送其領内出羽秋田能代人六人于山川、

○九月二日、大風大潮、

○六日、公命久馮師川上十郎左衛門親盈學御家傳犬追物、國老鎌田典膳政昌傳之、即就北郷助太夫奉謝、

○二十八日夜、火于覺府大供屋、

○久馮以誓願、修大會寺番神堂・華表・瑞籬、

○十月十三日、覺府颯風ツツカセ自西田起、府下人屋及吾邸長屋・時庸宅破損、

○以宗信公襲封、流人川嶋清六被赦、

○廿日、川嶋清六為否笠治左衛門家臣、

○閏十月二日、前家老上妻小左衛門死、

○六日、屋久嶋長田村船二艘破于國上村鬼筒浦及坂井村久濱、

○廿五日、久基第四女於真後改中尾仕於嘉久君為若年寄家格及萬

石以上者之女焉有此仕、
哉、嘗以於真內訴也

○十一月三日、榎元元右衛門辞嶋津左衛門久甫復歸

瀧久馮姊於悅嫁久甫之日、
從於悅任彼家久、今及此、

○廿三日、緋方横目上原源左衛門・大山清右衛門來、

○廿五日、以壽遠院日傳為本源寺、

○歲暮、規式、如例、

○寬延二年己巳正月、規式、如例、

○六日、初狩 三組頭牧庄左衛門胤清・蚊嶋甚右衛門親方・岩川
六郎左衛門時章・名代家老平山藤左衛門友清・物
奉行西村十兵衛時苗・用、 如例、

人平山十郎左衛門兼寬

○十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始 射手一番美座
助六・川内八

兵衛、二番下村猪左衛門、岩川嘉兵衛、
三番蚊嶋太左衛門・八板平太右衛門、如例、

○十三日、權四郎時興死于大坂、号了性院日誠居士、

一嶋停樂十日以船奉行從宗、
信公、在大坂、

去辰秋嶋間浦水手甚助徘徊于屋久嶋長田村、事聞

覽府被問其故、即拷問焉達其狀于覽府、而二月十

五日病死、又告之覽府、

○以系荷船之事、蒲生十郎左衛門贈簡、如例、

○三月十二日、濱津脇浦水手佐七盜小舟出走、時屋

久嶋在番鎌田弥右衛門告在屋久嶋、即遺物頭前田

六郎右衛門盛容・足輕三人捕之婦、水問未白其故

死、達之覽府、

賞前田六郎右衛門盛容并足輕三人到屋久嶋捕佐七

之功、與青銅二百疋于六郎右衛門・各百疋于足輕

三人、

○四月、以異國船來之候、國老 不詳
姓名 傳長崎奉行之令、

如例、

○二十八日、與銀子一貫目于池村藤兵衛、賞多年勤

仕之功也、

○四月廿九日至五月朔日、於本源寺修自照院殿蓮友

日耀大姊一周忌、

○五月三日、以久馮幼年樺山主計久初聞家事 以嶋津左
衛門久甫

也死、

○九日、緋方横目鬼塚猪右衛門・中馬十左衛門來、

○十八日、太守宗信公帰國、後藤兵衛時庸從駕、

○二十六日、以蝗多令浮屠禳之、

○二十八日、被許以北郷龜之助為久馮養弟、事記左、

○五五二 種子島久馮芳口上覚

口上覚

私姉智北郷権八三男北郷龜之助、私方江内々貰受、介抱仕置候、以来弟分仕度候間、御免被仰付被下度奉願候、此段被仰上可被下儀奉願候、以上、

巳五月十一日

種子嶋藏人

○五五三 北郷資盈口上覚

口上覚

私三男北郷龜之助、種子嶋藏人江内々遣、致介抱置候、以来藏人弟分仕度旨奉願候間、御免被仰付被下度、至私奉願候、此段被仰上可被下儀奉願候、以上、

五月十一日

北郷権八(資盈)

○五五四 伊勢貞起申渡書写

写

種子嶋藏人

北郷権八

右者、権八三男北郷龜之助事、内々貰受、被致介抱置候、藏人致弟分度旨被申出趣有之、願之通被成御免候、

右之通申渡、首尾係江茂可申渡候、

五月廿八日

(伊勢貞起)
兵部

○六月二日、檢使上原藤十郎自屋久嶋来檢點船、

○十五日、締方横目鬼塚猪右衛門點檢船數以上原藤十郎病代之、

○十六日、以上原藤十郎病、其弟上原平右衛門来、

○廿日、零於鴨女川、

○二十一日、下西之表村吏請罷物頭等監其祭禮樂、許之、

○以 太守宗信公病故、久馮祈平愈誓修鑄流馬、

○二十四日、締方横目上原源左衛門・大山清右衛門

坂覺府、

○二十六日至二十七日、暴風、

○二十八日、上原藤十郎歸覺府、

○七月二日、洪水、莖永村・平山村田地多破壊、

○七日、流人万吉病死、白覺府、

○十日、宗信公薨、奉號慈德院殿俊岩良英大居士、

禁殺生・音樂五十日、營作三十日、漁商七日、府

下士月代五十日、倍臣・庶民不禁之、

○十七日、以慈德院殿之喪、被止八朔獻太刀・馬

代銀、

○同日、請由家格獻野・坐諷經・祭文等于慈德院

殿牌前、國老鎌田典膳政昌傳命、見于左、

○五五五 種子島久馮久口上覺

口上覺

慈德院様被遊御逝去候ニ付、私家御代々様江祭文

進上仕来并野諷經・座諷經迄茂差上来候間、此節

茂被仰付度奉願候、此等之趣被仰上可被下儀奉願

候、以上、

七月十七日

種子嶋藏人

○五五六 鎌田政昌申渡書写

写

種子嶋藏人

慈德院様御中陰内御祭文差上、野諷經・座諷經迄

茂前々之通被差上度被申出、願之通被仰付候、

右之通申渡、寺社奉行江茂可申渡候、

七月

(鎌田政昌) 典膳

○廿四日、葬慈德院殿、久馮詣于福昌寺、同夜令

本願寺服大・淨光寺及衆僧十四人野諷經淨光寺阿彌院

・宜實院・成等院服直纒七条、蜘蛛院・思定院・信敬院・本、
實坊・自性坊・須孝坊・會存坊・本壽坊・壽信坊服素絹五條

○六日、令本源寺及衆僧十四人慈德院殿牌前坐諷

經服前、

○五五七 本源寺僧等諷經次第

一 經木一部以檜製之

一 讚鉢

一 鏡

一 壽量品

一 神力品訓讀

一回向

一 此經難持以要言之終

○八月九日、久瀨詣福昌寺 慈德院殿牌前、獻祭文、

其式本源寺以下僧徒先到 神位前列左右、乃供御

靈膳及祭文 久瀨捧之出席中央、僧、而本源寺進采備進采之備、尊靈前

神位前之祭文奉久瀨、久瀨拜戴之與之淨光寺行香、

淨光寺讀祭文 讀到臣平久瀨、久、終而久瀨即下座 此時衆僧

誦神力品一遍・題目五遍・此經難持以要言之、徹御靈膳如始而各退去、

○五五八 種子島久瀨祭文

○ 祭文

維時寬延二龍次己巳秋七月十日丙辰、我邦君

慈德院殿故從四位上左近衛中將薩隅日三國主兼領

琉球國、源公

俊巖良英大居士、一旦係疾病而捐館仙遊矣、同月

廿四日庚午就于玉龍精舍奉闈維矣、越八月九日臣

平久瀨不堪哀悼景仰之情、冀備沼沚蘋蘩之微供、

以致祭於

尊靈幃下、其詞云、

嗚呼哀哉

於吾嚴公 俊德若風 門少停客 坐滿英雄

仁心彰外 義氣溢中 入則思悌 出則志忠

有威不猛 有福無窮 蒼生懷惠 多水朝東

嗚呼哀哉

一日染疾 獨困貴躬 普求醫藥 術無其功

偏禱神祇 感得其空 營中星落 窓下月隴

臨茲永訣 徒欲羅籠 生涯何故 似大槐宮

嗚呼哀哉

明發叵寐 憂心忡忡 泣露結艸 悲風搖楓

燈餘虛閣 光輝漸紅 訃傳闔國 斷腸各同

從是吾儕 遭渡失嗣 恭備薄奠 以表寸衷

嗚呼哀哉

▽◎尚饗△

(本文書ハ「旧記雜錄通録五」五五六号文書ト同文ナリ)

一 祭文讀師

淨光寺

一 御供饗取次

本源寺

一 御靈膳獻上

○ 十二日、覺府上町大火、

十七日、以平山村百姓次郎左衛門耽色傷油久村羽

生喜三左衛門女、囚獄、

○ 十一月、命以公府假債多、常賦外祿一斛賦米一升

五合、無祿者人銀一分五厘、牛馬一疋三分、大小

船及橋船帆一端五分五厘、

○ 十日、嶋津兵庫久門公襲封宗信公無嗣子故也、

○ 廿八日、久門公首服、任從四位下少將稱 薩摩

守重年公、

○ 十二月二日、久馮為定火消、

○ 八日夜、覺府邸厩馬尾半斷、以為怪異奉納神馬一

疋于熊野權現、使浮屠禳焉、

○ 廿五日、嚮命公府財用不足故、三國中無貴無賤出

財以可資之、久馮請自来歲以往五年以祿三百斛之

入納公府、事記于左、

○ 五五九 種子島久馮芳願書

高三百斛

右者、御所帶方難被續付、私持高之内右高所務米、

從午秋先五箇年、為御加勢差上度奉存候、此段被

仰上可被下儀奉頼候、以上、

十二月廿五日

種子島藏人

○ 歲暮、規式、如例、

○ 寬延三年庚午正月、規式、如例、

○ 六日、初狩三組頭平山周右衛門(アツ)、羽生半兵衛上妻、

村淺右衛門助之丞、名代家老上妻七兵衛、物奉行西

人種子嶋大九郎、用、如例、

○ 十一日、具足祝、軍陣・温座祈念射手一番美座、的始諸兵衛・川内、

○ 二月十五日、請以龜之助為後藤兵衛時庸養子、許

之、

○ 以糸荷船之事、蒲生十郎左衛門以簡傳命、

○二月、有三箇國持留竿、增催馬樂邸高二斗三升二勺一撮、

○二十三日、以 仙洞崩御、命禁樂五日、

○是歲、疱瘡流行、

○造奧書院、

○三月、以西之原勘七為與力、加武井清左衛門、

○十二日、中尾死、法諱閑詮院殿妙真日淨大姊、葬

正建寺、禁樂十日、 繼豐公賻白銀三枚、

○廿二日、久瀧母患眼病、久瀧以居喪故、使川上弥

五太夫久福請招佐土原醫根井一庵、樺山主計傳命、

許之、

○四月三日、以時房老罷與聞政事、遣家老平山頭友

上妻真雄贈酒肴及郡内嶋一端・羽二重一疋・羽織

地一端、以謝之、

○四月、以異國船來之候、國老平田靱負・鎌田典膳・

樺山主計・嶋津主殿傳長崎奉行之令、如例、

※五六〇 島津久柄外三名連署申渡書

吳國船入津時分候間、浦々可入念旨、長崎御奉行
被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守候様、
種子嶋江可被申渡候、以上、

四月十一日

平田靱負(正輔)

鎌田典膳(政昌)

樺山主計(久初)

嶋津主殿(久柄)

種子嶋藏人殿

(種子島正統系圖) 十七

○十六日、根井一庵來覺府始謁久瀧、時久瀧贈晒一

端・生絹羽織地一端、妙運亦贈晒一疋、

○根井一庵皈佐土原、故久瀧贈白銀五枚、妙運亦贈

白銀三枚、以謝之、

○二十三日、締方横目澁谷藤左衛門・湯治助七來、

○十一月十七日、皈于覺府、

○二十六日、安置閑詮院殿位牌於慈遠寺本承院、寄

附資堂米一斛、

造塩焔倉于内城、

○二十九日至五月朔日、修自照院殿蓮友日耀大姊三回忌、

○五月五日、締方横目鬼塚猪右衛門・中馬十左衛門 皈國、

○二十七日、獻福多目一壺於 重年公、

○六月、以達平山村百姓次郎左衛門傷油久村之羽生喜三左衛門女之事于官府、嶋津主殿所傳命、事開于左、

○五六一 島津久柄申渡書写

写

種子嶋平山百姓次郎左衛門、右同所油久村之足輕羽生喜三衛門娘、江切付候ニ付申出趣有之、

本文ニ付而者、兼而被 仰渡置候通、自分取計ニ而科目被申付候様可申渡候、

六月

(島津久柄) 主殿

○二十七日、後藤兵衛時庸辞東都皈覽府、

○七月朔日、於浄光明寺月桂院殿法事、久馮與大野七郎太夫役御手長、

○九日、以蝗多令浮屠禳、

○八月朔日、就中馬源左衛門獻太刀・馬代銀一枚、使者平山周右衛門友相、

○十八日・十九日、修日啓大居士七回忌、

○十月三日、向以樺山主計死、嶋津左近久起預聞家事、

○是月、濱津脇漁人修治荒崎之道、得白銀二百八十以聞、賞其修道之志悉與之、

○十一月六日、秋日船三枚帆、船長旁破于赤尾木浦、聞官、

○十二月三日・四日、修日孝大居士七回忌、

○十三日、久馮・妙運到嶋津備中久典之策、行結納之儀、贈太刀・馬代白銀・肴一折・樽酒一荷盛十于備中、太刀・馬代白銀・肴一折・樽酒一荷盛八于

玄蕃備中嫡男、實・肴一折・手樽一梅盛七于織衛備中、吉貴公御子

肴一折・手樽一荷盛十于於袈裟備中息女、於、白銀嘉久君養女

十兩・肴一折・手樽一荷盛十于於真備中、銀子三百
 疋于山澤十太夫、與金子百疋于垂水家老安山三左
 衛門、金子二百疋于年老女兩人、銀四兩于中老女
 二人、又妙運贈肴一折・手樽一荷盛十于備中、肴
 一折・手樽一荷盛七于玄蕃、肴一折・重一組・手
 樽一荷于於銀、肴一折・手樽一荷于於袈裟、肴一
 折・手樽一荷于於真、金子二百疋于山澤十太夫、
 與青銅百疋于家老安山三左衛門、青銅二百疋于年
 老女兩人、白銀二兩于中老女兩人、青銅三百疋于
 於銀女中六人、時備中・玄蕃紗綾各三卷、織衛紗
 綾二卷、於真紗綾二卷贈于久馮、又備中紗綾二卷、
 玄蕃肴代百匹・樽代二百疋、於銀縮緬二卷、於真
 綿二把贈于妙運、又備中金子百疋、於銀青銅百疋
 與于岩野、

○十八日、備中及玄蕃・織衛・於銀來于邸、謝結納
 之賀儀、備中太刀・馬代白銀二枚・肴一折・平樽一荷、
 玄蕃太刀・馬代白銀一枚・肴一折・平樽一荷、織衛肴
 一折・手樽一荷、於袈裟肴一折・手樽一荷、備中

連支中籠飯一組・肴一折・手樽一荷、於真肴一折・
 手樽一荷、山澤十太夫肴一折贈於久馮、又備中與
 金子百疋于家老知覽孫兵衛行孝・平山藤左衛門頭
 友・年老女岩野、青銅三百疋于惣女、久馮贈縮緬
 三卷于備中、紗綾三卷于玄蕃、紗綾二卷于於真、
 金子二百疋于山澤十太夫、金子百疋于年老女三人、
 妙運贈縮緬二卷・籠飯一組于於銀、金子百疋于山
 澤十太夫、金子三百疋于年老女三人、

○二十五日、平山村百姓次郎左衛門坐傷羽生喜三左
 衛門娘、放流于德之嶋、

○二十八日、買比志嶋彦次郎宅地九畦廿步東北界滑
西北界
 道、

○同日、締方横目田代彦右衛門來、

○歲暮、規式、如例、

○寶曆元年辛未正月、規式、如例、

○六日、初狩三組頭肥後善右衛門
内珠右衛門時賢、西村次郎兵衛時影・川
 行種子嶋大九郎時英、平山休兵衛兼當・物奉
 用人上妻助之丞定英、如例、

○十一日、具足祝、軍陣・温坐祈念、的始射手一番美座
諸兵衛・川内

八兵衛、二番上妻嶋右衛門・下村善、如例、
右衛門、三番蛟嶋十八、日高孫六

建望火臺覺府邸、

○十四日、使十郎太夫時方與聞家事、

○二十八日、後藤兵衛時庸為御目附、

○二月七日、命以松平大膳太夫薨、禁樂七日、

○十二日、洪水、田地溝洫多損、

○十六日、久馮初人部也・妙運到、種子嶋權助時有・家老知覽孫兵衛行孝・用人日高七郎左衛門實胤等扈

從、

○每月二日・十一日・二十一日、久馮出于政府、

○十七日、久馮及母堂詣于持佛堂及三箇寺、諸式依

舊、

○同日、前家老平山治右衛門清親・種子嶋權兵衛時

與・上妻九郎左衛門真富・上妻休心隆門・三箇寺

住持見、

○十八日、於廣間諸士見、

○二十一日、三役及諸奉行・諸士之妻女見于奥坐、

與盃酒、

○二十三日、見西町歌舞妓于城内、

○二十四日、赦川内玄樺・遠藤万左衛門・羽生五郎

右衛門・向田新八、

○同日、久馮狩國上山、初射鹿武田休七、

○二十五日、見東町歌舞妓于城内、

○二十七日、賀初鹿於奥坐及廣間三役及諸士侍其席、大開宴與

酒飯一葉、又與上下一領鹿頭割武田休七、

傳糸荷船之令、如例、

○三月朔日、久馮及母堂巡見嶋、

○十日、福嶋船船長小四郎破于馬毛嶋、告官、

○自今歲止遣佳札于本能寺、向寬延二年己巳二月二日以舊例本源

寺日傳贈佳札・白銀于本能寺、時以日傳追放洛中

日傳在洛為本能寺寺吏之日、有與末寺爭論而寺吏等所進洛中、日傳其一入僧、致佳札甚非禮返

却之、本源寺僧徒胥議、以寺吏之名贈之避其責也、

今責日傳往日之過闕舊章、彼却違禮乎、而今而後

三箇寺亦止贈佳札本能寺、

○三月十九日、以油久村足輕羽生喜右衛門強暴、放

流大嶋、

○二十日、見諸士舞樂襲家初到、時舊例、

○二十二日、觀射禮于本源寺弓場、

○四月六日、狩安城村葦野稱小、立、初入部之先躅也、

狩奉行西村文右衛門時勝・平山十郎左衛門兼寬・

申目奉行鮫嶋甚右衛門親方・平山周右衛門友相・

下村惣左衛門時雅・上妻郷太夫真友・山奉行知覽

字平次行村・渡邊勘兵衛兼伯・東八郎右衛門氏包・

川内慶兵衛時茲、詳別記、

○十二日、以野町人長右衛門納錢、嫡子新次郎為西

表郷士、與榎元氏、

○以異國船來之時、國老嶋津主鈴・嶋津主殿傳長崎

奉行之令、如例、

※五六二 島津久柄・島津久郷連署申渡書

吳国船入津時分候間、浦々可入念旨、長崎御奉行

被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固ニ相守候

様ニ種子嶋江可被申渡候、以上、

四月十一日

嶋津主鈴(久柄)

嶋津主殿(久柄)

種子嶋藏人殿

(「種子島正統系図」十七)

○十五日、加與高五斛于川嶋勘右衛門、以妙運甥也、

○五月七日、締方横目大河平原太左衛門來、

○十七日、覽諸士武藝及足輕捕手、與盃師範知覽弥

兵衛鑓流・石黒甫仙示現、鮫嶋孫右衛門・長野初右

衛門水野・流盡于諸士、賞其術種子嶋權助及家老、物奉行・用人侍、

○十八日・十九日、於本源寺修事全院殿日理大居士

二十五回忌、不當忌日以在嶋故也、

○二十二日、觀瀨引船數四十三艘、水手二百七十六人于城濱、諸式由

舊、

○二十五日、與米五包于柳田弥左衛門、詣本源寺宗

廟、常洒掃焉久之事聞達、故賞之也、

○二十八日、官命家老更渡馬毛嶋可監察往來之船、

○六月七日、三箇寺零甲女川、

○二十日、命以 將軍吉宗公薨御、禁營作二十日、

殺生・音樂・遊興・商賈二十二日、月代三日、

○二十一日、太守重年公初入部、

○始置茶道官、令羽生嘉兵衛・遠藤善兵衛・緒方佐平次・高尾野四郎兵衛・吉平庄兵衛・河野源五郎剃髮、

○閏六月八日、以南京浙江船船頭林宏遠漂來屋久嶋、橫

日本田太右衛門欲以小船三十艘護送之于山川、風依不順漂來吾地、即使番船二艘水夫十人・足輕二人

交守唐船、同十一日赴山川、

○十一日、久馮及妙運・種子嶋權助赴覺府、

○同日、締方横目田代彦右衛門赴覺府、

○七月六日、締方日置次右衛門來、

○八日、命鯨嶋意春定日而講書於廣間、歲與米十包、

○十九日至二十一日、以修靈龍院殿法會於福昌寺、

久馮奉命與嶋津頼母役御手長、

○八月一日、就山本五郎左衛門獻太刀・馬代銀一枚、

使者羽生半兵衛能見、

○四日、以太守重年公襲封後初帰國、請枉駕于久

馮第、事見左、

○五六三 種子島久馮芳口上覺

口上覺

御家督初而被遊 御下国候付、私宅江 御光儀、御膳進上奉願候、右ニ付而者御太刀・御馬代・御刀進上仕度御座候、弥被遊 御入被下候者、家作修覆等仕相濟候節、首尾可申上候、此旨被仰上可被下儀奉願候、先祖代々

御光儀被遊候儀、為御見合別紙差出申候、以上、

八月四日

種子島藏人

○五六四 種子島久馮芳久覺

覚

②先祖代々種子島江居住仕候處、拾七代祖種子嶋左近太夫御當地江引越被仰付、無役ニ罷居候処、寛永拾三年七月十九日、家久様被遊 御光儀、正保元年四月十三日、光久様同人無役之節、被遊 御光儀候、

③寛文三年十二月十一日・同四年四月四日、綱久様

曾祖父種子島藏人宅江無役之節、被遊 御光儀候、
②同四年六月三日・同五年三月十五日、 光久様藏

人無役之節、被遊 御光儀候、

③綱貴様御代ニ茂 御光儀為奉願苦候得共、委細之

書留先年類火之節、焼失仕候ニ付、相知不申候、

段々書留も種子島江召置候間相記、追而可申上候、

一元禄八年九月廿四日、 吉貴様藏人宅江 御光儀、

一宝永四年十二月四日、 吉貴様同人宅江 御光儀、

一同七年閏八月廿五日、 吉貴様彈正宅江 御光儀、

一正徳元年九月廿二日、祖父種子嶋彈正代八朔進上、

向後直馬進上被仰付候、依之正徳三年九月廿七日、

吉貴様彈正宅江被遊 御光儀、

一享保九年八月廿三日、 繼豊様彈正宅江 御光儀、

一亡父種子嶋彈正代、元文三年、万石以上之御取

分を以、乘輿迄茂

御免被仰付候、右ニ付而茂 御光儀奉願存念ニ而

罷在候処、 隅州様御滞府故、是又差扣罷居候、

彈正事、延享元年病死仕候、

一同二年丑正月、私江繼目被仰付、卯年 慈徳院様

被遊 御帰国候付、 御光儀之願申上度存念ニ而

御座候処、其砌何方江茂 御光儀不被遊旨承知仕

候付、無是非御願申上儀差扣罷在候、

一曾祖父種子嶋藏人依願御家老御役被差免候、同日

祖父彈正江御家老御役被仰付候、無役之節 御光

儀奉願候間茂無御座候、

右之通為御見合、文書拔書差出申候、以上、

八月四日 種子嶋藏人

右者、八月四日北條十左衛門ニ而差出、御用人

川上弥五太夫被受取置候、

○五日、命到今年冬檢嶋中持留高・新仕明地・古荒

起地腴薄宜定税、

○十七日、以今年早魃・大風・痘疹流行等故、請緩

檢地之期、九月命以來歳申秋宜檢地、肥後平左衛

門傳之、

○九月九日、締方横目川上次右衛門来、

○晦日、歲與米五石於肥後善右衛門、以贍其貧、

○十一月三日、見改元寶曆、

○十二日、安城村足輕德永彦佐・同氏休左衛門・水

手孫六・彦左衛門・百姓孫七・塩屋者善兵衛、乘

小舟釣洋中被放西風、不帰、事達官、

○二十日暁、後藤兵衛時庸死、葬正建寺、法諱本覺

院日性居士寛府邸、三日慎、

○同月、許枉駕之請、國老傳命、見于左、

○五六五 島津久郷申渡書写

写

種子嶋藏人

右者、御家督初而就 御下国 御光儀、御膳進

上并御太刀・馬代・御刀進上仕度旨、段々申出趣

有之、願之通來春中可被遊 御光儀候、進上物之

儀者當時之儀候間、此節者御太刀・馬代進上被仰

付候、家作修覆等相濟候ハ、首尾可被申出候、

此旨申渡、首尾係江茂可申渡候、

十一月

(島津久郷) 主鈴

○歲暮、規式、如例、

○寶曆二年壬申正月、規式、如例、

○六日、初狩三組頭西村文右衛門時勝、日高七郎左衛門實員、美座藤助、名代家老知覽才兵衛行徳、物奉行

西村甚五右衛門時香、如例、
用人羽生半兵衛能堅

○十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座六郎、二番下村善右衛門・岩川理兵、川内衛、三番日高孫六、八板孫左衛門、如例、

○以賞臨之事、國老主鈴傳 命、見于左、

○五六六 島津久郷申渡書写

写

種子嶋藏人

右者、御光儀ニ付、家作者勿論可成程修覆并敷

替等不致、嶋臺・奈良臺無用、御膳部之内珍物不

相用、去冬 御巡見之節、於諸所御膳進上之通、

都而輕く被仰付候、

右之通可相逢候、

正月

(島津久鐘)
主鈴

○同日、賀見許 御光儀、三役名代西村次郎兵衛時影、諸奉行・諸士名代中田伊右衛門赴覺府、

○二十八日、縮方横目日置次右衛門坂、

○二月六日、縮方横目山崎七左衛門来、五月二十二

日、為屋久嶋締方直赴彼地、

○九日、久馮娶嶋津備中貴備之嫡女名於銀、有別記、

○二月、三役名代美座藤助寄用人・諸奉行・諸士名代

河内八兵衛到覺府邸賀婚禮、

○二十一日之夜、下西之表平助殺害同所足輕小川定

兵衛養母、即囚獄以聞官、

○二十四日、下西之表榎元源兵衛坐狩安城山盜猪之

事、追放于中之村、

○同日、婦人登 城、獻鯛一臺・角樽一荷於 重年

公、賜目錄及酒盃、亦獻肴代金子百疋・樽代金子

二百疋于 重年公夫人、鯛各一臺・角樽各一荷于

繼豊公及於嘉久君・信證院君・於栄君、即信證院

君・於栄君・於嘉久君賜肴一臺・樽一荷於久馮及妙運、賀婚禮也、

○四月、以異國船来之候、國老鎌田典膳・嶋津主鈴・

義岡相馬・伊勢兵部・嶋津主殿傳長崎奉行之令、

如例、

※五六七 島津久柄外四名連署申渡書

吳国船入津時分候間、浦々可入念旨、長崎御奉行

被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固ニ相守候

様ニ種子嶋江可被申渡候、以上、

四月十一日

鎌田典膳(政昌)

嶋津主鈴(久那)

義岡相馬(久中)

伊勢兵部(貞起)

嶋津主殿(久柄)

種子嶋藏人殿

(種子島正統系図) 十七

○四日午時、太守重年公光臨于邸早登城奉問、伊勢

兵部・鎌田典膳侍座、獻御膳先例三汁七菜、以有可及減省命、獻二汁五菜、太刀一腰・馬代銀二枚、奏者伊集院十藏、公賜

白銀二枚、御盃於久馮、奏者嶋津小平太、而后與

力武井清左衛門・西之原勘七・家老知覽孫兵衛行

孝・物奉行西村淺右衛門時以・用人西村文右衛門

時勝・種子嶋大九郎時央・種子嶋三左衛門時利・

取次番日高文左衛門實本・平山藤太夫友相・渡邊

勘右衛門縁拜謁、公入于小座、婦人獻金子三百

疋賜御盃、妙運獻金子百疋賜御通、嶋津備中久

典・嶋津玄蕃貫澄・嶋津出雲久定母・嶋津將監久

起妻女・北郷權五郎久富母獻重各一組、北條十左

衛門(ト)・金子百疋、一類男女獻籠飯一組、除久典

・貫澄皆賜御通、既而申時 公坂城、即久馮登

城就御近習役、拜謝光臨之辱、

○十二日、賀 御光儀、三役使者前田六郎右衛門盛

容、諸奉行・諸士使者遠藤壯兵衛季通赴覺府邸、

○十五日、洪水、下之郡田地多損、

○十七日、締方横目山崎七左衛門傳糺明奉行所之命

曰、種子嶋締方可姑罷之、若監察船出入則家老莫
敢忽之也、

○二十七日、以 公光臨、依舊招國老嶋津主鈴(ト)、

鎌田典膳 若御年寄嶋津内記 大目附高

橋縫殿 寺社奉行嶋津十太右衛門 勘定

奉行三崎文太夫 御側用人福山平太夫

表御用人基太村助左衛門 町奉行山澤十太夫

御近習伊地知新太夫 饗應焉、

○五月二十三日、嚮野非人長之助有罪囚獄、病死干

獄中、事達官、

○二十八日、龜之助獻 重年公太刀一腰・馬代銀一

枚、奉謝為後藤兵衛時庸後嗣、同日改名四郎助、

○六月九日、四郎助時良被補代々小番、國老嶋津主

鈴久郷以肝付彈正被傳 命、

○歲飢、

○七月九日、上妻彌五七為嶋津因幡(ト) 家臣、

○八月一日、就東郷長左衛門(ト) 獻太刀・馬代銀一

枚、使者西村淺右衛門時以、

同月、納小普請銀五貫三百六十九匁九分余以三年之分割、已來、六年納之、

○十日、大風、覺府邸望火樓倒、

○十二日、締方横目吉井圓右衛門・津曲助左衛門・

川上郷次郎・猿渡新右衛門來、

○十一月八日、締方横目津曲助左衛門病歿覺府、

○十一日、屋久嶋船破于馬毛嶋、事聞官、

○十四日、妙運永照院久馮姉、嶋津左衛門久到、寺尾仁甫婦人、出雲久定母也、

太兵衛出雲家來・田鍋惣仙同、從永照院來、

○十五日、山縣洞雲為郡山衆中、

○十二月八日、家老知覽孫兵衛行孝病死于覺府、

○二十六日、久馮出婦人、見于左、

○五六八 川上源五太夫・嶋津市太夫連署

口上覺

口上覺

種子嶋藏人江御見合を以、嶋津備中殿娘縁与被仰出、婚姻相整候処、不縁ニ而縁中難遂旨申候ニ

付、親類中差寄、折角吳見相加候得共、何分ニ茂

縁中難遂由申候間、離別御免被仰付被下度奉願候、

此等之趣を以被仰上可被下儀奉頼候、以上、

嶋津備中殿親類
嶋津市太夫

申
十二月廿六日

種子嶋藏人親類
川上源五太夫

(表紙)

寶曆三 同十一	種子嶋家譜 久芳	二十一代 十六
------------	-------------	------------

寶曆三 同十二	種子嶋家譜 代久芳	二十一 十六
------------	--------------	-----------

十六

寶曆三年癸酉正月、規式、如例、

六日、初狩名代家老平山藤左衛門顯友、用人西村次郎兵衛時影、物奉行西村清兵衛時

時章・種子嶋三左衛門、如例、
時利・鮫嶋甚右衛門

十一日、具足祝、軍陳・温座祈念、的始射手一番美座

八兵衛、二番下村善右衛門・岩川理兵衛、如例、
三番鮫嶋直右衛門・八板平太右衛門

二月十日、平山村濱田浦水手藤次郎・中之村百姓

孝右衛門坐犬神害人、遠流于德之嶋、

三月、中之村鮫嶋權右衛門養子藤之助坐養母縊死

時不修葬不居喪、流于大嶋、

官 命賦諸民銀一分五厘、

莖永村百姓次郎右衛門坐強暴濫妨鄉里、流于沖永

良部嶋、

官 命禁造十六反以上船、

四月十二日、以異國船來之時、國老平田靱負・鎌

田典膳・伊勢兵部傳長崎奉行之令、如例、

※五六九 伊勢貞起外二名連署申渡書

吳国船入津時分候間、浦々可入念旨、長崎御奉行

被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守候様

ニ種子嶋江可被申渡候、以上、

四月十二日

平田鞆負(正輔)

鎌田典膳(政島)

伊勢兵部(貞起)

種子嶋藏人殿

(種子島正統系四「十八」)

廿一日、永照院及妙運赴覺府、

廿二日、貶遠妙寺僧宣長坊、為國上村湊塩戸樵夫

先是有、
罪囚獄

千妙院日印辭本源寺、

五月四日、改久瀧號久方、

八日、締方横目中村源左衛門・鎌田平左衛門・鷲

頭善八・岩元嘉右衛門来、

九日、能野之次兵衛賞陶冶之功、與能野之氏為足

輕、

同日、家老美座七郎右衛門(ア) 致仕、

同日、種子嶋大九郎時央為家老、

十五日、種子嶋千九郎死于大坂、法号即行院日聞、

十五日・十六日、修究竟院殿日等大居士十三回忌

於本源寺、國老傳長崎奉行禁私商唐貨令、事記于左、

○五七〇 大橋親義・菅沼定秀連署達書写

(五七〇の二) 写

拔荷之儀、前々より稠敷逐吟味候得共、今以不相止、近比者申合、沖ニ而荷物請取候事有之候、過分之賃錢取候事故申候段、甚不屈候、此後拔荷之儀相頼候者於有之者、其荷物直ニ長崎表御役所江持參、被頼候様子於申出者、申合候咎を免候上、右荷物不殘其者江可為取候、

但拔荷預り、又者持はこひ候もの、荷物持參り於訴出者、是又荷物不殘可為取候、

一拔荷いたし候頭取召捕へ訴出候者於有之者、急度褒美とらせ、たとへ前々拔荷之致手合候ものたりとも其科を免し、あたをなさゝる様可申付候、

一唐人より日本人江荷物相渡候手しるし遣之相頼候ハ、右之段早々可申出、吟味之上急度褒美可為

取候、

右之趣、急度可相守者也、

西六月

(菅野定秀)
下野
(大橋親義)
近江

(五七〇二)
写

拔荷筋之儀ニ付、此度別紙書附之通申觸候間、薩摩守殿御領内津々浦々之者迄、右書付之意味得与吞込候様、御觸渡有之候様可被致候、以上、

西六月

(五七〇三)
写

諸所 地頭 領主 月番御用人
町奉行 御船奉行 屋久嶋奉行

此度長崎御奉行より別紙被仰渡拔荷之儀ニ付而者、先年以來被仰渡置趣、兼而稠敷申付置事候得共、此節之儀者、分而被仰渡事候間、末々之者迄、得と承知仕、猶以堅固相守候様、可被申渡置之旨可申渡候、

六月

(伊勢貞起)
兵部

(義岡久中)
相馬

(鎌田政昌)
典膳

(平田正輔)
靱負

(市米政方)
左中

十七日、大風、嶋中倒家七軒、破家五十五軒、告官、

廿二日、以西村清兵衛時陽為家老、羽生半兵衛物奉行、

七月十四日、久芳被補番頭、同十五日、就桂太郎兵衛久中獻太刀一腰・馬代銀一枚、奉謝之、

廿一日、以日高喜哲為小頭、賞三十年余勤仕于寔府也、

八月一日、以西村次郎兵衛時影獻太刀一腰・馬代銀一枚、奏者鯨嶋次左衛門、

四日、久方代 重年公詣于福昌寺、自今歲復贈佳札于本能寺、向寶曆元年有故止之、

然以彼悔先非數謝之也、

廿三日、向田新八以為嶋間浦之太七所罵辱故殺害之、事達 官令納錢四百贖之、文

九月、將軍家命高萬石以上者萬石貯穀千俵云圓、規

廿四日至廿六日、修金山院殿日翁大居士二百五十遠忌於本源寺、

十月、尾・濃・勢三國之大河、水道埋塞、堤堰潰

溢、重年公受 台命、大興役修治焉、因久芳自

今歲以往獻高三百石之租稅、以補焉大家各由祿、多少有差

十日、締方横目市來休右衛門來、

廿七日、礫中之村百姓七助・西之表百姓平助于能

野濱七助者殺子、平助者盜、小川貞兵衛布殺其母

十二月朔日、以千九郎無嗣子故、得許以小林仲太

兵衛二男十四郎贅婿于其妹継家、

六日、締方横目市來休右衛門歸、

十三日、上妻源左衛門政舉獻餅云斗搗、之餅、自先祖稱

寺田氏、以家格歲有是式而中絶、自今年請而如故、

廿七日、改久方号久芳、

歲暮、規式、如例、

寶曆四年甲戌正月、規式、如例、

六日、初狩組頭上妻助之丞定英、野間仲左衛門秀行・平山傳子嶋平内時雨、用人、右衛門友相、名代家老西村清兵衛時陽、物奉行種日高七郎左衛門實員、如例、

十日、令誕生日祈禱以正誕生日、熊野代參以正月、

五月・六月・九月、而止月並、

十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始一番美座諸兵衛、右衛門時利、二番上妻嘉藤次・岩川嘉、兵衛、三番鮫嶋治兵衛・八板孫左衛門、如例、

同日、久芳被補于日州諸縣郡綾地頭職、國老伊勢

兵部貞起傳 命、到國老・若年寄・大目附及御用

人桂太郎兵衛第申謝、

久芳代 重年公詣薩州花尾権現・郡山一之宮大明

神、

二月二日、重年公夫人薨、号智光院殿心顔宣鏡

大姊、

三日、締方横目山田弥右衛門・鷲頭善八・上別府

半藏歸、時 命暫見止締方横目、

十一日、久芳娶新納四郎久主女号於、家老・物奉

行・用人名代上妻郷太夫隆安、諸奉行・諸士名代

落合嘉左衛門賀之到覺邸、

十四日・十五日、修世雄院殿日尊大居士三十三回

忌于本源寺、

二十一日、國老伊勢兵部傳 公命、令嶋津出雲久

定母永照院還于久芳亭、如左、

○五七一 伊勢貞起達書

島津出雲母事、種子嶋藏人方江引取候様ニ被仰附候、今程互之出入文使等無用ニ被仰付置候、右之旨出雲・藏人江申聞、引取候様可致旨 御意候、

二月

(伊勢貞起)
兵部

右之通、二月廿一日於梅之間末ニ

御意候趣、二階堂林左衛門取次ニ而、種子嶋

十郎太夫承知、

○閏二月十五日、就嶋津直衛久中獻太刀一腰・馬代

銀一枚、謝地頭職、

太守公以奉 台命浚尾・勢・濃之川、預所計算之

費金及三十萬兩、故賦無祿者及牛馬各銀一匁、船

自八反帆至二十三反帆反八匁、自五枚帆至七反帆

反五匁、自四枚帆至橋船・川平太帆反二匁、

二十日、札改檢使丸野彦右衛門・相良長兵衛來、

廿九日、始建山奉行座先是以高、奉行兼之

三月十九日、以大雄院日近為本源寺、

四月二日、永照院及妙運到、

四日、有糺明所之令、以緒方助右衛門及足輕二人

送中之村百姓七助妻于覺邸、

十三日、以異國船來之時、國老鎌田典膳・新納内

藏・義岡相馬・伊勢兵部傳長崎奉行之令、如例、

※五七二 伊勢貞起外三名連署申渡書

吳国船入津時分候間、浦々可入念旨、長崎御奉行

被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守候様

ニ種子嶋江可被申渡候、以上、

四月十三日

鎌田典膳(成昌)

新納内藏(久忠)

義岡相馬(久忠)

伊勢兵部(貞起)

種子嶋藏人殿

(種子島正統系圖) 十八

五月一日、修自照院殿七回忌于本源寺、

御用人座傳系荷船之令、如例、

廿五日、古田村彌三右衛門父子以犬神障碍於人且

於所々竊盜、囚獄、

六月廿六日、妙運赴覺府、

以目附座之令、録種子嶋田地・戸口惣計、諸士・

足輕・寺社多少及俸祿、丁夫百姓及浦、至覺府路程、

達官、

見改分銅、

八月一日、就岸半藏獻太刀一腰・馬代銀一枚、使

者上妻郷太夫隆安、

四日、重年公達 台聽、以 善次郎公為嫡子、

改名又三郎忠洪公、

十五日、以西村次郎兵衛時影為物奉行、

十六日、締方横目川俣清右衛門・鳥丸次兵衛・山

中喜右衛門・坂元覺之助來、

九月二日、智光院殿御遺髮至于覺府、久芳與大野

權太夫役御手長、

十八日、宗門手札改檢使丸野彦右衛門・相良長兵

衛尉、

十一月九日、令羽生五角右衛門・遠藤太左衛門學

鑑製作之法于覺府鹿嶋氏、

以大目附・一所持・一所持格・寄合・寄合并一列、

獻二種・三百疋、奉賀 忠洪公為嫡子、

歳暮、規式、如例、

寶曆五年乙亥正月、規式、如例、

三日、於江戸獻 重年公・忠洪公太刀各一腰・馬

代銀一枚、

六日、初狩三組頭平山十郎左衛門兼寛、前田六郎右衛門盛容、

物奉行羽生半兵衛能見、如例、
用人平山周右衛門友相、

十一日、具足祝、軍陳・温座祈念、的始射手一番美座五藤右衛門。

川内八郎右衛門、二番下村孝十郎、西村孫左、
衛門、三番鯨嶋直右衛門、八板平太右衛門、如例、

十七日、久芳代 重年公詣野間權現宮、

二月十三日、締方横目川侯清右衛門・山口喜右衛
門・鳥丸次兵衛・坂元覺之助歸、

放國上村日高五郎・古田村百姓彌三右衛門于徳之
嶋、石黒太兵衛下人利七・古田村百姓萬六于沖永
良部嶋、各以放逸也、

十五日、築立於安城村芦野牧 天和三年所蕃畜之馬、舊
雙無鬣、風土之令然者、
歎、然異乎平生之馬

見改貞享曆稱寶曆甲戌元曆也、

三月、大山源助携妻子往屋久嶋營生業、時乘高洲
之太郎右衛門船、將趣寔府、繫船於馬毛嶋拾屋久
嶋之材 平木
完料、發馬毛嶋逢難風破船坊之津、事達官
即被捕、

四月廿三日、以西村浅右衛門時以為家老、西村文
右衛門物奉行、

以異國船來之時、國老鎌田典膳・嶋津主殿傳長崎
奉行之命、如例、

※五七三 島津久柄・鎌田政昌連署申渡書

吳国船入津時分候間、浦々可入念旨、長崎御奉行
被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守候様
ニ種子嶋江可被申渡候、以上、

四月十一日

(金目)
鎌田典膳

(久柄)
嶋津主殿

種子嶋藏人殿

(種子島正統系圖) 十八

五月十五日、家老平山休兵衛兼當致事、

廿六日、大山源助被救圍圍、六月朔日、出奔自寔

府邸、

六月、以 重年公不豫故 命可祈禱、

十六日、重年公薨於江府芝邸、法諱圓徳院殿覺

滿良義大居士、

十八日、以 忠久公正忌日、久芳代 忠洪公詣淨

光明寺廟、

七月三日、應 命使三箇寺祈禱 重年公疾病、而

獻卷數、桑山孫七及足輕一人宰領之 蓋計音、
未達也、

十三日大風、至十五日止、多損壞田畠、破船一艘、
倒家廿六、損家百廿七、事達 官、

廿三日、知鏡院有罪、繫牢、

廿七日、使種子嶋大九郎時次續惠時二男武藏守時
式家系、

※五七四 種子嶋久芳覺

覺

種子嶋大九郎

右、十三代惠時様御二男武藏守殿家筋致断絶居候
故、右家筋相續大九郎江申付候間、此段十郎太夫
殿江茂申達置、大九郎江申渡候様ニ可申越候、

藏人

亥七月廿七日

(「種子嶋正統系圖」十八)

八月一日、以 圓徳院殿喪、止獻太刀・馬代銀、
八月三日、上妻市郎左衛門有故為庶人、放中之村、
五日、締方横目伊集院瀧右衛門・坂口次郎右衛門

来、

久芳以家格請獻納祭文・野調經於 圓徳院殿之牌
前、被免之、國老嶋津主殿傳 命、

廿一日夜、葬 圓徳院殿于福昌寺、令本源寺大雄
院及衆僧十一人・阿禰院・蜘蛛院・大廣院・源廣坊・自運坊
院・大會寺僧光 野調經、
照院・啓運坊

二十三日、被止納三百斛御加勢米、帖佐組代官傳
令禰寬延二年己巳十月、請五个、
年以高三百石贖公資、故及此、

同日、以西村員右衛門數年扈從久芳、又傳受馬醫
術、故與高三石為小頭、

廿四日、大風、倒家廿六、

廿五日、久芳與嶋津小平太役御手長、

同日、令僧侶十三人本源寺大雄院及阿禰院・大廣院・蜘蛛
院・光照院・遠壽院・源廣坊以上七人
直續七条、自姓坊・自運坊・信敬坊・啓運
坊以上四人素絹五条、文了・真了直續五条、坐調經、

○五七五 本源寺等諷經次第

焼香

讚

本源寺
大廣院

鉞双

自姓坊

鏡

自運坊

金

源廣坊

自我偈一返

神力品訓讀

題目三返

此經難持

以要言之

右畢而各退去、

武井清左衛門辭用頼役、遺米謝之、

二十八日、久芳詣福昌寺 圓德院殿神位前 獻祭文、

其儀獻御靈膳五及祭文 久芳捧之出座中央、阿彌院執之備神位前、本源寺獻箸 本源

寺奠茶行香、尋久芳行香、本源寺取所備之祭文奉

久芳、久芳拜戴與隆興寺讀之 讀到臣平久芳、久、終而

久芳即下座 時衆僧誦神力品一返、題目五返、此經難持以要言之、 撤御靈膳如始、

而各退去 野諷經、座諷經、及、此時賜布施、各有差

○五七六 種子島久芳祭文

祭文

維時寶曆五年乙亥夏、吾

邦君圓德院殿故從四位下左近衛少將薩隅日三國主

兼領琉球國覺滿良義大居士、罹病醫藥禱爾無驗、

六月十六日戊午、終易質於江府之館邸、於此奉殯

靈柩於玉龍精舍、以八月二十一日壬戌、恭規前例

浮屠之法、而以奉闡維、茲臨中陰之日、家臣平久

芳不忍哀憫之至、命采邑之梵侶、敬備蘋蘩之微供、

以奉致祭於 尊靈之幃下、敢告以文、其辭曰、

嗚呼哀哉

維嶽降靈 天產賢良 三州封候 殊光列將

寬柔以教 實南方強 蘭孫惠子 松茂柏芳

仁政鴻基 千歲彌昌

嗚呼哀哉

今茲何歲 此告不祥 龍髯難攀 仰望彼蒼

黃鳥可贖 百身誰當 竊量壽筭 地久天長

薤露忽殞 吾心欲狂

嗚呼哀哉

邊海沐寵 恨恩難償 甘棠餘愛 沒世不忘

招魂蓋返 空慕黃壤 恭陣俎豆 恪傾心腸

神其有明 垂鑑靈場

嗚呼哀哉 ⅴ⑩尚饗△

(本文書ハ「旧記雜錄追録五」一六九三号文書トホボ同文ナリ)

廿九日、久芳與肝付彈正役御手長、

以將軍之命、每高壹斛出米一升三合、代西年之

貯穀、

九月廿四日・廿五日・廿六日、公祭 圓徳院殿

於福昌寺、久芳役御手長、

同日、鮫島彈右衛門以筆筭之功為高奉行、

十月一日、久芳代 忠洪公詣隈之城・市來・伊集

院之諸寺、

六日夜、國上村假屋火、

梶原助六從權左衛門時庸於江戸、有故以大廻船送

覺府、於神奈川逃亡、

廿日、破臺所船為載平木在於屋久嶋於屋久嶋宮之浦川口、遣

船奉行一人及船頭等辨事、

十二月八日、妙運死於覺府邸、法号清心院妙運日

詮大姊、

十三日、永照院弔妙運赴覺府、

同日、緋方横目伊集院瀧右衛門・坂口次郎右衛門

歸、

十七日、坂井村熊野浦漁舟水手六人到安城村川脇、婦

路逢逆風流亡、事達 官、

歲暮、規式止、以妙運喪也、

寶曆六年丙子正月、久芳居喪、止年始之規式、

廿八日、將軍命可納戊年貯穀覺府、國老傳之、

晦日、信證院君逝去、号信證院殿壽國總宗元持

大禪尼、

同日、行歲暮規式、

二月二日、行歲旦之儀、

六日、初狩三組頭平山藤太夫友精・日高七郎左衛門實員・川内珠右衛門時實・名代家老西村淺右衛門時次、物

奉行西村次郎兵衛時彰、如例、
用人岩川十右衛門時章

十一日、具足祝、軍陳・温座祈念、的始射手一番美座諸兵衛、川内八兵衛、二番下村猪左衛門・西村治右衛門、如例、三番日高五左衛門・八板孫左衛門

十五日、與具足一領於日高文左衛門實本侍久芳左以師加藤權兵衛得天眞流劍術・竹之内流組討之傳為諸士之師範也、

同日、與諱字於上妻七兵衛眞雄改時雄、賞數代勤勞也、

以官命點察野牛馬之員數馬三百十二疋達于官、

十五日、松下孝兵衛坐為船頭於屋久嶋怠惰破船、

寺入九十、水手科錢三百、

十八日、贈鳥目三百疋于本能寺、以開山堂破壞、

勸化于寺檀故也、

同日、修清心院百箇日于本源寺西之坊、

廿三日、國老傳 將軍之命免貯穀、而以酉戌兩年

之貯穀、給 太守公浚川之役、

莖永村林八與林之氏為足輕、以為永照院之僕也、

四月朔日、移用人座於高奉行所、別建高奉行所用初

人座今、番所也、

五日、加與扶持高一石于足輕鮫嶋諸右衛門、以為捕手師範也、

十二日、以異國船來之時、國老高橋縫殿・鎌田典膳・嶋津主殿・嶋津圖書傳長崎奉行之令、如例、

※五七七 島津久亮外三名連署申渡書

吳國船入津時分候間、浦々可入念旨、長崎御奉行被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守候様、

種子嶋江可被申渡候、以上、

四月十二日

(種也)高橋縫殿

(金昌)鎌田典膳

(久勢)嶋津主殿

(久光)嶋津圖書

種子嶋藏人殿

(種子島正統系四) 十八)

○二十日、以大猷院殿・有徳院殿正忌日、久芳代

重豪公詣南泉院、

○五月五日、以 靈龍院殿正忌日、久芳代 重豪公

詣福昌寺廟、

國老嶋津主殿傳令國上村保正名越仲右衛門・浦田

浦長右衛門・與市郎・佐平次之男及女出罰錢名越

五十文・長右衛門一貫文・與市郎二貫文・佐平次子二百五十文、先是長右衛門、父三之助

死之後、其母嫁阿州佐平次者、生男子二人、偽為

三之助子、受宗門手札、事覺、名越坐為村長法令不

嚴、長右衛門坐使其母嫁他、與市郎坐固其伍而與

知此事不告、佐平次子坐偽三之助及此、

八日、檢使肥後與兵衛自屋久嶋來點察船、六月六

日歸、

以 重豪公幼年、幕府御目付京極兵部(マ)・青山

七右衛門 來覺府、此時久芳贈太刀・馬代銀一

枚於京極・青山、

廿五日、將軍命檢察三个國中寺社家及門前・山

伏、

七月一日、被修月桂院殿十三回忌於淨光明寺、

久芳為席詰、

以御目附下國、久芳與北鄉民部(マ)・伊勢兵部

以火消之備、交々廻府中、

十二日、永照院到會日高文、左衛門宅、

十八日、三个寺零于鴨女川、

廿二日、以覺府令使田上孝兵衛・武田彦九郎及足

輕二人送阿州平吉・佐平次于志布志、與青銅二百

疋、

廿九日、遷清心院位牌於位牌所、

八月一日、以種子嶋平內時甫獻太刀一腰・馬代銀

一枚、奏者福山平八左衛門、

五日、以 靈龍院殿忌日、久芳代 重豪公詣福昌

寺廟、

同日、赦大嶋流人油久村足輕羽生喜右衛門、

七日、公饗應上使京極青山于大乗院、時久芳為大乗

院定火消、故遣家士備火、

十四日、締方橫目鶴丸甚右衛門・宮內勘左衛門來、

九月十六日、以覺府命檢點一嶋之牛馬、

十六日、中之村與西之村諍論其經界、故使家老・

物奉行・用人・郡奉行檢察之、與證書于村吏、

十月十一日、中之村百姓八十一人結黨與村吏爭論、拷問之、其魁首半五兵衛・綱右衛門・長七・孫六(幸九)、為塩屋樵夫、妻子等收拏俗云揚者、其出錢購罪、二十四日、赦榎元源兵衛向放中、十一月三日、京極・青山發覺府東行、潤十一月四日、久芳及婦人・四郎助時良到、十三日・十四日、修清心院一周忌于本源寺、十六日・十七日、修誠諦院殿十三回忌于本源寺、十八日・十九日、修法運院殿十三回忌于本源寺、十二月十五日、久芳出役所聽政事、十六日、緋方横目鶴丸甚右衛門歸、歲暮、規式、如例、寶曆七年丁丑正月、規式、如例、元日、於奥座喫苜蒲茶、同日、國上村獻野老、如例、同日、本源寺社參、太刀之役(西力)南村員右衛門、同日、家老・物奉行於奥書院謁久芳及婦人、而後久芳出廣間、賜順益于家老・物奉行・用人、流盃

於諸奉行・諸士、二日、三ヶ寺及妙久寺・妙泉寺・妙法寺・滿徳寺、獻品物如舊以下、同日、覽馬廣間庭上、同日、國上村及現和村獻海物、如例、同日、久芳及婦人詣于三个寺、四日、上之郡庄官・小觸獻品物、如例、五日、隨先規久芳及婦人詣大會寺、題浦霞以詠和歌、四郎助時良及平山藤左衛門頸友・西村浅右衛門時以・種子嶋鄉兵衛時央・西村次郎兵衛時影・住持日瑞・鮫嶋意春・田上喜兵衛侍坐、六日、初狩、久芳・四郎助登山、家老上妻七兵衛時雄、物奉行西村文右衛門時勝、用人前田六郎右衛門盛容、三組頭一番平山周右衛門友相・二番肥後善右衛門(マ)・三番牧庄左衛門胤清、夕狩場之規式、如例、七日、中之郡・下之郡庄官・小觸獻品物、如舊以下之敷、

八日、久芳及婦人詣于慈遠寺、題梅以詠和歌、四郎助時良・平右衛門時庸及平山藤左衛門頭友・上妻七兵衛時雄・西村文右衛門時勝・住持日稽・鮫嶋意春、田上喜兵衛侍坐、

十一日、蓮勝寺及諸寺獻品物、如舊以下、

同日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座織右左衛門時紀、二番鮫嶋太左衛門行哉・下村孝十郎時定、三番羽生拓右衛門・八板孫左衛門安置、久芳手自賜目錄于射手、如例在覺城家、老代之、

十八日、西村員右衛門寺入五十日、坐於狩場獵放鉄炮、

廿日、久芳及婦人詣于本源寺、題鶯以詠和歌、四郎助時良及平右衛門時庸・平山藤左衛門頭友・前田新五兵衛盛昌・大雄院日近・鮫嶋意春・田上喜兵衛侍坐、

廿一日、許大乘院火消、國老樺山左京傳命、廿五日、召本源寺・慈遠寺・大會寺妙久寺以疾辭焉・妙法

寺于廣間、題柳以詠和歌、平右衛門時庸代久芳、家老上妻七兵衛時雄・用人日高七郎左衛門實員・

岩河十右衛門時章・上妻小左衛門定英・前田六郎右衛門盛容侍坐、

二月八日、締方横目宮内勘左衛門歸、

三月六日、觀射于本源寺弓場、與盃酒于用人及師範日高平六・田上喜兵衛、滴酒于射手、

八日、覽諸士武藝及足輕捕手、

十九日、河内清八有故流于冲永良部嶋、

廿三日、久芳及婦人・四郎助時良詣慈遠寺、拜戴

經于神前、禱爾渡海綏和云首、途、

廿五日、納文銀百五十八匁四分、千石以上高役番

所從亥七月至子六月資用也、

同日、奉命納船出銀二貫七百八十匁、以給尾・勢・濃浚川之役、

二十六日、本隆寺火、

四月五日、久芳及婦人・四郎助時良赴覺府、家老

平山藤左衛門頭友從焉、

十二日、奉命令無祿者共計百五十二人出銀各五分

十五日、以異國船來之候、國老鎌田典膳・義岡相

馬・樺山左京・嶋津主殿傳長崎奉行之令、如例、

※五七八 島津久柄外三名連署申渡書

吳国船入津時分候間、浦々可入念旨、長崎御奉行被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守候様、種子嶋江可被申渡候、以上、

四月十五日

鎌田典膳(辰昌)

義岡相馬(久中)

樺山左京(久智)

嶋津主殿(久柄)

種子嶋彈正殿

(種子島正統系圖「十八」)

同日、田上喜兵衛以傳受日置流射於東郷四郎左衛門、為諸士之師範、與扶持高三石、

同日、以函人之功、與扶持高三石于羽生五角右衛門、

六月六日、雫子鴨女川、

十二日至十六日、於福昌寺 圓徳院殿三年回忌法

事、久芳役御手長、以社奉行・勘定奉行・番頭・組頭・一所持格・寄合一列、獻青銅五百疋於圓徳院殿牌前、

十五日・十六日、修究竟院殿十七年回忌于本源寺、七月七日、以有 淨國院殿之施餓鬼、久芳代

太守重豪公詣淨光明寺、

同日、造營新室令永照院居之、附屬高三百石、準

池之上例池之上者十八代久時之姉也、

二十三日、久芳女子生名於、増、

二十七日、四郎助時良元服、久芳加冠、權左衛門

時庸理髮、

八月一日、就平田休太夫獻太刀一腰・馬代銀一枚、使者羽生半兵衛、

五日、以 靈龍院殿正忌日、久芳代 重豪公詣福

昌寺廟、

九月二日、以 智光院殿忌日、久芳代 重豪公詣

福昌寺廟、

國老鎌田典膳傳 命曰、嚴禁盜屋久嶋之材不止、

彼地隣種子嶋久芳宜檢察領内也、

紀伊宰相夫人稱富逝去、停樂三日、

紀伊大納言薨、停樂七日、

十月五日、流人長崎麴屋町斧右衛門病死、達于官、

二十八日、緋方横目色紙文右衛門・田代伊右衛門・

大河平源太左衛門・大田筑左衛門來、

十一月三日、高奉行所令、自今秋轉輪種子嶋出物

米于屋久嶋、

四日、於福昌寺 正覺院殿十三回忌法事、久芳役

御手長、

日者 官以禁屋久嶋材出嚴令故、構番所於嶋間浦、

令船奉行交成之鑑船出入、

十二月七日、修妙運三回忌于本源寺、

九日、莖永村竹崎浦漁舟水手十人赴增田村、歸路逢逆

風、破船于莖永村大崎洋中、溺死者六人、事告官、

二十一日、平田鞆負正輔室死、法名冷池院殿淨蓮

日盛大姊、禁樂七日、

二十三日、再興熊野權現社、

歲暮、規式、如例、

寶曆八年戊寅、年頭規式、如例、

正月六日、初狩名代家老知寛才兵衛行徳、物奉行種子嶋平

内時甫、用人種子嶋三左衛門時利、一番組

頭河内慶兵衛時房、二番組頭野間仲左衛門、如例、

(マ)七日、久芳請服所賜于久基之御衣、 公容之、國

老嶋津主殿傳 命、

院、

十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座

川内八郎右衛門、二番下村藤右衛門・西村、

次右衛門、三番日高伊三太・羽生七郎次、如例、

十八日、志布志船船長長破于嶋間村、

晦日、於壽國寺 信證院殿三年回忌法事、久芳役

御手長、

二月三日、古田村庄官武田喜助坐借長山利左衛門

鉄炮竊狩于鹿倉、没収宅地一箇及鉄炮、放于西之

村、其與黨同村阿世知喜兵衛・同仲左衛門于中之

村、百姓源六于嶋間村、榎本弥兵衛・同七郎次・

上妻嘉兵衛・百姓万八・休五郎・傳七・長山利左

衛門・住吉村阿世知仲右衛門各科錢有差、

同日、以護亂心西田喜右衛門之疎、其母及姊三年
慎、親族河内慶兵衛十八ヶ月寺入、

十日、北條仲道時守^{始織}死、法名中道院殿日性大

居士、停樂七日、

二十四日、響以吉留弥次右衛門宅為締方色紙文右
衛門旅宿待之疎、出科錢^十、家人慎^{一箇}、

三月二十三日、古市仙次郎以數年役婦人之僕、為

郷土、

四月十一日、與年俸米二斛于池村藤兵衛、賞數十
年勤仕也、

十五日、以異國船來之候、國老鎌田典膳・義岡相
馬・嶋津圖書傳長崎奉行之令、如例、

※五七九 島津久亮外二名連署申渡書

吳国船入津時分候間、浦々可入念旨、長崎御奉行
被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守候様

二種子嶋江可被申渡候、以上、

四月十五日

鎌田典膳^(政昌)

義岡相馬^(久中)

嶋津圖書^(久亮)

種子嶋藏人殿

(「種子島正統系圖」十八)

五月十二日、締方横目松山休太夫・町田此右衛門・

長谷場兵右衛門・彌寝渡右衛門來、

七月、蝗、使僧徒禱焉、

自今年日州・隅州之采地檢察豐凶定賦、故高奉行

渡邊勘兵衛・筆筭役有留五郎右衛門・蒔見役鮫嶋

七右衛門・日高儀左衛門赴覺府、

十九日、大風、田地家屋多破損、

八月一日、就岩元清右衛門獻太刀一腰・馬代銀一

枚、使者西村次郎兵衛時影、

九月、與系圖于種子嶋郷兵衛時央、

以鉄炮製之功、柳田市郎左衛門・柳田五平次為組

士、

十月五日、賜扶持高三斛於下村權之丞、以師鹿嶋

喜兵衛為函人也、

八日、締方横目土岐藤左衛門・内倉權右衛門・鮫

嶋藤右衛門来、

十一月二十一日、屋久嶋御用船船主長田村八太郎逢難風破於

能野、

大樹家重公以執政松平右近將監武元宿次奉書、賜

御鷹之鶴一隻於 繼豐公、因豫國老嶋津圖書久亮

以中馬源兵衛被命謝恩使於久芳、如左、

○五八〇 島津久亮申渡書写

写

種子嶋藏人

右者、以宿次御奉書

隅州様江御鷹之鶴御拜領之沙汰有之候、弥御拜領

被遊候ハ、御礼使被仰付、小倉筋可被差越候、

於江戸勤之節者、御取仕立可被仰付候条、中途之

儀者少人数ニ而被罷通候、相究趣者追々可申渡

候、

右之通、内々可申聞置候、

十一月

(島津久亮)

圖書

○五八一 島津久亮達書写

種子嶋藏人

右者、

隅州様江以宿次御奉書、御鷹之鶴去ル六日被遊御

拜領、則夜被差立筈ニ付、御礼使被仰付、御頂戴

之當日被差立、小倉筋被遣候、於江戸者御取仕立

可被仰付候条、中途之儀ハ少人数ニ而被罷通、日

数三十二三日ニハ罷通候様被仰付候、

十二月廿六日

圖書

歳暮、規式、如例、

寶曆九年己卯正月、規式、如例、

六日、初狩名代家老平山藤左衛門頭友、物奉行前田新五兵衛

・肥後休兵衛、用入平山周右衛門友相、組頭岩河十右衛門

鮫嶋甚右衛門、如例、同日、御鷹之鶴到 四配亭、 繼豐公乃拜戴之、

即日久芳登 四駝亭、拜謁 繼豐公、奉 命而登

府城、直發覺府、從者與力江田助作・家老上妻七

兵衛時雄、經九州西路、十四日到豐之小倉、駕船

二十日到室津、陸行二十三日到大坂、二十六日到

伏見、過東海之驛、二月九日到東都芝邸、

十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座

村與兵衛、二番蛟嶋與八左衛門・下村用右、如例、織右衛門・西

二月十八日、久芳候執政・若年寄・御側御用人・

西城執政・若年寄亭、致 繼豐公之書牘、

十九日、登 御守殿致 繼豐公命、

二十三日、獻 重豪公蟠求肥飴及卵煎餅、

二十四日、久芳請乘輿見許、國老高橋縫殿種辰傳(考)

命、事見于左、

○五八二 種子島久芳口上覺(五八二の)

隅州様御鷹之鶴御拜領ニ付、私事御禮使被仰付被

差越候、然者痛所有之、馬上計ニ而者、外方勤之

節難儀仕候、依之恐多奉存候得共、乘輿 御免被

仰付被下度奉願候、此旨を以被仰上可被下儀奉頼

候、以上、

二月十一日

種子嶋藏人

(五八二の) 写

種子嶋藏人

本文願之通、乘輿之儀被仰出可被下候、此旨可申

渡候、

二月

(禪山久倫) 左京

右之通、小林中太兵衛御取次を以被仰渡、御

直ニ御承知、御礼被仰上候、

(本文書ハ五八二の一号文書ノ行間ニアリ)

○五八三 高橋種寿申渡書写(五八三の)

写 種子嶋藏人

右者、乘輿之儀被 仰出候処ニ、乗物御断可為御

願之通、不及誓詞、御目付衆へ御断状可差出旨、

西尾隱岐守様より被仰渡候条、此旨承知可被仕旨

可申渡候、

二月

(高橋種寿)

縫殿

(五八三の二)

本行ニ而御目付様江御断状被差上、并御礼廻より
乘輿ニ而相勤可申旨、山沢小左衛門より為申遣置
由候、弥右之節より駕籠ニ而相勤差支儀者有御座
間敷候哉、奉行御内意候旨、小林中太兵衛取次口
達ニ而申出候処、同人取次ニ而乘輿御免為被仰渡
事候間、何ぞ支儀も有之間敷候条、駕籠ニ而可相
勤旨、與力致承知候事、

二月廿四日

(本文書ハ五八三の一号文書ノ行間ニアリ)

二十六日、奉 命以旅與力江田助作、贈太刀一腰・
馬代銀一枚・干鯛一箱・酒樽代金子五百疋 共出自
公府、
於御目附瀨名傳右衛門謝乘輿、

○五八四 高橋種寿申渡書写

写

種子嶋藏人

右者、於御當地乘輿御免、御願之通被仰渡候、為
御礼御用係之御目付瀨名傳右衛門様江御太刀銀・
馬代・干鯛一箱・御樽代五百疋御物調ニ而、自分
使を以遣候様ニ被仰付候、此旨申渡、御使番江茂
可申渡候、

二月

(高橋種寿)

縫殿

右之通、小林仲太兵衛を以被仰渡、

二十七日、詣御目附曲淵勝次郎・鶴藤十郎左衛門・
淺野内膳・大久保荒之助・大岡吉次郎・新見又四
郎之第、謝乘輿、

二十八日、拜謁 重豪公于芝邸大書院、

三月一日、久芳應教登 營、就奏者内藤大和守頼
由、獻 家重公于鯛一箱・酒樽一荷、拜謁 公及
儲君家治公於白書院、將使事、亦就奏者松平周防
守庸福、自獻太刀一腰・馬代白銀一枚・紗綾二卷

於 家重公、又拜謁、登 西城、就奏者番酒井飛
彈守忠香、獻 家治公一種一荷、將使事、亦自獻
太刀一腰・馬代白銀一枚、直候執政堀田相模守正
亮・酒井左衛門尉忠寄・松平右近將監武元・西尾
隱岐守忠尚・松平右京大夫輝高、若年寄板倉佐渡
守勝清・小出信濃守英智・松平宮内少輔忠恒・小
堀和泉守政峯・御側御用人大岡出雲守忠光・西
城執政秋元但馬守涼朝・若年寄酒井石見守忠休・
水野壹岐守忠見之弟、獻太刀各一腰・馬代銀一枚
奉謝、各以簡被謝之、事見于左、

○五八五 酒井忠寄口上覺

口上覺

昨日者太刀・馬代預持參、祝着之至候、為其以使
申入候、以上、

三月二日

(酒井忠寄)
酒左衛門尉

種子嶋藏人殿

○五八六 松平輝高口上覺

口上覺

昨日者太刀・馬代預持參、欣然之至候、為其以使
申入候、以上、

(松平輝高)
松右京太夫

三月二日

種子嶋藏人殿

○五八七 小出英智書狀

今般

御目見被申上候付、太刀・馬代御持參之、過分之
至候、為謝礼如斯候、以上、

三月二日

(小出英智)
小信濃守

種子嶋藏人殿

○五八八 大岡忠光書狀

昨日者御入來、殊太刀・馬代預御持參、欣然之至
候、為謝礼如斯候、以上、

三月二日 (大岡忠光)
大出雲守

種子嶋藏人殿

○五八九 小堀政峯書狀
今般

御目見就被申上候、太刀・馬代御持參、過分之至候、為謝礼如斯候、以上、

三月二日 (小堀政峯)
小和泉守

種子嶋藏人殿

○五九〇 酒井忠休書狀

此間者御入來、太刀・馬代預御持參、過分之至候、為其如斯候、以上、

三月三日 (酒井忠休)
酒石見守

種子嶋藏人殿

○五九一 板倉勝清書狀

此間者御入來、太刀・馬代御持參、過分之至候、

比段申入候、以上、

三月四日 (板倉勝清)
板佐渡守

種子嶋藏人殿

○五九二 松平忠恒書狀

此間者御入來、殊太刀・馬代御持參、過分之至候、右之段申入候、以上、

三月五日 (松平忠恒)
松宮内少輔

種子嶋藏人殿

○五九三 松平武元口上覚

口上覚

此間者太刀・馬代預持參、怡悦之至候、為其以使申入候、以上、

三月十日 (松平武元)
松右近將監

種子嶋藏人殿

○五九四 水野忠見書狀

此間者御入來、殊太刀・馬代預御持參、欣然之至候、為謝詞如斯候、以上、

三月十五日

(水野忠見)
水野岐守

種子嶋藏人殿

四日、候尾張中納言宗勝卿・尾張宰相宗睦卿・紀伊中納言宗將卿・水戸宰相宗翰卿之第、致使事、

九日、候阿部伊勢守正襲夫人及菊姬君之第、致使事、

十三日、久芳登營、執政正亮附與賜繼豐公之

奉書、而后以奏者酒井忠香賜紗綾三卷于久芳、候

執政及若年寄・御側御用人等之第、謝恩賜之辱

除西城執、政以下

同日、應教久芳候 西城執政秋元涼朝之第、涼朝

自授賜 繼豐公之奉書、

二十日、以與力江田助作、獻瑞仙院殿中官香二把

于大圓寺、時以修三十三回忌也、

二十二日、獻鮮魚一折・樽酒一荷於 重豪公、謝

恩賜之忝、

二十八日、發芝邸、此行也預蒙 恩免、遊覽伊勢、

南都、四月十六日到伏見、寄附白銀一枚於本能寺、

贈白銀一枚於上人、金子百疋於宿坊龍雲院、

二十一日、到大坂、二十五日寄附於本興寺及上人、

宿坊堯運院、如本能寺、二十九日開大坂津、五月

十六日到薩京泊港、同二十日歸于魔府、登 府城

復 命、

四月、以異國船來之候、國老鎌田典膳・義岡相馬・

嶋津圖書傳長崎奉行之令、如例、

※五九五 島津久亮外二名連署申渡書

吳國船入津時分候間、浦々可入念旨、長崎御奉行

被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守候様、

種子嶋江可被申渡候、以上、

四月十五日

(政昌)
鎌田典膳

(久忠)
義岡相馬

(久光)
嶋津圖書

種子嶋藏人殿

(種子島正統系圖) 十八

五月二十六日、獻 繼豊公東都産物白求肥飴一箱・干菓子一箱・干鱈一臺・樽酒一荷、於嘉久君干菓子一箱・干鱈一臺・樽酒一荷、

二十八日、久芳見補二番組頭、

六月朔日、締方横目平田正藏・伊地知助太郎・山元權助・溝口鉄兵衛來、

十三日、令種子島三左衛門代久芳詣寺社賽東行安全願、

十八日・十九日、修事全院殿三十三回忌於本源寺、加賜官俸五斛于家老西村清兵衛、以其困窮也、

十六日、家老西村清兵衛時陽・組頭野間仲左衛門生・横目岩河十右衛門時章、坐檢一向宗報告誤期、

入錢償罪、各有差、

兵具奉行平山仁左衛門逼塞^{三七}、道具者^{管囚者、謂之道具者}

小川喜左衛門・牧瀬利右衛門・鮫嶋休七・同金六科錢、各有差、坐誤放囚者也、

閏七月十二日、女子^{名於生}照生、

八月一日、就梅田九左衛門獻太刀一腰・馬代銀一枚、使者西村文右衛門時勝、

九月、久芳奉命與婦人詣聞開宮^{時以地頭職嶋津權左衛門居喪不得預事也}

日高文左衛門實本以多年近侍、加與高五斛、

官命稅牛馬^{每一匹二分五厘}、

十月、以自辰年以來締方横目交代來故、營作宅居^{之謂會}、

十一月晦日、締方横目國分與兵衛・野村清兵衛・野元源左衛門・安藤伊右衛門來、

十二月十日、締方横目平田正藏・伊地知助太郎・

山元權助・溝口鉄兵衛歸、

歲暮、規式、如例、

寶曆十年庚辰正月、規式、如例、

六日、初狩^{名代家老}、^(三七)物奉行^{一番組頭種子嶋三左衛門}

門時利、二番組頭前田六郎右衛門、如例、^{盛容、三番組頭平山傳右衛門友相}

十一日、具足祝、軍陣・温坐祈念、的始^{射手一番美座}、諸兵衛時定、

河内伊左衛門時滋、二番下村孝十郎時主・西村治右、如例、^{衛門時紀、三番羽生七郎次能矩、八板平太右衛門}

十四日、締方横目野元源左衛門切腹于會所、未到死問其故不答、事達官、

二十九日、於福昌寺 智光院殿七年回忌法事、久芳與小笠原郷左衛門役御手長、

二月十二日、吉野関狩、久芳以組頭登山、

庄司浦水手甚右衛門以竊盜之罪、放于大嶋、

十九日、雫、

三月三日、普請方附大工武田與市左衛門以師葛西員右衛門得堂宇製作之傳、為組士、野間村西田佐左衛門以得弓製作之傳、與扶持高一斛、為兵具所附、

九日、臥蛇嶋船船頭長左衛門
水手共六人遭逆風破于西之表箱崎、事聞官、

十一日至十二日、雫、

四月八日、雫于鴨女川、

九日、雫于本源寺、

十二日、以異國船來之候、國老高橋縫殿・鎌田典膳・菱刈藤馬・嶋津圖書傳長崎奉行之令、如例、

※五九六 島津久亮外三名連署申渡書

吳國船入津時分候間、浦々可入念旨、長崎御奉行被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守候様、

種子嶋江可被申渡候、以上、

四月十二日

〔種子島正統系圖〕十八
高橋織部〔縫殿〕

鎌田典膳〔成昌〕

菱刈藤馬〔実彦〕

嶋津圖書〔久亮〕

種子嶋藏人殿

〔種子島正統系圖〕十八

五月十三日、以西村次郎兵衛時影為家老、平山周右衛門友相物奉行、

二十八日、與年俸米三斛于有馬伴之進、以為近習役也、

六月二十四日、本源寺大雄院日近禱、

同日、以報恩院日現為本源寺、

大山善兵衛・濱津脇之茂傳次竊買屋久嶋宮之浦吉右衛門船所載來之材、事發覺、官命出錢各二貫文

贖罪、其餘住吉村平山仲右衛門・羽嶋仁右衛門・

上妻權右衛門・納官村鎌田友七・徳永孝次郎・古

市半五左衛門・本成寺當住遠壽院・清淨寺寛正坊・

日輪寺最教院・本光坊・淨光寺壽海坊連及納錢贖

罪、各有差、家老西村清兵衛時陽・平山藤左衛門

頭友・知覽才兵衛行徳・種子嶋郷兵衛時央坐號令

緩怠、科銀各二十目、久芳亦遠慮三日、

八月、詢問買吉右衛門船之材木者、追放大山善兵

衛于古田村、茂傳次于現和村、其餘連及者對有差

將軍家令高萬石以上者、自今秋萬石貯穀千俵、八

月十六日、國老傳之、

十八日・十九日、修法運院殿十七回忌于本源寺、

二十一日、男子生、名鶴袈裟、母新納波門久主女

産与北條十左衛門、
・髮立新納四郎妻、

賀男子生、家老・物奉行名代種子嶋平内時甫、用

人・諸奉行・諸士名代岩川理兵衛時起到覺府、

九月十九日、光壽院來見永照院、

二十日、繼豊公薨、法諱宥邦院殿圓鑑亨盈大居

士、禁殺生・音樂二十日、漁商及百工有其聲者七

日、都下士月代二十日、至所近侍于 公士且僕御

者等月代五十日、

二十六日、賀嫡子生土踊二百九十四人、警固士四十五人、此時公訃音未達于此地

同日、請獻祭文・野坐諷經於 宥邦院殿牌前、事

開于左、

○五九七 種子島久芳口上覺

(五九七の二)
口上覺

宥邦院様被遊 御逝去候ニ付、私家 御代々様江

祭文進上仕來候間、此節も被仰付度奉願候、尤平

供臺・諸膳部・盛物・御菓子、都而御物御取替を

以、調方被仰付被下度奉願候、是等之趣被仰上可

被下儀奉頼候、以上、

九月廿六日 種子嶋藏人

(五九七の二)

種子嶋藏人より御祭文
写 献納之願被申出趣有之、

本文都而願之通、被 仰付候条、如例可申渡候、

九月

(鎌田正芳) 隼人

(五九七の三) 口上覚

宥邦院様被遊 御逝去候ニ付、私家 御代々様江野諷經・座諷經迄茂種子嶋本源寺へ為相勸來候間、此節茂先例之通、被仰付度奉願候、尤本源寺早々罷登候様、飛船を以申越置候、此等之趣被仰上可被下儀奉頼候、以上、

辰九月廿七日

種子嶋藏人

阿世知新右衛門・阿世知新之丞以得製堂塔・鑼炮臺・鑼柄等傳為組土、

十月一日、以小林仲太兵衛被許野坐諷經、

四日、葬 宥邦院殿于福昌寺、久芳詣于福昌寺此蓋時種子嶋僧徒所妨風浪不能、到覺府、故關野諷經者乎、

十一日、令本源寺報恩院日現及浮屠十四人大會寺七條、泰運院・柳軒院・遠壽院・東全院・自運坊・自姓坊・信敬坊以上七人素絹五条、台願坊・受慶坊・知典坊以上四人直綴小袈裟、清定坊・高運諷經、式如舊、
以上三人直綴色袈裟

○五九八 本源寺報恩院日現等諷經次第

- 一 経木一部
- 一 香爐杉焼灰筒之
- 一 焼香 本源寺
- 一 金打 妙泉寺
- 一 方便品
- 一 讚 信敬坊
- 一 鏡 遠壽院
- 一 鉢双 自運坊
- 一 自我偈一返 東全院
- 一 神力品訓讀
- 一 題目三返
- 一 此経難持
- 一 以要言之
- 右、終而退去、

十四日、久芳備供饗五膳、獻祭文久芳捧之出座中央、僧進取之備 神位前、本源寺奠茶行香、尋久芳行香、本源寺取獻箸

所備之祭文奉久芳、久芳拜戴、與大會寺現住慈舟院讀之讀到臣平久芳、久、終而久芳即下坐、時衆僧誦神芳拜、及終又拜、題目五返、此經、難持以要言之、各有、撤御靈膳如始、而各退去野諷經・坐諷經、及此時賜布施、

○五九九 種子島久芳祭文

維寶曆十龍會庚辰秋、吾

國君宥邦院殿故從四位上左近衛中將薩隅日三國主兼領琉球國源公圓鑑亨盈大居士、罹疾痾、神力虛感應、醫術失靈驗、於戲命乎、九月念日辛酉、終即世於 府城、便殿之正寢、於此奉殯靈柩於玉龍金刹、十月初四日乙亥、恭以現前浮屠之法、而奉闡維、茲臨中陰之日、家臣平久芳不堪悲歎哀慟之情、命采邑之梵侶、謹備蘋蘩沼沚之微供、奉致祭於尊靈帷下、其辭曰、

嗚呼哀哉

種維鳳卯 世維貂蟬 震威海內 誦德市鄺
美譽遠馳 芳聲遙傳 于仁于智 降澤赤子

而禮而信 施惠群賢 遺百善言 無一問然

嗚呼哀哉

歲月斗轉 造物星遷 時乎命乎 厥疾不痊
恨百年短 祈千歲延 順化歸冥 乘雲朝天
仰天瞻望 伏地呻咽 慨其永歎 淚隕潺湲

嗚呼哀哉

一別多却 闔國長情 月照閑庭 恍難成眠
風拂空床 霜凝寒泉 脫蹤浮采 應托金蓮
茲採彼蘋 切抽丹悃 冀垂玉趾 昭鑒祭筵

嗚呼哀哉

▽ 尚饗 △

(本文書ハ「旧記雜錄追録五」二四五二号文書ト同文ナリ)

二十一日、家老上妻七兵衛時雄致仕、
十一月五日、馬場舊肥後、以仕他家使改馬場藤内左衛門母子三人為
伊勢新五郎家臣、

竹姬君落飾、奉稱 淨岸院尊尼、

十二月三日・四日、修誠諦院殿十七回忌、

九月、羽生輔助以勤功、與高二斛、

十二日、嫡子鶴袈裟受法、戒師慈遠寺代本、
歲暮、規式、如例、

寶曆十一年辛巳正月、規式、如例、

六日、初狩三組頭平山休兵衛・日高七郎左衛門・川内主右衛門・名代家老種子嶋郷兵衛・物奉行西村甚五右衛門、
川十右衛門、如例、

十一日、具足祝、軍陣・溫座祈念、的始射手一番川内、
河番兵衛、二番殿嶋茂太夫、下村藤右衛門、如例、

十九日夜、安城村百姓源左衛門宅火、余煙及五家、
事聞官、

二月十六日、以 圓徳院殿忌日、代 公詣福昌寺
廟、

二十九日、蒙巡見上使在覺府久芳與伊勢兵部宜次
火消之備巡廻府下之命、國老鎌田典膳政昌傳之、
事記于左、

○六〇〇 鎌田政昌申渡書写

(六〇〇) 写

伊勢兵部(貞起)

右者、御巡見
種子嶋藏人

上使鹿兒嶋御止宿之節、為御用心火消勤被仰付候

間、御國江御目附御越之節之通、自分手廻火消支

度ニ而、御旅宿近方見合、當日御着前以より可相

廻候、委細之儀者追々可申渡候、

右、申渡候、

二月 (鎌田政昌) 典膳

(六〇〇) 別紙之通、堀甚左衛門御取次ニ而被仰渡候間、御

名代致承知候、此段申達候、以上、

二月廿九日 島山教馬

▽ 種子嶋藏人殿△

三月、久芳被 命吉野馬追總奉行、事記于左、

○六〇一 小松清香達書写

(六〇一) 写

種子嶋藏人

右者、吉野御馬追来月十二日被仰付候ニ付、惣奉行被仰付候、當日天氣悪敷候ハ、十二日より先御精進日相除、天氣次第ニ被仰付候、

三月

(小松清香)
式部

(六〇二)
別紙之通、町田主計御取次を以被仰渡致承知候間、

此段御問合申達候、以上、

三月九日

畠山教馬

種子嶋藏人殿

十三日、赦平山村百姓次郎左衛門徳之嶋配流、

十五日、池村林左衛門以數年近侍久芳左右、與米

二石、

同日、與宅地一區^{一箇所}中間日高曾兵衛、以數年

勤勞于寔府也、

四月六日、光壽院歸、

十日、締方横目肥田正右衛門・有馬半次郎来、

十一日、以異國船来之候、國老鎌田隼人・嶋津圖書傳長崎奉行之令、如何、

※六〇二 島津久亮・鎌田正芳連署

申渡書写

写

吳國船入津時分候間、浦々可被人御念旨、長崎御奉行被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守候様ニ種子嶋江可被申渡候、以上、

四月十一日

(正芳)
鎌田隼人印

(久亮)
嶋津圖書印

種子嶋藏人殿

(「種子島正統系図」十八)

六月二日、以 智光院殿忌日、代 公詣福昌寺廟、

十二日、大御所薨去、奉號 淳信院殿、禁樂、

江府巡國使青山七右衛門・神保帶刀・花房兵右衛

門来薩州、

七月二十三日、官命以前月二十四日中納言尾張

公薨、停樂七日、

二十四日、國老傳 將軍之命、每祿一石貯粟二升

六合、

廿五日、以前田新五兵衛為家老、平山休兵衛物奉

行、

以 大御所薨去、被止八朔諸家獻上、

八月四日、為淨光明寺火消、事見于左、

○六〇三 島津久郷申渡書写

写

種子嶋藏人

右、淨光明寺火消、嶋津若狹殿へ被仰付置候得共、

被成御免候間、代被仰付候迄之内、右火消被仰付、

若狹殿江被召付置候火消手人数被召付候、

右之通申渡、首尾係江茂可申渡候、

八月

(島津久郷) 主鈴

五日、遠藤内六兵衛・渡邊喜兵衛・鯨嶋治兵衛逼

塞五十五日、去年土踊、舊例小頭在内平土在外、

然三人以難有内外之別對組頭不敬也、

廿日、以 有徳院殿忌日、代 重豪公詣南泉院、

九月九日、久芳夫婦代地頭、預顚娃開闢宮神事、

見于左、

○六〇四 島津久郷申渡書写

(六〇四の二) 写

種子嶋藏人

右者、来月九日顚娃開闢宮御神事ニ付、地頭差支

名代被仰付候条、夫婦差越、先規之通可被相勤候、

右申渡、地頭并首尾係江茂如何可申渡候、

八月

主鈴

(六〇四の二) 別紙之通、相良弥一兵衛御取次を以被仰渡候間、

此段申達候、

八月廿六日

島山數馬

廿八日、川野三保右衛門以製轡與祿一石、
十月二日、以 重豪公封國之後初帰國、請 光臨、
事記左、

○六〇五 種子島久芳口上覚

口上覚

御家督初而被遊 御下國候ニ付、乍憚私宅江
御光儀、御膳進上奉願候、右ニ付而者御太刀・御
馬代進上仕度御座候、此旨被仰上可被下儀奉頼候、
以上、

十月二日

種子嶋藏人

三日、以渡邊勘兵衛為物奉行、

十九日、蒙以 大樹家治公嗣位之故有賜 重豪公
封國之印章判物則可命謝恩使之 命、

國老嶋津左中久金令相良彌一兵衛長主傳之、事記
左、

○六〇六 島津久金申渡書写

写

種子嶋藏人

右者、新

御判物 御頂戴候者、御禮使被仰付、則日被差立、
小倉筋可被差越候、於江戸勤之節者、御取仕立可
被仰付候条、中途之儀者少人数ニ而可被罷通候、
相究趣者追而可申渡候、

右之通被相心得候様可申渡候、

十月

(島津久金)
左中

右者、十月十九日相良弥一兵衛御取次ニ而被仰渡候、

官税每人銀五分、高一石米二升、牛馬一匹銀一匁、
船帆一端銀五分、

十一月四日、札改檢使古川木工兵衛・芦谷四郎右
衛門来、

同日、以 重豪公封國之後初帰國、故於御對面所、
以大身分・寄合一列賜盛膳及菓子・濃茶・薄茶、
十日、因 常憲院殿忌日、代 重豪公詣南泉院、

十六日、屋久嶋船破池田之港、
廿一日、蒙封國謝恩使之命、國老嶋津若狹久(定之)
傳之、

○六〇七 島津久定達書寫

右者、今度新
種子嶋藏人

御判物 御頂戴之御禮使被仰付候、被差立候日限
之儀者、追而可被仰付候、

十一月 (島津久定) 若狹
右之通十一月廿一日被仰渡、

十五郎船水主市兵衛於日州赤江逃亡、
十二月朔日、久芳告 官曰、奉使之日、若他邦之
人有問臣之官名及領地、則何答之、曰、應答一族
同列領地壹萬九百斛餘也、國老鎌田隼人正芳傳之、
事記于左、

○六〇八 種子島久芳口上覺(六〇八の二)
口上覺

私事、江戸江御礼使被仰付置候、依之申上候、他
所ニ而役名又者持高相尋候ハ、何様ニ相答させ
可申哉、此段得御差圖申候、以上、

十二月朔日 種子嶋藏人

○六〇八の二 寫

種子嶋藏人

本文於他所御役名一族同列之者与相唱、持高壹萬
九百石餘と可被相答候、此旨可申渡候、

十二月三日 (鎌田正芳) 隼人

六日、女子生名種、野

去十月二日、請 重豪公光臨、故有 命、開于左

○六〇九 新納四郎請書

御光儀之願被仰出置候得共、此節者不仰付候、重

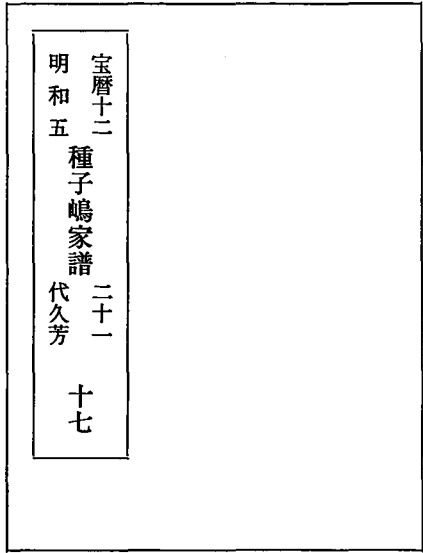
而御下國之節可被仰付旨、小林中太兵衛殿御取次
を以被仰渡候間、私御名代ニ而致承知候、已上、

十二月廿日

新納四郎

廿一日、印章到于 府城、久芳即日登 城、奉拜
謁 公奉 命、直發薨府、經九州西路、二十九日、
到豊之小倉駕船、從者與力小倉孫九郎・附足輕板
山彦左衛門・家老平山藤左衛門頭友・物奉行平山
休兵衛兼寛等也、
歳暮、規式、由舊、

(表紙)



- 寶曆十二年壬午正月、規式、如例、
- 六日、初狩名代家老 用生、物奉行、一番組頭野間仲左衛門、生・二番上妻郷太夫、一番日高文左衛門實本、如例、
- 八日、久芳到播州室津、經陸、十一日、到攝州大坂、遡流到伏見、
- 十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座 五藤右衛門、

川内市左衛門、二番殿嶋與八左衛門・下村用、如例、右衛門、三番羽生七郎次、八板平太右衛門

- 十二日、久芳發伏見、經歷東海驛路、廿八日、到東都芝邸、
- 二月一日、久芳登 御守殿、就御用達石川傳太郎 致 重豪公之命、
- 二日、候執政秋元但馬守涼朝・酒井左衛門尉忠寄・松平右近將監武元・井上河内守利容・松平右京太夫輝高・御側御用人板倉佐渡守勝清・若年寄酒井石見守忠休・小出信濃守英智・松平攝津守忠恒・水野壹岐守忠見・奏者番監御判物 方御用 戸田采女正氏英・松平和泉守永佑之第、呈 重豪公之書牘致使事、
- 三日、候徳川刑部卿宗尹公・徳川豊之助公・水戸宰相宗翰卿之第、致使事、
- 四日、候尾張中納言宗睦卿・紀伊中納言重將卿・紀伊中將重倫卿之第、致使事、
- 五日、登東叡山、致使事、
- 十三日、應徵登 營、於檜間秋元涼朝自附與 奉書、且以奏者戸田氏英賜紗綾三卷於久芳、同日候

執政酒井忠寄・松平武元・秋元涼朝・井上利容・

松平輝高、御側御用人板倉勝清、若年寄小出英智・

松平忠恒・水野忠見・酒井忠休之第、謝 恩賜之

辱、

○十六日、芝邸嬰池魚之災、故久芳宿加賀屋助右衛

門宅、翌十七日、移於田町之邸、

○二十五日、登于高輪之第罹災故 竹姫君暫、御用達傳
移居於高輪之第

竹姫君之命、乃退去、

○痲瘡流行、

○三月二日、發東都芝邸、經東海道・美濃路、同十

六日到伏見、同二十一日下大坂、二十八日經播州

路、四月二日到室津駕船、十五日到薩之久見崎、

十八日還覺府、登府城復 命、

○四月二日、締方横目富山七郎・有川十兵衛・美代

太次右衛門・道嶋源五郎來、

○六日、賞覺府邸修治之功、與青銅百疋於普請奉行

日高澤右衛門、銀各三兩於筆吏長野太郎右衛門・

惣大工柳田今兵衛、銀二兩於墨大工、其余小工・

木挽・役夫等有差、

○十二日、獨步時房死、法諱釈梵院日普居士、

○以官府之命、點檢牛馬數牛百五十八頭・馬稟白之自往
地牛馬以千百四匹為、
定數、不知何以算之

○十三日、以異國船來之時、國老鎌田藏人・嶋津山

城・嶋津圖書傳長崎奉行之令、如例、

城・嶋津圖書傳長崎奉行之令、如例、

※六一〇 島津久亮外二名連署申渡書写

写

写

吳国船入津時分候間、浦々可被人御念旨、長崎御

奉行被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固ニ相

守候様ニ、種子嶋江可被申渡者也、

四月十三日

鎌田藏人印(正亮)

嶋津山城印(久亮)

嶋津圖書印(久亮)

種子嶋藏人殿

(「種子島正統系圖」十九)

○十五日、以東都芝邸羅災、故請獻材、事記左、

○六一一 川上弥五太夫口上覺

(六一一の二) 口上覺

此節、江戸 御屋敷御類焼ニ付、材木有之、兼而
藏人申付置候趣茂有之候ニ付差上度、別冊之通、
船一艘分種子島役人共差登申候、種子島藏人旅中、
私江頼置申候ニ付、此段申上候条、被仰上可被下
儀奉頼候、以上、

四月十五日

川上弥五太夫

(六一一の二)

写

江戸御屋敷御類焼ニ付、種子島藏人兼而被申付置材
木、船一艘分差上度ニ付、旅中川上弥五太夫江頼置
候ニ付、申出趣有之、

本文此涯之儀ニ候間、材木者御普請奉行江納方可
申渡候、材木被差上候儀付而者、追而何分可被仰
付候、

右、可申渡候、

四月

(川田國福)

伊織

○廿一日、修日典三百遠忌于本源寺、平右衛門時庸

代久芳詣三分費用而本源寺、
府庫償其一

○二十八日、改名左内、

○閏四月十六日、以圓徳院殿之忌日、代 公詣福昌
寺廟、

○將軍命以今年粟可易辰年所貯之粟、覺府高奉行傳
之吾家老、

○五月十日、以 慈徳院殿之忌日、久芳代 公詣福

昌寺廟、

※六一二 小松清香申渡書

十日、

慈徳院様御忌日ニ付、福昌寺御位牌所江 御代參、
(宗信)

右之通、支度半上下ニ而、可被相勤旨申渡、寺
社奉行江茂可申渡候、

五月

(小松清香)

式部

(種子島正統系圖) 十七

○同日、令三箇寺僧零于鴨女川、

○同月、以東都芝邸嬰災故、官税人口銀一及牛馬一

船 廿三反至八反帆、反八反、七反帆至五反帆、嶋津圖書久
反五反、四反帆至橋舟及川平駄、反二反
亮傳命、

○同月、久芳令西村官左衛門時武代詣于諸寺以賽東行安全之願、

○六月十日、以 慈德院殿忌日、久芳代 公詣福昌寺廟、

○十八日、濱津脇之正七・西之濱之伊三次、以犯田舍禁板庇法故、令納錢贖罪、連及工匠阿世知新右衛門・池龜松兵衛・濱田庄右衛門・笹川弥兵衛・茂右衛門・阿世知新兵衛・小田原孫右衛門・治兵衛、各有差、

○廿四日、札改檢使芦谷四郎右衛門・古川木工兵衛 帰、

▽◎○七月一日、祖父久基之婦人者、 光久公第廿七翁主也、可書出婦人之母堂阿氏之女及卒去之年 月・法諱等之旨、有御記錄所之命、事開于左、 ▲

※六一三 西村清兵衛外四名連署覚

覚

種子嶋彈正伊時後久基間相改申段、初之妻者 太守光久公第廿七之御姫 千代松君様と奉申候、 右、御母堂様何氏之御息女并御卒去之年月より御 法号相調可申出旨、御記錄所より被仰渡候由被仰 越、調方申渡候処、家譜系圖等ニ一見見得不申候 由申出候、此段御申出可被成候、以上、

七月朔日

種子嶋役人

種子嶋郷兵衛

西村次郎兵衛

知覧吉兵衛

平山藤左衛門

西村清兵衛

古田新五兵衛殿

(種子島正統系圖)十九

○七月二日、以西之表足輕日高五左衛門、為一代郷士、賞以庖人數年仕永照院、

○六日夜、持佛堂鳴、其聲如鐘、令三箇寺禊、

○十四日、久芳代 公詣壽國寺信證院殿之廟、

○同日、八幡丸破于喜入之濱、

○廿四日、收八板治兵衛家財及祿地、放于中之村上野、以其妻邪氣害諸人之罪也、

○國老伊織傳 命許獻材、事記左、

○六一四 川田國福申渡書写

写

種子島左内

材木

右、芝御屋鋪御類焼ニ付差上度旨被申出、達

貴聞候処、願之通被仰付候、

右之通、首尾係江者、以證文可申渡候、

七月 (川田國福) 伊織

○久芳與十郎太夫時方相議、定諸土家格、響是雖有

役人組・小頭・大番之三等、以與公邊不同類也、

見于左、

○六一五 西村清兵衛外四名連署覚

覚 次第不同、

御役人組

前田新五兵衛

西村清兵衛

平山藤左衛門

知覽才兵衛

西村次郎兵衛

種子嶋郷兵衛

羽生半兵衛

種子嶋清左衛門

西村甚五右衛門

平山休兵衛

渡邊勤兵衛

平山周右衛門

上妻七兵衛

西村淺右衛門

西村文右衛門

種子嶋三左衛門

岩川十右衛門

西村官左衛門

美座十郎右衛門

平山傳右衛門

前田六郎右衛門

上妻小左衛門

野間仲左衛門

知覽孫九郎

上妻休七左衛門

川内慶兵衛

西俣段左衛門

西村九郎左衛門

右、被準御国御法様、此節種子嶋諸家家格被相定、

至永年右之通被仰付候、

右、如例可申渡候、

寶曆十二年午七月

御役所

種子嶋郷兵衛

西村次郎兵衛

知覽才兵衛

平山藤左衛門

西村清兵衛

○六一六 西村清兵衛外四名連署覚

覚

御役人組

肥後四郎左衛門

右、被準御国御法様、此節種子嶋諸家家格被相

定候、然者四郎左衛門迄三代差立候御役目不相

勤候故、代々小頭被仰付等ニ候得共、一所持之

子孫至永年、右之通被仰付候、

右、如例可申渡候、

寶曆十二年午七月

御役所

種子島郷兵衛

西村次郎兵衛

知覽才兵衛

平山藤左衛門

西村清兵衛

○六一七 西村清兵衛外四名連署覺

覺

渡邊勘右衛門

上妻郷大夫

上妻仲左衛門

日高平六

日高節右衛門

宮浦喜右衛門

日高沢右衛門

西村孫左衛門

上妻四郎左衛門

笹川覺大夫

東八郎右衛門

日高喜賀右衛門

下村孝拾郎

一湊六郎兵衛

知覽牧右衛門

知覽小右衛門

牧庄左衛門

日高七郎左衛門

日高文左衛門

知覽源太兵衛

川内珠右衛門

鮫嶋甚右衛門

岩川作左衛門

石黒太兵衛

美座治右衛門

川嶋勘右衛門

国上六郎兵衛

西村伴九郎

岩川理兵衛

下村伊三右衛門

鮫嶋太左衛門
前田只右衛門
中田伊右衛門
上妻休左衛門
西村治右衛門
西村七左衛門
鮫嶋真左衛門
長野与平太
平山仁左衛門
美座村右衛門
川内市左衛門
知覽圓右衛門
下村善右衛門
市来狩野右衛門
日高源右衛門
高尾野助右衛門
上妻助太郎
羽生武兵衛

鮫島伊右衛門
右、四拾九家代と小頭家ニ申付候、
西村員右衛門
上妻市右衛門
右、二家代と小頭格ニ申付候、
有留五郎右衛門
右、一世小頭故、分而申渡ニ不及候、
一自今以後諸奉行之内より役人・物奉行相勤候者、
永く役人組ニ可申付事、
一自今役人・物奉行二男三男家格之儀者、別立候節、
役人致吟味申出候者、其節何分可申渡事、
一自今大番ニ而茂側用人迄相勤候ハ、代と小頭ニ
可申付事、
一自今代と小頭格之家より三代諸奉行首尾好相續勤
候者、代と小頭可申付候、
一自今大番之内より諸奉行相勤候ハ、一代小頭可
申付候、三代相續首尾好相勤候ハ、代と小頭ニ
可申付候、

右、諸家家格之儀、至永年右之通、此節より被
相改候通被 仰出候間、難有奉承知候様可申渡
候、尤御記録方江可申渡候、

午
八月九日

御役所

種子嶋郷兵衛

西村次郎兵衛

知覽才兵衛

平山藤左衛門

西村清兵衛

用人

○八月一日、就川上左太夫獻太刀・馬代銀、使者渡

邊勘兵衛、

○八日至九日、大風、

○主上崩御、禁樂五日、

奉 重豪公之命獻鹿牝十疋
牝廿疋、

○十月十日、以 淨國院殿之正忌日、代 公詣淨光

明寺廟、

○十一月廿日、以 有邦院殿忌日、代 公詣福昌寺
廟、

○十二月十日、以 淨國院殿忌日、代 重豪公詣淨

光明寺廟、

○十七日、女子生於覺府邸名婦、
智、

○久芳作甘藷傳、記于左、

○六一八 種子島久芳甘藷伝

甘藷傳

○古昔、周公得禾以名其書、漢武得鼎以名其年、叔
孫勝敵以名其子、是皆示不忘也、予亦書甘藷之所
由来示不忘矣、夫甘藷者異邦之產也、(カマ)清洪熙皇帝
放宦女於海嶋、經十有余年赦而歸、其皮膚肥膏、
血氣丰盛也、帝異之問云、孤嶋無人、無人則無五
穀、無五穀則何以保命乎、今汝曲眉豐頰清聲而使
體、秀外何哉、云窮居而野處、升高而顧帝京、坐
茂樹以終日、山中有草、不知孰名、唯食其根而命

至于今矣、即使官吏殖其草村落、而其根形圓長、

其氣味甘平、無害於百疾、於是贈之中山國王、中

山國王亦贈之大父久基、實元祿十一年戊寅三月也、

久基珍之而使家老西村權右衛門時乘殖於吾種子嶋

邊邑石寺之野、漸以二三年擴充於一嶋、其為用乎、

作酢作醬作糖作耐作餌作羹作粉、其千變萬化不可

勝數、其功不出百穀之下也、爾來傳三州、而后汎

溢於天下、而貴介公子、縉紳處士、老幼卑尊、無

不嗜者、況於犬馬麋鹿乎、以是官吏慶於朝、農夫

抃於野、餓者得食、病者以愈、使鰥寡孤獨癯疾者

而養生喪死無憾矣、是豈不大父久基之盛德萬人之

洪福哉、所謂聲名光輝傳於千世、此之謂與、

寶曆十二年

種子嶋左内平久芳

(花押)

○歲暮、規式、如例、

○寶曆十三年癸未正月、規式、如例、

○四日、以國老・若年寄・大目附・一所持・一所持

格・寄合・寄合並一列、獻 重豪公及夫人各三種

二荷、賀公婚姻、

○六日、初狩名代家老

渡邊勤右衛門名代家老、如例、

○十一日、具足祝、軍陣・溫座祈念、的始諸兵衛・川内

大兵衛、二番鮫嶋官兵衛・下村為右、如例、

○十七日、代 公詣加世田日新寺、

○二月、久芳以組頭從闕狩于吉野、

○以日隆三百遠忌、府庫及嶋中檀越・末寺寄附銀四

十兩于兩本山、

○三月十九日、船改檢使町田勤左衛門自屋久嶋來、

點檢一嶋之船、四月廿二日、赴覽府、

○四月五日、締方横目落合喜右衛門・野村榮右衛門・

山田次左衛門・若松庄右衛門來、

○高尾野壽悅盜才原府庫之矢五十支・塩焔・鉛子等、

以年幼令親屬戒之、待及十五歲罪之也、

○十三日、以今年飢饉故、遣船覽府求糴、時破船嶋
泊洋、船長西町之治兵衛及水梢七右衛門・万七流

亡、治五兵衛上岸死、其余無恙、

○以異國船來之候、國老鎌田藏人・菱刈藤馬・嶋津圖書傳長崎奉行之令、如例、

※六一九 島津久亮外二名連署申渡書写

写

吳國船入津時分候間、浦々可被入御念旨、長崎御奉行被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守候様、種子嶋江可被申渡者也、

四月十三日

鎌田藏人印 (政芳)

菱刈藤馬印 (実色)

嶋津圖書印 (久亮)

種子嶋左内殿

(「種子島正統系図」十九)

○廿二日、締方横目吉村次右衛門・清水次右衛門・

山口諸右衛門・廣口甚太郎帰、

○二十五日、以慈舟院為本源寺、

○二十九日、久芳蒙 御目通遠慮、以不聞高尾野壽

悦竊盜之事、

○六月二日、久芳蒙赦、

○西之原勘七辭用頼役、以伊東正七祐術代之、

○廿日、川邊山田中山村名頭五市・甚右衛門・重富家来野元弥八郎下人休太郎見放来、

○六月、増田村之甚五郎盜締方落合喜右衛門米、繫牢百日、

○廿四日、免兵具奉行川内仲左衛門禁錮、以犯法遊宴于市街其行亂也、前田六郎右衛門連坐免用人、

○七月七日、代 公詣 正覚院殿廟、以忌日也、

※六二〇 小松清香申渡書写

写

七月七日

種子嶋左内

御位牌所江 御代參、

但、支度半上下、

右之通、可被相勤旨被申渡、寺社奉行江も可申渡候、

六月

(小松清香)
式部

(種子島正統系圖「十九」)

○十日、代 公詣 慈徳院殿廟、

※六二一 小松清香申渡書写

写

種子嶋左内

右者、今日

慈徳院様御正忌日ニ付、福昌寺 御位牌所江被遊

御佛詣筈候処、少々御痛所被遊御座、被遊御延引

候ニ付、御代參被仰付候条、支度半上下ニ而、

可被相勤旨申渡、寺社奉行江茂可申渡候、以上、

七月十日

(小松清香)
式部
(種子島正統系圖「十九」)

○八月一日、就東郷四郎次獻太刀・馬代白銀一枚、

使者渡邊勘右衛門、

○二日、代 公詣 智光院殿廟、

※六二二 小松清香申渡書写

写

種子嶋左内

右、明二日 智光院様御忌日ニ付、福昌寺御位牌

所江 御代參、北郷主膳江被仰附置候処、病氣有

之、御断被申出、代右之通被仰付候条、剋限四ツ

時、支度半上下ニ而、可被相勤旨申渡、寺社奉行

江茂可申渡候、

八月朔日

(小松清香)
式部
(種子島正統系圖「十九」)

○主上崩御、禁樂五日、

○廿五日、以野間仲左衛門為用人、

○蒙 重豪公之命、獻鹿于阿久根社二十、
廿五、

○九月十九日、嶋津中務家来小河名字五右衛門妻病

死于坂井村、事聞官、

○廿九日、以牧庄左衛門為用人、

○十月三日、以家格、請 重豪公之賁臨、事開于左、

○六二三 種子島久芳口上覺

(Kins) 口上覺

御家督初而去々年被遊 御下国候付、御光儀之願申上候処、重而 御下国之節奉願候様ニ被仰渡置候、依之此節奉祝、先格之通、私宅江被遊 御光儀被下度奉願候、其節御膳進上、御太刀・御馬代・御刀進上仕度奉存候、此等之趣、被仰上可被下儀奉願候、以上、

十月三日

種子嶋左内

右、月番御用人堀甚左衛門被請取置、

(六三三) 種子嶋左内より 御光儀之願被申出趣有之、 写

本文 御光儀願被申出候得共、時節柄故、此節者被成御延引、重而可被遊 御光儀旨被仰出候条、如例可申渡候、

十月

(鎌田政芳) 藏人

右、堀甚左衛門取次を以被仰渡候、

○十一月一日、以比年府庫多費、債錢及五百四十四

貫目有餘、君臣相議、有祿者納其七分一、無祿者

人米一升、船四枚帆以上帆一端銀三匁、三枚帆以

下五分、瀬渡舟三分、牛馬一匹一分五厘、塩屋人

塩一表、以給之、

○四日、獲鯨魚長四尋 三尺于荳永村大崎、

○十八日夜、火牧瀬權右衛門宅、餘炎及東町・納曾

十五家、

○廿二日、放足輕牧瀬與八于西之村、以盜槓本武兵

衛銀也、

○十二月二日、代 公詣 智光院殿廟、

○歳暮、規式、如例、

○明和元年甲申正月、規式、如例、

○六日、初狩名代家老 牧庄左衛門胤清、如例、

・平山傳右衛門、

○十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座 織右衛門・川

内覚右衛門、二番蛟嶋孫右衛門・下村為右、

○十三日、代 重豪公詣花尾權現、

○高尾野壽悅以竊盜之罪貶土為足輕、後五代三左衛門請以為家人、

○川内十五左衛門以數年近侍、為代々小頭格、

※六二四 某申渡書覚

覚

代々小頭格

川内十五左衛門

右、小坊子ニ而、數年首尾好相勤候ニ付、右之

通、被仰付候通、去ル十月廿四日被仰出候、

右、如例可申渡候、

〔種子島正統系圖〕十九

○三月十三日夜、野間仲左衛門下人善八、殺慈遠寺

下人傳五郎及石堂喜八姊而自殺、事聞官、

○三月至四月、大雨洪水、田地多損、

○四月三日、鮫嶋半右衛門以二十四年直宿不怠、與

上下一領以賞之、

○七日、男子生、名二次袈裟、

○十二日、以異國船來之時、國老鎌田藏人・川田伊

織・菱刈藤馬傳長崎奉行之令、如例、

※六二五 菱刈実詮外二名連署申渡書写

写

吳國船入津時分候間、浦々可被入御念旨、長崎御

奉行被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守

候様、種子嶋江可被申渡者也、

四月十二日

鎌田藏人

川田伊織

菱刈藤馬

種子嶋左内殿

〔種子島正統系圖〕十九

○十七日、締方横目四元孫左衛門・兎玉仲左衛門・

黒葛原主左衛門・山口清右衛門來、

○以東都芝邸罹池魚之災獻材、重豪公褒賞之、事

見于左、

○六二六 川田国福達書写

写

種子嶋左内

右者、芝御屋鋪就御類焼、御不如意之段被致承知、
材木被差上、達 貴聞置候、御手迫之節、右次第

御褒美ニ被思召候、

▽^④右、如例可申渡候、△

四月

(川田國福)
伊織

※六二七 種子島久芳口上書

口上

芝御屋敷御類焼ニ付、材木差上候處ニ、御褒美被
思召上候由被仰渡、難有奉存候、
為御禮参上仕候、

四月廿九日

種子嶋左内

右、御勝手方御家老川田伊織殿・同御用人岩下
佐次右衛門宅江罷出、右之通申達置候、

(種子島正統系圖「十九」)

○賀本興寺日泰上人入院、贈白銀一枚、

○四月、妙心院尊尼謀使嶋津圖書久 妹名於妻嫡男
鶴袈裟、以納殿田原春右衛門告種子嶋十郎太夫時
方、故就田原氏謝之、

※六二八 種子島久芳口上覚

口上覚

嶋津圖書殿末之妹、嫡子江御内ニ御肝煎被成度之
旨、貴様御使ニ而、同氏十郎太夫方江被仰下趣致
承知、難有奉存候、御請御禮申上度御座候条、以
御序宜御取成奉頼候、以上、

四月廿八日

種子嶋左内

右、妙心院様御納殿田原春右衛門方申達候、

(種子島正統系圖「十九」)

○五月一日、修自照院殿十七年忌法事於本源寺、

○西之表村足輕上妻助右衛門以竊盜廢足輕放下之郡
○以現和村庄司浦彌五郎者與娘袈裟事老母孝、令横

目察其實、事開于左、

○六二九 日高七郎左衛門外二名連署覚

覚

當五拾七歳

弥五郎

當九拾貳歳

右之
母

當三拾歳

右弥五郎
娘

右、弥五郎与申者、現和村庄司浦江罷在候浦人ニ
而、生付正直ニ有之、常々苦をあミ渡世を仕者ニ
而、老母を叮嚀ニ養、所之役者に對し、又者類中
隣家之者共江茂陸敷付合申候段、現和村内締向田
紋太より私共方迄沙汰仕候次第、左之通、

一 弥五郎事、妻二拾年前相果申、幼少之子男子貳人・
女子兩人有之、老母之介抱ニ而生長仕候、夫故後
之妻之儀、親類者共肝煎申候得共、老母并子共之
世話を又々後妻ニ頼申候而、若無心顔など有之候
而者、こゝろよからぬ事と存、兎哉角其身堪忍さ
へいたし候得者相済可申と落着仕候而、後妻を持
不申、以来養育仕、男子ニ者家を作り相渡、姉娘
ハ縁付申候、手本ニ罷在候乙娘と老母を深切ニ養

申候、老母事、先年大粧に相煩、折角養生仕、漸
快氣いたし候得共、夫より歩行調不申候故、母壹
人召置事ハ曾而無御座候、昼かせきに出候節ハ娘
付添居、夜ハ終夜苦をあミ、始終母ニ添罷在候、
一 先年御下鳥之節、御通路之道普請有之節、右、弥
五郎焼酎買入候而、道普請之人數江苦勞之由ニ而
振舞申候、其上苦少々差出、何方ニ而も御見合御
用ニ被召仕被下度と役者方江為差出儀茂御座候、
一 年中苦をあみ賣替申儀も、且那樣之御蔭ニ而、
茅を自由刈取申候得共、上納茂不被仰付、扱々難
有仕合ニ御座候、然者御藏方御借銀及過分ニ候段
承申候ニ付、是式恐多候得共、苦式拾枚ツ、五ヶ
年進上仕度旨、役者方迄弥五郎より申出候由、
一 弥五郎事、別而信心者ニ而、右之一類大形正直成
者ニ而、隣家之者迄見真似申事ニ候、

一 娘江茂縁与之望手多候得共、姥を見果不申内ハ何
方江茂難參由ニ而、承引不仕候故、始之程ハ脇ニ
約束共有之、右通申事哉与疑申程ニ候処、先比押

而所望人有之、姥之介抱をも掛而可為致候間、必縁与可致旨相違候得者、成程何方ニ而茂参り可申候得共、人之家ニ参り候而、親之所之介抱など仕候而相濟者ニ而無御座候故断申事之由、且又兄弟共之家より茶飲ニ呼候節ハ、始終姥を背ニ負候而参り申候由、

右之通承申候故、其段申上候処、私共ニ茂寄ト承合せ申筋ニ被仰渡、三月十八日、庄司浦江差越申、見聞仕候次第、左之通、

一母之容躰、浦人杯之母之様子見得不申、様子宜、強而かしけも仕不申、皮膚相宜、極老ニ而候得共、兼而保養宜所より右通哉与相見得候、

一母江様子を尋申候得ハ、去年者世間凶年と申事ニ而、何れ茂難儀仕申候得共、私ニハ何ぞ不如意と存申事少茂無御座候、世悴事夜もゆるりと寝入不申候、私息を引欵又ハ身動ニ而茂仕り候へハ早速起、何之用かと世話仕候故、却而迷惑ニ存程ニ御座候、昼かせきニ出候節も歸りを待兼、戸口迄ハ

はひ出待申事ニ御座候、ケ様ニ長生仕候而も、難儀と申儀無御座由、咄承申候、

一弥五郎江様子尋申候得者、私式何ぞ叮嚀と申事無御座候、食物ハ何ニ而も和かなる物を与へ、母之氣ニ不違、腹を立させ不申様ニと計存申事ニ御座候、私事、後妻を不申候而何之氣掛も無之、心之儘ニ養申候而、幸ニ存申候、母茂今日迄存命ニ而、無比上悦申候、脇目ニハ母之容躰も宜由申候得共、私目ニハ漸々衰申と見得、歎ケ敷存申候、何ぞ相替為申儀無御座由、咄承申候、

右弥五郎、正直者ニ而、実儀母を叮嚀ニ相養申、且又御藏方江苦進上仕度願申心入、旁殊勝之至ニ存申候、役者并所之者共江承合せ相違無御座、此等之段申出候、以上、

申四月廿八日

日高文左衛門

牧庄左衛門

日高七郎左衛門

○六三〇 西村清兵衛外三名連署覚

覚

覚書巻通

横目

右者、現和村之内庄司浦之弥五郎と申者、旦那様御事を別而大切ニ常住申上、其上九拾餘歳之老母江孝養第一ニいたし候段、相聞得候故、横目より奇々聞合せ候様ニ申渡置候処ニ、委細本文ニ相見得申候通、式拾餘年之間無妻ニ而、親子常住不断老母を大切ニ養候段、下々として奇特成心入、御国方ハ廣所之儀ニ御座候得者、右跡之儀可有御座候得共、此元ニテハ弥五郎程ニ致孝養候者承傳不申候、先以神妙之至ニ存申候、依之御時節柄茂相違申候得共、諸人之勵ニ茂可相成事御座候間、苦之儀不及御取納ニ、米拾表頂戴被仰付度申談候条、可被奉達 貴聞ニ候、以上、

申五月二日

西村次郎兵衛

知寛才兵衛

平山藤左衛門

西村清兵衛

種子島郷兵衛殿

○六月三日、感賞弥五郎孝養、與米十包、

※六三一 種子島郷兵衛覚

覚

米拾俵

現和村庄司浦之

弥五郎江

右者、此方を大切ニ心掛、殊更苦廿枚ツ、五ヶ年程致上納度趣、神妙之至ニ候、然共不及受納ニ候、且又九拾余歳之老母江盡孝養候段、今般役人横目より申出趣承届、下々として感心之至也、仍為褒美右之通申付候、

右之通、被仰出候間、難有謹而致拜受候様、可被仰渡候、以上、

種子島郷兵衛

寶曆十四年申六月三日

種子嶋

御役人中

(「種子島正統系図」十九)

○十八日、代 重豪公詣 得佛尊靈廟、

※六三二 小松清香申渡書写

写

種子嶋左内

六月十八日

得佛様御正忌日ニ付、淨光明寺江御代參、

右之通、剋限四時支度半上下ニ而、可被相勤

旨申渡、寺社奉行江茂可申渡候、

五月

(小松清香)

式部

(「種子島正統系図」十九)

○廿四日、柩一流来于現和村島尻渚、頗破、有一男

尸、柩上添書苑臣劉公之柩、即埋之土中、事聞官、

○七月二日、代 公詣 智光院殿廟、以忌日也、

※六三三 小松清香申渡書写

写

七月二日

智光院様御忌日ニ付、福昌寺御位牌所江 御代參、

但支度半上下、

右之通、可被相勤旨申渡、寺社奉行へも可申渡

候、

六月

(小松清香)

式部

(「種子島正統系図」十九)

○五日、見改元明和、

○八月一日、就児玉四郎兵衛獻太刀・馬代銀、使者

平山周右衛門友隆、

○四日、有 命、家老種子嶋郷兵衛・西村次郎兵衛・

知覽才兵衛・平山藤左衛門・西村清兵衛納銀十匁

贖罪、坐先善八殺傳五郎等時不得命葬之也、

○九月七日、以 正覚院殿忌日、代 重豪公詣惠燈

院廟、

※六三四 島津久起申渡書写

写

右者、明七日 正覚院様御忌日ニ付、惠燈院御位牌所江御代参、嶋津主殿江被仰付置候得共、痛所有之被成御免候、代被仰付候条、支度服沙物半上下ニ而、剋限四ツ時、可被相勤候旨申渡、寺社奉行へも可申渡候、

九月六日

(島津久起)

大藏

(種子島正統系図「十九」)

○二十七日、江都山王町非人喜兵衛病死、事達官、

○十月二十六日、妙長死、停樂三日、

○十一月十日、以 慈徳院殿忌日、代 公詣福昌寺廟、

※六三五 小松清香申渡書写

写

十一月十日 種子嶋左内 慈徳院様御忌日ニ付、福昌寺 御位牌所江 御代

参、但支度不洗物半上下、

右之通、剋限四ツ時、可被相勤旨申渡、寺社奉行江茂可申渡候、

十月廿七日

(小松清香)

式部

(種子島正統系図「十九」)

○十二月十日、以 淨國院殿忌日、代 公詣淨光明寺廟、

※六三六 小松清香申渡書写

写

閏十二月十日

種子嶋左内

淨國院様淨光明寺 御位牌所江歳暮ニ付 御代参、

右之通、剋限四ツ時、支度熨斗目半上下ニ而、

可被相勤旨申渡、寺社奉行へも可申渡候、

十二月

(小松清香)

式部

(種子島正統系図「十九」)

○十二日、締方横目藤崎新兵衛・染川市右衛門・川俣郷八・酒匂太郎左衛門来、

○二十四日、緋方横目黒葛原主左衛門・四本孫左衛門・山口清右衛門・児玉仲左衛門歸、

○廿七日、代 公詣加世田日新寺、以 公進官位也、
記左、

○六三七 小松清香申渡書写

写

白銀壹枚

種子島左内

右者、 太宰御官位ニ付、来ル廿七日加世田
日新寺江 御代参被仰付、右之通御進納被遊候
条、此旨如例可申渡候、

王
十二月廿三日 (小松清香) 式部

○歳暮、規式、如例、

○明和二年乙酉正月、規式、如例、

○六日、初狩 名代家老 (93) 三組頭羽生仙右衛門・平山柘右衛門

・西村五、
次右衛門、如例、

○十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始 射手一番美座
五藤右衛門・

川内大兵衛、二番下村實右衛門・西村治、
右衛門、三番羽生嘉藤太・八板孫左衛門、如例、

○十三日、代 重豪公詣花尾權現及郡山一之宮大明
神、

※六三八 小松清香申渡書写

写

種子嶋左内

来正月中

十三日

花尾權現江 御代参

但右江御代参之節、郡山一之宮大明神へも御代
参被仰付候、

右之通、支度熨斗目半上下ニ而、可被相勤旨申
渡、首尾係へ茂可申渡候、

壬十二月

(小松清香) 式部
(種子島正統系図) 十九

○二月十六日、以 圓徳院殿忌日、代 公詣福昌寺
廟、

※六三九 小松清香申渡書写

写

種子嶋左内

二月十六日

圓徳院様御忌日ニ付而、福昌寺 御位牌所江御代

参但制限支度半上卡、
不洗物

右之通、可被相勸旨申渡、寺社奉行へも可申渡

候、

正月

(小松清香)

武部

(「種子島正統系図」十九)

○二十日、日高五左衛門以數年仕永照院、為永代郷

士、

○四月四日、久芳為惣野奉行監吉野馬追、

○十六日、以 圓徳院殿忌日、代 公詣福昌寺廟、

○流人江戸南傳馬町市郎兵衛子市助病死、事達官、

○以異國船来之候、國老川田伊織・菱刈藤馬・樺山

左京傳長崎奉行之令、如例、

※六四〇 樺山久智外二名連署申渡書写

写

吳國船入津時分候間、浦へ可被入御念旨、長崎御

奉行被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守

候様ニ可被申渡者也、

四月十三日

川田伊織(國福)

菱刈藤馬(実陸)

樺山左京(久智)

種子嶋左内殿

(「種子島正統系図」十九)

○五月十日、久芳代 公詣福昌寺開山石屋廟、以忌

日也、

※六四一 小松清香申渡書写

写

五月十日

種子嶋左内

福昌寺開山忌日ニ付而、御代参、

但支度半上下、

右之通、剋限四時、可被相勸旨申渡、寺社奉行へも可申渡候、

四月

(小松清卷)

式部

(種子島正統系圖「十九」)

○廿六日、家老知覽才兵衛致仕、

○六月四日、代 重豪公詣 得佛尊靈廟、以修治尊像遷坐也、

※六四二 川田国福申渡書写

写

種子嶋左内

右者、得佛様御影御繕致成就、来月四日朝、御遷座御供養有之候ニ付、御代參被仰付候条、支度半上下ニ而、剋限五時、可被相勸旨、如例可申渡候、

五月

(川田国福)

伊織

(種子島正統系圖「十九」)

○十五日・十六日、修究竟院殿廿五回忌于本源寺、

○廿六日、以羽生十太左衛門能堅為家老、渡邊勘右衛門物奉行、

○七月十七日、男生生、名尚袈裟、

○八月一日、就川上五郎右衛門獻太刀・馬代銀、使者渡邊勘兵衛、

○十五日、大木壽碩為櫻嶋一世衆中、

※六四三 高橋種寿申渡書写

写

種子嶋左内家来

大木壽碩

右者、身計桜嶋衆中被仰付候、

右、御格之通申渡、地頭其外首尾係江茂、如例可申渡候、

八月十五日

(高橋種寿)

此面

右、小林仲太兵衛御取次を以被仰渡、

(種子島正統系圖「十九」)

○廿五日、以西侯段左衛門為用人、

○同日、川野嘉兵衛以數年為納殿、與高三斛、

○十月、將軍命以文字銀同品新鑄重五匁之銀、見于左、

○六四四 樺山久智達書寫

寫

此度文字銀同位を以、掛目五匁ニ定候、銀吹立被仰付候間、有来丁銀・小玉銀取交、渡方・請取方無滯可致通達候、

右之趣、国々江可觸知者也、

右之通、從公儀被仰渡候、此旨表方御役人與中・支配中・諸外城・私領江不洩様申渡、御側方・御勝手方江者、写を以可相達候、

十月

(樺山久智)
左京

▽[㊦]右之通、十月廿七日被仰渡、△

○十九日、火安納村沖ヶ濱田十八之宅、餘炎及廿五家、

○廿八日、命以江戸邸焼失之故定賦外高一斛納米一

升五合、

○十一月六日、二次袈裟授法戒師本源寺、代本法寺

○十八日、梟首足輕鎌田藤七、以破庫倉盜錢也、

○十二月廿九日、有馬伴之進以數年近侍之功、與高三斛、

三斛、

○歳暮、規式、如例、

○明和三年丙戌正月、規式、如例、

○六日、初狩名代家老、(マ)、三組頭川内慶兵衛・美座十郎右衛門

・川内殊、右衛門、如例、

○九日、獲鯨魚長五增田村岩屋口、

○十一日、具足祝、軍陣・温坐祈念、的始射手一番美座川内寛右衛門、二番鮫嶋八郎太・下村用、右衛門、三番日高勝左衛門・八坂平太夫、如例、

(以下ノ記事ト文書ニ通ハ系箇中ニアルモ全文抹消サレテイル)

▽[㊦]○二月廿三日、訴足輕鮫嶋仙十郎、現和村百

姓万七私遠流之事於官府、△

※六四五 種子島左内口上覚

口上覚

足輕

鮫嶋仙十郎

種子嶋現和村百姓

萬七

右氣任者ニ而御座候間、一往為折檻私遠

流申付度御座候間、御免被仰付被下度奉

願候、於御免者便船承立追而願可申上候、

此旨被仰上可被下儀奉願候、以上、

戊二月廿三日

種子嶋左内

(種子島正統系図) 十九

※六四六 種子島左内口上覚

口上覚

足輕

鮫嶋仙十郎

種子嶋現和村百姓

萬七

右者氣任者ニ而御座候付、為折檻私遠流

申付奉願候處、願之通御免被仰付、便船

承立可申旨被仰渡置候、然者此節徳之嶋

江差遣申度、船頭種子嶋之次郎右衛門へ

申付候間、御引付被仰付被下度奉願候、

此旨被仰上可被下儀奉願候、以上、

戊二月廿四日

種子嶋左内

(種子島正統系図) 十九

○四月、以異國船來之時、國老嶋津仲・菱刈藤馬・

榊山左京傳長崎奉行之令、如例、

※六四七 榊山久智外二名連署申渡書写

写

吳国船入津時分候間、浦々可被入御念旨、長崎御

奉行被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守

候様、種子嶋江可被申渡者也、

四月十四日

嶋津仲

(久健)

菱刈藤馬

(実陸)

榊山左京

(久智)

○五月二日、以智光院殿忌日、代 公詣福昌寺廟、

※六四八 小松清香申渡書写

写

五月二日

種子嶋左内

智光院様御忌日ニ付、福昌寺御位牌所江 御代參、

但服沙物半上下、

右之通、剋限四ツ時、可被相勤旨申渡、寺社奉

行へも可申渡候、

四月

(小松藩寄)

式部

(種子島正統系圖)十九

○十七日、締方横目藤嶋新兵衛・染川市右衛門・河

俣郷八・酒匂太郎左衛門歸、

○六月十一日、二次袈裟夭亡、法諱法玉蓮幼童子、

○十八日、米倉吏牧瀬權右衛門・有富五右衛門與名

越伊右衛門・有富仁右衛門、坐偽米百三十石以無

為有、寺入十二月、物奉行羽生十太左衛門・種子

嶋清左衛門・渡邊勘兵衛・平山休兵衛・平山周右

衛門、坐紀綱緩疎逼塞、

○七月二日、以西之表村牧瀬宇兵次竊盜、廢足輕繫

牢百日、

○八月一日、就二階堂八太夫獻太刀・馬代銀一枚、

使者東八郎右衛門、

○十一日、羽生五角右衛門・河東十郎左衛門・船頭

松下滿右衛門自殺、遣此輩于屋久嶋購求官之材、

時私材事發覺、即我有司與締方横目共議將及詢問、

既知無所逃罪及此、水手六人海士泊之庄八・庄司浦之庄

間浦之甚十郎・太兵衛繁牢、事告官、濱田浦之次五右衛門

○晦日、榎本文兵衛以數年勤勞之故、為組士、

○賀本能寺日泰上人入院、贈白銀一枚、

○九月十五日、締方横目新納甚右衛門・竹廻十右衛

門・肥田惣左衛門・羽嶋四郎左衛門來、

○十八日、八板志賀助姊岩野以數十年勤勞、與高三斛、

○廿日、以糺明奉行中野織右衛門・黒岩庄左衛門令

送水手海士泊之庄八・濱津脇之次右衛門・嶋間浦

之甚十郎・太兵衛・濱田浦之次五右衛門于覺府、

以糺盜屋久嶋材也、

○廿六日、赦七分一之賦稅、

○廿八日、締方横目鎌田權右衛門・酒匂太郎左衛門・
四本半平・川上助八婦、

○廿九日、以國上村之日高甚助竊盜、廢足輕收屋敷、

○晦日至十月一日、遷自元祖信甚至十七代忠時神主
于本源寺釈迦堂、以三箇寺僧修追遠之祭、而以往
每五十年以為例、

○十月十六日、以 圓德院殿忌日、代 公詣福昌寺
廟、

○十一月、初置内横目、

○十七日、以前田太郎右衛門為用人、

○柳田金七以竊盜、廢足輕收録地、

○歳暮、規式、如例、

○明和四年丁亥正月、規式、如例、

○六日、初狩名代家老、物奉行、用人
知覽源、三組頭西村權兵衛・西俣傳左衛門・
太兵衛、如例、

○十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座
兵衛、二番蛟嶋孫右衛門・下村實右衛門、源太・河内大
門、三番日高猪三太・八板孫左衛門、如例、

○同日、為大乘院火消奉行、

○二月晦日、免物奉行平山傳右衛門寺入十三月、坐
以老母病辭覺府之役書中有不敬也、

○三月十七日、國上伊兵衛以數年勤勞、為組士、

○十九日、締方横目肱岡次郎兵衛・二階堂與右衛門・
関七左衛門・池田八十次來、

○糺明奉行梅北次助傳令、赦私屋久嶋材水手六人、

○四月、以異國船來之時、國老嶋津仲・菱刈藤馬傳
長崎奉行之令、如例、

※六四九 桂久中外二名連署申渡書写

写

吳國船入津時分候間、浦々可被入御念旨、長崎御
奉行被仰渡候条、兼而申渡置候趣、弥以堅固相守
候様、種子嶋へ可被申渡者也、

四月十三日

嶋津仲(久健)

菱刈藤馬(実盛)

桂織部(久生)

種子嶋左内殿

〔種子島正統系図〕十九

○廿四日、締方横目新納甚右衛門・竹迫十右衛門・

肥田早左衛門・羽嶋四郎左衛門帰、

○五月六日、市来順密以待讀鶴袈裟、與高三斛、

○八日、有富有右衛門以為僕數年仕鶴袈裟、為郷土、

○九日、坐收枡實于西之村時私曲、檢者羽生七左衛

門・吉良幸十郎・庄屋羽生五郎兵衛・植木見舞川

東與平太・岩坪八右衛門寺入五年、其余連及者有

差、

八月一日、就園田紋太郎獻太刀・馬代銀、使者岩

河十右衛門、

○八日、西村官左衛門・一湊六郎兵衛禁錮十二月、

坐嚮池田庄左衛門請墾田于大浦、令群臣議之事定

二人言其不便不敬也、

○十四日、賞阿世知新右衛門工匠之功、以扶持高為

永代、

○十月四日、締方横目星山仲藏・高城元藤八・家村

平八・富山七郎来、

○十三日、蒙 重豪公之 命、獻鹿四十三匹 廿廿九
牝十四

于大磯館、

○十六日、以御目附座令、聞田祿・寺社・村里・戸

口之數及本嶋至覺府路程、

○廿九日、締方横目池田八十次・關七左衛門・脇岡

次郎兵衛・二階堂與右衛門帰、

▽^⑥○去々歲十二月廿八日、鎌田藤七為盜、即家老

雖稟白之官府、尔來無復 命、因久芳請使藤七行

斬罪之科、見于左、△

※六五〇 種子島久芳口上覺

口上覺

足輕鎌田半次子
鎌田藤七

右者、去々西十二月廿八日之夜、種子嶋下屋敷外

圍垣を破、屋敷中ニ有之候藏之屋根を伐破、藏之

内ニ忍入、箱ニ入付置候錢拾貫文餘盜取候段、於

種子嶋相糺候て、其身より白状仕候ニ付、則入牢

申付置候由、去戊二月、種子嶋役人共より書付を

以、御披露申上置候、然者先年以来、段々被仰渡置候通、此節之儀茂御直之者江不相掛、一家中迄之儀御座候間、右藤七事、於種子嶋斬罪科申付度御座候間、此段申上候、以上、

亥七月廿七日

種子嶋左内

右、差出候処、御用人新納次郎四郎被請取置、

(「種子島正統系図」十九)

※六五一 桂久中申渡書写

写

鎌田半次子

鎌田藤七

於種子嶋、鼻首、

右、去々西十二月、於種子嶋主人蔵を破り、銭

拾壹貫文餘盜取候旨、於嶋白状いたし候、右不

届ニ付被行鼻首候、右之通、於種子嶋ニ役人横

目等立合御仕置、別紙日執之内見合せ申付候条、

御仕置相濟候首尾、無遅滞申越候様、如例申渡

候、

但御當地より横目足輕等被差越不及候、

十月

(桂久中)

織部

(「種子島正統系図」十九)

○十一月一日、久芳請免職、同六日國老高橋此面傳命被許之、見于左、

○六五二 種子島久芳口上覚

○ 口上覚

私事、無調法者ニ御座候処、當御役被仰付置難有次第奉存候、脱躰身弱、其上持病積之病節々差起、段々養生仕候得共全快不仕、近年者猶以身弱罷成、折々湯治ニ茂差越、且薬用等段々仕、毎度步行御暇を茂奉願、折角療養仕候得共、旧冬より痛多々差起、全快仕躰無御座候間、去ル六月、當御役并定火消・犬追物稽古迄、御免被仰付被下度奉願候処、今一往得与致養生相勤候様被仰渡、難有次第奉存、此節湯治ニ茂差越、猶又薬用等段々仕候得共、今程全快之躰相見得不申候、依之無間御断申上候儀、近頃恐多儀奉存候得共、右次第ニ御座候間、當御

役并定火消・犬追物稽古迄、御免被仰付被下度奉願候、左候ハ、引入心之及養生仕度奉存候、適々難有被仰付置候御役御断申上候儀、残念至極奉存候得共、不及是非奉願候、右通御免被仰付被下候ハ、得与致養生得快氣、御奉公方相勤申度念願ニ奉存候、可成程者相勤可申与致勤弁候得共、今躰ニ而者相勤候儀難叶御座候間、此等之趣を以被仰上可被下儀奉頼候、以上、

十一月朔日

種子嶋左内

○六五三 高橋種寿申渡書写

写

種子島左内

右病氣有之、段々致養生候得共、今程全快可仕躰無之候間、當御役并定火消・犬追物稽古迄、御免被仰付度旨申出趣有之、願之通御役御免被仰付、定火消并犬追物迄被成御免候、未年若ニ候間、先様得快氣候者、以御見合可被召仕候、

右之通、如例可申渡候、

十一月

(高橋種寿)
此面

右之通、十一月六日御用人大野多宮御取次を以、北條十左衛門江被仰渡、

○十一日、以牧庄左衛門為物奉行、家格役人組、美座十郎右衛門用人、

○廿二日、以西村甚五右衛門・種子嶋三左衛門為家老、岩川十右衛門・美座十郎右衛門・前田太郎右衛門・上妻郷太夫物奉行、東八郎右衛門・西村周左衛門・上妻雲角用人、

○廿四日、家老羽生十太左衛門・物奉行渡邊勘兵衛・種子嶋清左衛門・平山周右衛門・平山休兵衛各請免、

○十二月七日・八日、修清心院殿十三回忌于本源寺、

○十日夜、西之村假屋火庄屋鮫嶋八郎兵衛一七日寺入

○歳暮、規式、如例、

○明和五年戊子正月、規式、如例、

○六日、初狩 名代家老西村次郎兵衛、物奉行
三組頭東八郎右衛門・西村周左衛門、用人

・上妻、如例、
雲角

○十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始 射手一番美座
織右衛門・川
内十五左衛門、二番下村為右衛門・西村、
治右衛門、三番羽生七郎次・八板平太夫、如例、

○同日、重豪公賞現和村庄司浦之彌五郎與娘袈裟
孝老母、賜米各三斛、記于左、

○六五四 高橋種寿達書写

○ 写

種子嶋現和村之内庄司浦之

弥五郎

右同人娘

袈裟

御米三斛ツ、

右弥五郎事、母存生之内深切致孝養、奉公方ニ

茂精を出、袈裟儀茂祖母江同前致孝養候段、被

聞召上候、依之為御褒美、右之通被下之候条、

難有頂戴可為仕候、

右之通、種子嶋左内於宅申渡候様ニ如例申渡、

御米渡之儀者、御勝手方へ可相達候、

正月

(高橋種寿)
此面

○六五五 物奉行連署送状

送状

御米六斛

但式ッ入表数式拾六表、壹ッ七升六合、壹人ニ

付三斛ツ、

種子嶋現和村之内庄司浦之

弥五郎

袈裟

右者、弥五郎母存生之内、深切致孝養、奉公方

ニ茂精を出、袈裟事も祖母江同然致孝養候段、

被 聞召上候、依之為御褒美、右之通被成下候

旨、御證文を以被引渡候ニ付、山川迄者宿次を

以差越置、便船を以其元江可差越旨被引渡、右

之通差越候間、右之趣を以可被引渡候、尤相請

取、右之者共致頂戴候段、便之節可被申越候、

此段申越候、以上、

物奉行

子正月廿日

和田半右衛門

東郷主左衛門

石川庄右衛門

池田市右衛門

種子島
役人中

○二月十四日、使用頼伊東正七請加家督星於十五代左兵衛尉時次、以元祿八年有命寫家乘納官時脫之也、記于左、

○六五六 伊東正七口上覚

○口上覚

元祿八年諸家系圖御用ニ付、種子嶋家系圖写を以、同二月廿七日差出置申候、然者十五代左兵衛尉時次家督為仕者ニ而御座候故、種子嶋左内方系圖本書ニ家督星御座候処、右写差出候節、家督星相掛差出候哉、至只今無覚束儀御座候間、御見合被下度奉願候、若無御座候ハ、御掛被下度奉願候、此段申出候様ニ左内被申付、如此御座候、以上、

二月十四日

用頼
伊東正七

○六五七 吉田清純書状

○此節從種子嶋左内殿、御先祖十五代左兵衛尉時次家督星之儀、願被為申出、先年被差出置候系圖之内、時次家督星無之ニ付、同席中申談之上、此節依御願ニ家督星相掛置候間、左様御心得可被成候、此段申達候、以上、

御使番御記録方勤
吉田周右衛門(清純)

明和五年子二月十五日

伊東正七殿

○本興寺破壊請勸化、久芳附白銀十枚・一嶋檀越六百目、

○四月、以異國船來之時、國老菱刈藤馬・桂織部傳長崎奉行之令、如例、

○將軍命以武州新里村百姓半次郎傷養父瀨左衛門出奔搜索之、集旅人於慈遠寺、檢察之不得、事聞于

官、

○將軍命真鍮錢一錢與尋常四錢通用、

○五月二日、山奉行所命自十一月至正月三狩納鹿皮

俗号三度狩如此時、

▽◎○三月三日、自山奉行所間、於種子嶋有三度狩

哉又鹿之皮肉取何處哉、書記此事、而可稟白山奉

行所也、事見于左、△

※六五八 平山藤左衛門覚

覚

種子嶋ニ而三度狩・初狩有之候哉、皮肉之儀ハ、

何方江相納候哉、委細書付を以可申出旨被仰渡奉

畏候、三度狩と申候ハ無御座候、初狩之儀ハ、古

来より旧式として、年頭ニ狩山仕事ニ御座候、左

候而獲物御座候節ハ、肉之儀ハ其當日規式方并相

集候人数江為給、皮之儀ハ種子嶋左内蔵方へ相納

来申候、古来より右之通ニ而皮肉共御物へ相納之

儀無御座候、尤左内臺所用事ニ付間ニ狩山仕事御

座候、其節も皮之儀ハ左内蔵方江相納来申候、此

段被仰上被下度奉頼候、以上、

三月三日

種子嶋役人

平山藤左衛門

(種子島正統系図十九)

◎六五九 山奉行所達書

○種子嶋之儀、先年より三度狩無之候得共、當冬よ

り十一月・十二月・来正月迄一ヶ月ニ致狩方、取

得之鹿皮入念張調、便船を以當座江送状相附可被

差出候、肉之儀者先年より有来候通、嶋法様次第

可取計候、

右之通、迫水善左衛門殿御取次を以被仰渡候、

五月二日 山奉行所

○廿七日、河野金兵衛以竊盜、廢士為足輕、

○奉 命送鎌田藤七妻子于寃府、

○六月三日、檢使顯川清右衛門来檢點船、

○八日、與氏於種子嶋三左衛門時利庶子時任、於種

子嶋郷兵衛時次庶子子嶋、於種子嶋清左衛門時甫
庶子種子田、

○十一日、締方横目富山七郎婦、

○廿五日、檢使顯川清右衛門婦、

○七月三日、締方横目川上澤右衛門・市來四郎太・

羽嶋四郎左衛門・葦谷四郎右衛門來、

○十九日、締方横目星山仲藏・高城元藤八・家村平
八婦、

○八月一日、就赤松新之丞獻太刀・馬代銀、使者前
田太兵衛盛昌、

○十八日・十九日、修法運院殿二十五年忌于本源寺、

○十月廿四日、與西村權兵衛年俸米三石給貧、以數
代勤勞之家也、

○十一月三日、以平山休兵衛為家老、

○十三日、葉樹院死、法諱葉樹院殿妙栄日真大姉、

○十二月三日・四日、修誠諦院殿廿五年忌于本源寺、

○生蠟船趣大坂之時、於日州外浦見材木流去、即運
漕使美座治右衛門時興、令水稍揚之、授浦長而去、

是伊東豊後守祐福船材也、事聞祐福、因感之賜錢
三貫文於水稍等、事記于左、

○六六〇 樺山久智申渡書寫

寫

御船奉行より種子嶋左内自分生蠟船大坂表江差遣
候節、日州外之浦ニ而横板杓枚見當り問屋江引渡
置候処、伊東豊後守様御船材木之由ニ而、右之水
主共江鳥目三貫文被成下之旨、種子嶋役より申
出候故頂戴可為仕哉之旨、しらべ申出趣有之、

本文御船奉行申出通被成下候鳥目之儀者、先例之
通頂戴申付候、且書狀別紙案文之通相認、可差遣
候旨、如例可申渡候、

十二月

(樺山久智)
左京

○十二月、以福昌寺再興故、久芳寄附白銀十枚・一
鳴錢三貫文餘以給費、

○歳暮、規式、如例、

(表紙)

明和六 安永三	種子嶋家譜 久芳	二十一代 十八
------------	-------------	------------

明和六 安永三	種子嶋家譜 代久芳	二十一 十八
------------	--------------	-----------

十八

明和六年己丑正月、規式、如例、

六日、初狩名代家老西村甚五右衛門時右、物奉行美座十郎右衛門時用、用人東八郎右衛門氏包、組頭西村官左

衛門時武・西村番右衛門時、如例、
眉・日高文左衛門實本

同日、阿世知春右衛門以工匠之功、為組士、

十一日、具足祝、軍陳・溫座祈念、的始射手一番美座源太時、岩

川甚九郎時副、二番鮫嶋八郎太宗員、下村用右衛門、如例、
時許、三番羽生五郎左衛門能容・八坂諸左衛門佐伴

廿日、慈遠寺祖師堂再興成、

二月、若松幸之丞為家臣、

三月七日、高奉行一湊六郎兵衛・羽生仙右衛門・

平山仁左衛門・日高澤右衛門・岩川作左衛門・羽

生武兵衛・鮫嶋彈右衛門寺入六十日、坐使之曹斷

平山周右衛門與遠藤壯兵衛下人争地之獄之日拒政

府命也、

十五日、締方横目丸田仲左衛門・日高善助・伊東

甚八・寺師平右衛門来、

十七日、締方横目川上澤右衛門・市来四郎太・羽

嶋四郎左衛門・葦谷四郎右衛門婦、

將軍命以吹立五匁銀六十目易金一兩、

廿五日、褒賞美座治右衛門時興、以去歲於日州外

浦會流木處置宜也、

四月、以異國船來之候、國老菱刈藤馬、榊山左京・嶋津左中傳長崎奉行之令、如例、

十七日、流人下総國佐倉市右衛門子非人傳吉病死、稟白官、

六月廿六日、以日高源右衛門為物奉行・家格役人組、

八月一日、就中江八右衛門員壽獻太刀・馬代白銀一枚、使者美座十郎右衛門時用、

九月六日、家老前田新五兵衛(71)死、

十一日、締方横目大山喜右衛門・土橋大右衛門・新納定右衛門・渋江源藏・清海伊右衛門來、

廿六日、重豪公夫人薨、停柩廿八日、

十月十四日、請鶴袈裟首服及改名彈正、事記左、

○六六一 種子島久芳口上覺

口上覺

私嫡子種子嶋鶴袈裟、當十歳ニ罷成候間、御序を以元服被仰付被下度奉願候、御太刀・銀馬代・折

六合・御樽三荷進上仕來候間、先格之通被仰付被下度奉願候、此旨被仰上可被下儀奉願候、以上、

十月十四日 種子嶋左内

○六六二 種子島久芳口上覺

口上覺

願名
彈正

私嫡子種子嶋鶴袈裟事、此節元服之願申上候、依之御差支無御座候ハ、右之通名替被仰付被下度奉願候、此旨被仰上可被下儀奉願候、以上、

十月十四日 種子嶋左内

十月、締方横目・山方兼役土橋大右衛門賣凡採材則締方横目與家老共到伐材之處及轉送之津檢察之、而以吾地從古異他之領地、官府用木外盡賜之、故無如是例、家老上書辭訴之、事記于左時商材于覺府買人久田久四郎、故、及比事、

○六六三 平山休兵衛口上覺

(六三三の二)
口上覺

屋久嶋拔木締方ニ付、種子嶋締方御横目衆被召置、
山方兼役被仰付候間、材木改等之次第、於木場極
印入調、濱着之所ニ而相改、無極印材木之基相糺、
都而地方私領山方同前之首尾ニ被仰付候、種子嶋
山方之儀、外私領山方与者訳も相替候ニ付、右通
被仰付ニ者不及義ニ候得共、屋久嶋拔(木脱方)為締ニ差
越儀ニ候故、御扶持米等御物より被相渡候由、先
比被仰渡候、然處ニ於種子嶋山方兼役締方御横目
衆より、役人共ニ茂木場改等之節、山床江罷登立
合相勤、諸首尾仕候様承知仕候ニ付、罷登改方仕
筈ニ御座候得共、種子島山方之儀者、地方御私領
山方とハ相替、格別之拜領山ニ而、前より手山
仕来候ニ付而者、木場改等ニ付役人立合首尾仕候
儀、何とそ御免被仰付被下度奉願候、其外役之
儀者、何様ニ茂相勤可申候、尤材木積入方ニ付而
者、被仰渡候旨を以折角氣を付、御横目衆へ相附

役と立合細密改方可仕候、屋久嶋拔木為締、右通
被仰渡候ニ付而者、格別之儀御座候故、何様ニ茂
奉畏筈之儀ニ候得共、享保年間被仰渡候趣も御座
候間、御取分を以御免被仰付被下度奉願候、此旨
被仰上可被下儀奉願候、以上、

種子嶋左内役人

平山休兵衛

丑 十月十五日

(六六三の二)
右之通申出趣、種子嶋左内被承届、此旨私より可
申上旨被申付候、以上、

用頼

伊東正七

丑

十月十五日

○六六四 勝手方申渡書写

写

此表種子嶋山方之儀者訳相替候ニ付、締方等申付
候ニ不及儀候得共、船積之節、屋久木取交候儀も
可有之聞得有之候故、先達而地方私領山方同様之

筋申渡置候、畢竟屋久木為締之候故、山方兼役ニ而差越候、締方横目御扶持米等も御物より被下筋申渡置候、右通ニ候得者、締方横目山床差越、極印等入調ニ不及筈候間、有来通所横目并山方役ト迄差越相改、極印入調、野取帳濱着取寄之所へ相詰居候山方兼役ニ被召置候横目、又者締方横目江差出、所役ト立合相改、積入等之儀者先例之通可申渡候、若極印迦有之候共、種子嶋材木於無別条者、其場ニ而極印入調、野取帳ニ可書載置候、屋久木之儀者種子嶋材木トハ格別相替、取交候而茂其紛無之由候得共、自然ト於木場ニ極印入調候材木之内、屋久木ニ紛敷品於有之者取揚置、得差圖候様可申渡候、専屋久木拔積之締方肝要之儀候間、濱着改方入念相改、積入等先例之通可申渡候、且又御用ニ立候木柄改方之儀、態ト致改方ニ者不及候間、何そ序之節所役トより相改帳面ニ相記、山奉行所へ差出候ハ、吟味之上何分可申渡候、其外山奉行申出之通申付候条、如例可申渡候、

丑

十一月十五日

御勝手方印

取次

川上弥五太夫

自往年以有負債五百貫目、有司胥議、嶋中出定賦外之稅、竭力而償之、或風雨旱蝗之災不能屈指而償之、積年則漸至償之乎、明察經費防禦奢侈之外無他也、方此時發起杉形模合掛錢結三十人黨、有其中親者五人、子者廿五人、共計三十人、約出金銀百目或二百目・三百目、初附発起事親一人、次拈圖附子一人、次又拈圖附親一人、已下同、春秋二開座、約至十有五年事終謂之杉形模合掛錢一口、假他力則筭年宜償之、何足患焉此時使諸士議之、或可或不、假他力則筭年宜償之、何足患焉、此時使諸可也、異之者多、既十一月十二日結一黨、始而行之、漸以為結幾口之黨故、家老平山藤左衛門頭友官俸高四・筆吏芝采右衛門官俸高十石在覺府邸指揮之、十七日、締方横目丸田仲左衛門・日高善助・伊東甚八・寺師平右衛門帰、十一月、被許鶴袈裟首服事、記于左、

○六六五 島津久金申渡書写

写

種子嶋左内

右、嫡子種子嶋鶴袈裟元服之願被申出、来ル廿八日 御直元服被仰付、家格之通御太刀・馬代・折六合・御樽三荷進上被仰付候、

右之通申渡、首尾係り江茂可申渡候、

十一月

(島津久忠)
左中

○六六六 種子島久芳口上覚

口上覚

私嫡子種子嶋鶴袈裟事、来廿八日御直元服可被仰付旨被仰渡、難有次第奉存候、依之右當日私より茂御太刀・銀馬代進上仕、御礼申上度奉願候、此旨被仰上可被下儀奉願候、以上、

十一月

種子嶋左内

廿八日、鶴袈裟登 城元服、重豪公加冠、樺山左京久智理髮、時賜盃酒及御脇指法城寺 國永一腰、改

名弾正庸時、獻太刀一腰・馬代銀一枚・天井折六合・酒樽三荷、久芳亦獻太刀一腰・馬代銀一枚奉謝之、事開于左、

○六六七 島津重豪加冠状

加冠

種子嶋鶴袈裟

宜為

彈正

明和六丑

十一月廿八日 (花押)(重豪)

(本文書ハ「旧記雜錄追録六」六〇七号文書ト同文ナリ)

○六六八 種子島庸時進上目録(六六八の二)
進上

御太刀 一腰

御馬 一疋

以上、

種子島彈正

庸時

(六六八の二)
此表御納戸藏

一 御太刀一腰

一 銀壹枚御馬壹疋代

右、元服之為御礼進上有之、表御用人座丑十二月
廿八日任引付上納也、

丑

十二月四日

鎌田休兵衛

野村正助

(本文書ハ六六八の一号文書ノ行間ニアリ)

○六六九 種子島久芳進上目録

(六六九の二)
進上

御太刀 一腰

御馬 一疋

以上、

種子島左内

久芳

(六六九の二)
此表御納戸藏

一 御太刀壹腰

一 銀壹枚御馬一疋代

右者、嫡子元服之為御礼今日進上有之、十一月廿
八日御用人座任引付上納也、

丑

十二月四日

鎌田休兵衛

野村正助

(本文書ハ六六九の一号文書ノ行間ニアリ)

○六七〇 種子島庸時進上目録

(六七〇の二)
進上

御折 六合

御樽 三荷

以上、

種子島彈正

庸時

(六七〇の二)
此表御納戸蔵

一錢四拾文 銀ニシテ六分

御折六合塗代

但現物御近習江上ル、

一錢貳貫四百文 銀ニシテ三拾六匁

御樽三荷代

右者、元服之為御礼進上有之、丑十一月廿八日表

御用人座任引付上納也、

鎌田休兵衛

丑十二月四日

野村正助

(本文書ハ六七〇の二号文書ノ行間ニアリ)

○六七一 息長清純実名考

御實名

寶曆十年庚辰八月廿一日 御誕生、御家之字時

庸時

歸納容

右、時字屬金局、故配以土局之庸字、則生本命

金、且兩字以八卦而合字畫、卜之得巽、巽具出世象、併是吉善者也、

息長清純謹考

(ママ)
朱印朱印

明和六年己丑

初冬吉辰

鶴袈裟君

十二月九日、以西村權兵衛為用人、

歲暮、規式、如例、

明和七年庚寅正月、規式、如例、

六日、初狩名代家老渡邊勘右衛門縁、物奉行日高源右衛門為將、用人上妻雲角貞兼、組頭上妻惣左衛門隆安。

平山拓右衛門清友、
・西村甚七時祐、
如例、

十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座次五左衛門時

美・西村治右衛門時滋、二番鮫嶋官兵衛清用、下村實、
右衛門貞行、三番日高平實因・八板孫左衛門安重、
如例、

二月十四日・十五日、修世雄院殿四十九年忌于本

源寺、

以下民困窮故、自今年減租銀五分之半、

三月一日、締方横目小倉武兵衛來、

十三日、締方横目大山喜右衛門・土橋大右衛門帰、

廿四日、締方横目西俣彦九郎・山田権八・徳永善

左衛門・村田與三來、

渡邊覚太夫禁錮六個月、以為酒狂人所辱於覺府市中也、

四月十三日、獲江豚百八十自六尺至九尺于納官村峯尻、

廿六日、安置十二面觀音於馬毛嶋、

廿七日、新納定右衛門・澁江源藏・清海伊右衛門歸、

以異國船來之候、國老川田伊織・小松帶刀・喜入主馬傳長崎奉行令、如例、

五月十七日、羽生源七貶土為庶人、囚之百日、以竊帶他人刀且斷舟索之罪也、

同日、牧休四郎貶土為足輕放于西村上瀬田、坐盜大會寺佛前供具或斷舟索之事也、

閏六月九日、武田喜三右衛門・鮫嶋治兵衛自殺、

以去歲為覺府邸金藏吏贓錢發覺也、即藉没其家財、

物奉行岩川十右衛門坐其紀綱疎、逼塞百日、後物

奉行日高源右衛門連坐、目通遠慮二七日、高崎一

右衛門坐借名目屬贓錢府庫轉達于本嶋、寺入五十

日、樋口十七坐相謀以贓錢為己有而欺上、寺入一

年及納銀二枚、東町茂七・太郎兵衛・惣次郎・與

七左衛門逮及、寺入五月、罰錢三貫文、

十七日、勢州市右衛門子非人彦兵衛死、聞于官、

七月、大木壽碩以醫術功為官醫一世府下士、子孫

代々櫻嶋郷士、開左、

○六七二 小松清香申渡書

御城下一代士

大木壽碩

右家内、代々櫻嶋衆中被仰付候旨、於江戸申渡有之候条、此旨種子嶋左内江申渡、首尾係江茂可申渡候、

七月

(小松清香)

帶刀

十七日、覺府市人西村作兵衛獻鎧明一領・瑪瑙一盤、

八月一日、就田中孫七獻太刀・馬代銀一枚、使者

日高源右衛門為將、

九月十九日、長崎流人庄左衛門病死、稟白于官、

十月十六日、緋方横目川上十左衛門・岡村嘉平次・

愛甲彌三太・諏訪仲左衛門・平田堅助來、

十一月十五日、西俣彦九郎・山田權八・德永善左

衛門・村田與三太婦、

十八日、高尾野新右衛門寺入三年、日高休助貶組

士為郷士、坐共鬪爭新右衛門鞭撻休助助蒙辱也、

十二月九日、奥田金太左衛門以數年近侍之功、與

高三石、

廿日、家老平山休兵衛死、

歳暮、規式、如例、

明和八年辛卯正月、規式、如例、

六日、初狩名代家老種子嶋郷兵衛時央、物奉行牧庄左衛門胤

・知覧源太兵衛行村、
西村五次右衛門時用、

如例、

十一日、具足祝、軍陳・温座祈念、的始射手一番美座
富・川内秀八時以、二番鮫嶋定七資茂・下村為右、五藤右衛門時
衛門時峯、三番日高猪三太實伴・八板平太夫廣致、如例、

二月五日、上書請庸時角入、見于左、

○六七三 種子島久芳口上覚

(六七三の二)
口上覚

私嫡子種子嶋彈正事、當年十二歳ニ罷成、勢頃相

應ニ御座候、御見分之上、角入御免被仰付被下度

奉願候、尤 御直元服被仰付、始而之 御目見相

濟申候、此等之趣被仰上可被下儀奉頼候、以上、

二月 種子嶋左内

(六七三の二)
写

本文願之通、無見分角入御免被成候条、如例可申

渡候、

二月 (嘗入久福) 主馬

六日、庸時角入、

十九日、請婦本嶋詣祖廟且布政、許之、事開于左、

○六七四 種子島久芳口上覚

(六七四の二)
口上覚

私事、私領種子嶋江久と罷越不申、先祖墓参り仕度御座候、且又家来共江段と申付度儀御座候間、六ヶ月御暇被下置度奉願候、蒙 御免置候ハ、遠海之儀ニ御座候間、時節見合罷越申度奉願候、此等之段被仰上可被下儀奉頼候、以上、

二月十九日 種子嶋左内

(六七四の二)
種子嶋左内より私領種子嶋へ先祖墓参り等仕度、御暇之願被申出趣有之、

本文願之通、六ヶ月御暇被下候条、如例可申渡候、

二月 主馬 (喜入久福)

晦日、締方横目川上甚助・妻屋鐵兵衛・日高十左衛門・伊勢権九郎・伊集院八左衛門来、三月、伊東正七祐術躰用頼、以上山善右衛門代之、

十六日、締方横目川上十左衛門・岡村嘉平次・愛甲彌三太・諏訪仲左衛門・平田堅助帰、

廿六日、以美座十郎右衛門為家老、野間仲左衛門物奉行、

四月、以異國船来之候、國老川田伊織、小松帯刀、喜入主馬・桂織部傳長崎奉行之令、如例、

十八日、牧瀬免八・池村順安以通侍女、貶士為庶人、

五月廿七日至十九日、雫於鴨女川、

六月晦日、平右衛門時庸死、法号園林院日樹居士、

七月廿一日、以平山傳右衛門知友為物奉行、

廿八日、與高五十斛於種子嶋三左衛門時利、

八月朔日、就四元正蔵英草獻太刀・馬代白銀一枚、使者前田太兵衛盛苗、

十七日、以羽生十太左衛門為用人、

廿日、御臺所薨、禁樂、

九月三日、本城源七郎傳長崎奉行令曰、去歲種子嶋船飄到朝鮮國而来長崎、其船長新右衛門及水稍

等附之薩府廳也、

六日、緋方横目町田庄右衛門・中馬條右衛門・大山文左衛門・大山三七・比志嶋七郎次來、

廿五日、緋方横目川上甚助・妻屋鐵兵衛・日高十左衛門・伊勢權九郎・伊集院八左衛門、

十月、以有馬伴之進為代々頭、

久芳嚮請 太守重豪公貴臨、被止之、事開于左、

○六七五 島津久金申渡書写

写

種子島左内

右者、家格ニ付、被遊 御光儀事候処、御時節柄故、重而可被遊 御光儀由、被 仰出置候得共、御儉約七ヶ年内御延引可被遊被 仰出候、

右、可申渡候、

(島津久金)

十月 左中

十一日、久芳及婦人・彈正庸時・尚袈裟時美・四

女子 於政・於照・於保野・於藤・四郎助時良發覺府、十三日到、與系圖及券書時良、見于左、

○六七六 種子島久芳達書

從十九代久基三男時純至御自分系圖一卷、令筆記附屬之早、至子孫聊無緩疎可有竇藏者也、

明和八年辛卯十月吉辰 久芳

種子嶋四郎助殿

十一月十三日、叔母川上彌五太夫久福婦人死、法

諱玉心院殿清霜妙白大姊、

廿三日、公修 圓鏡院殿妙蓮大姊二百遠忌於國

分於遠壽寺、使平山新兵衛信友獻香奠 金子二、百匹、

十二月七日・八日、修清心院殿妙蓮日詮大姊十七

年忌于本源寺、

大守重豪公下 命于三州正風俗、久芳奉 旨而宣

之嶋中、開于左、

○六七七 種子島久芳覺

覺

今度從

殿様被 仰渡趣謹而致承知、覺嶋表者勿論此許ニ
而茂、貴賤又者役ニ高下有之事ニ候得者、其分ニ
應、慇懃ニ礼儀可致事ニ候、鹿兒嶋計之事与存候
而者間違之事ニ候間、組中之諸士并至下ニ、得
其意候様可申聞候、

十二月十七日

久芳

歳暮、規式、如例、

安永元年壬辰正月、規式、如例、

四日、久芳詣三箇寺、太刀之役下村喜左衛門時利、

五日、庸時代久芳詣大會寺、從先躰題浦霞詠和歌、

家老平山藤左衛門頭友・西村甚五右衛門時右・物

奉行牧庄左衛門胤清・日高源右衛門為將・用人羽

生十太左衛門道堅・講師鮫嶋意春宗房・讀師田上

喜兵衛親苗・當住信行院日悟侍席、

六日、初狩、久芳・庸時登山、家老平山藤左衛門
頭友・物奉行前田太兵衛盛苗・用人羽生十太左衛
門道堅・三組頭種子嶋傳助時邑・東八郎右衛門氏
包・西村權兵衛時相扈從、

八日、庸時代久芳詣慈遠寺、題軒梅詠和歌、家老
平山藤左衛門頭友・種子嶋三左衛門時利・物奉行
平山平右衛門知友・前田太兵衛盛苗・用人東八郎
右衛門氏包・講師鮫嶋意春宗房・讀師田上喜兵衛
親苗・當住遠成院日縁侍席、

十日、四郎助時良死、葬大會寺、法號本承院日堯
居士、停柩十日、

廿日、庸時代久芳詣本源寺、題聞鷲詠和歌、家老
平山藤左衛門頭友・西村甚五右衛門時右・物奉行
日高源右衛門為將・用人平山拓右衛門清友・講師
鮫嶋意春宗房・讀師田上喜兵衛親苗・當住慈舟院
日誦侍席、

廿二日、具足祝、軍陳・温座祈念、的始射手一番美座
衛門時甫、三番羽生武左衛門能容、八板諸左衛門佐伴、如例

以時良、
死緩也、

廿五日、久芳招三箇寺住寺妙久寺・妙法、寺有故省之、題門柳詠

和歌、事由舊、

二月七日、久芳・庸時覽諸士武藝一番本心鏡智流、三番示現流、四番水野流居、合、非分上下、是時次第如此、既而賜盃於師範者、

晦日、種子嶋三左衛門時利嫡子虎之助・二男辰龜

元服、久芳加冠、種子嶋鄉兵衛時央理髮、改虎之

助名三七、改辰龜名平八、獻肴一折、錫二隻・太

刀一腰・馬代銀、

三月八日、締方横目竹迫藤四郎・日高十左衛門・

岩山八郎左衛門・諏訪仲左衛門來、

九日、庸時狩古田山初射鹿鬮通山黒仁多、側射、手知覽太郎兵衛、

明日以好風赴覺府、俄爾設賀宴于奥書院、招三役

及諸士與酒食一汁而與上下一領于鹿頭割緒方曾兵

衛以事急欠、廣間式、

十日、庸時開種子嶋港、十六日到于覺府、以口中

病也、家老種子嶋三左衛門時利扈從、

十七日、八板今兵衛為組士、以治工之功也、

廿一日、西村官左衛門寺入、初官左衛門以大崎塩

屋請、以其譜中有元祖信基自鎌倉伴塩屋來獻之時

充公事、書之與之、信時者當家三代信眞六男、時

充則六代祖也、坐世數不同事矣也、

同日、締方横目町田庄左衛門・中馬條右衛門・大

山三七・大山文左衛門・比志嶋七郎次婦、

廿五日、締方横目田中伊右衛門來、

廿七日、羽生七郎次道高以其祖父檢楨任(マツ) 太守公

為代々小頭、

四月十日、久芳及婦人・尚袈裟時美・四女子於政、於藤發此地、

十一日到于覺府、家老平山藤左衛

門頭友扈從、

久芳賜六箇月之官暇、然慮海上或遲滯、故十一日

鎌田典膳政為聞之、事見左、

○六七八 鎌田正為口上覺

口上覺

私親類種子嶋左内事、私領御暇六ヶ月被下置、去

十月十二日種子嶋江差越居申候、此内より順風待居、地方ニ乗付申程有之候ハ、可罷渡旨前以申越置候、然者順風無御座、只今迄渡海難成御座候ニ付、當分之風并ニ而者、着船仕候儀不罷成存申候、右ニ付而者御暇之儀も明十二日迄答合申答ニ候故、此段私より申上置候様ニ、右之趣を以被仰上可被下儀奉頼候、以上、

四月十一日

鎌田典膳(改色)

十五日、以異國船来之候、國老川田伊織・小松帶刀・喜入主馬傳長崎奉行之令、如例、

廿九日到朔日兩日、修自照院殿廿五年忌於本源寺、五月六日、以黒木與三左衛門為組士、因有由緒也、廿八日、改平山周右衛門友隆之氏森、以為忠時婦人家久公令愛御里役森與市兵衛後也、

七月九日、高崎一右衛門能見以數年役左右、與祿五斛、

八月一日、就石黒戸後左衛門茂彦獻太刀・馬代白

銀一枚、使者平山平右衛門知友、

廿三日、没收西村官左衛門時武家財、遠流于鬼界西村文右衛門時勝遠流于大嶋時勝隱居者也故、是與不及没收家財

西村甚五右衛門時右因犬神之故諍論、故以官府札明奉行愛田新右衛門・野田勘兵衛札理非而及此、

廿七日、締方横目益満善右衛門・澁谷次郎左衛門・

本田助右衛門・平城休之進・平山五郎右衛門来、

十月廿九日、田中伊右衛門・竹迫藤四郎・日高十

左衛門・岩山八郎左衛門・諏訪仲左衛門婦、

十一月十五日、與高一斛於上妻栄右衛門、以數年

為小者功也、

廿二日、得許以種子嶋十郎太夫時方二男四郎兵衛、為時良之後嗣、

廿八日、以 繼豊公夫人号淨岸院殿不豫故、奉命三箇寺修行千卷陀羅尼獻卷數、

十二月二十二日、川東源六女子次・西村甚七下女虎有故放于日州高岡、

二十五日、見改元安永、

歳暮、規式、如例、

安永二年癸巳正月元日、規式、如例、

去年十二月五日、繼豊公夫人薨、法諱淨岸院殿

信譽清仁祐光大禪定尼、正月二日訃音至、

十五日、久芳為南林寺火消奉行、

二十三日、初狩、名代家老美座十郎右衛門時用、物奉行西侯傳左衛門實數、用人西村周左衛門時伴、三

組頭種子島次郎左衛門時盈、西村、如例以淨岸、番右衛門時眉、川内珠右衛門時賢、院殿喪緩

二十五日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始座權太夫時詮、川内大兵衛時厚、二番下村六郎左衛門時眞、西、如例、

村仲太夫時方、三番日高新藏為富、八板平太夫廣教、

二月十一日、女子生、名初袈裟、母同前、

十五日、札改檢使本田治右衛門・松元伊角來、

十七日、請令本源寺諷經於 淨岸院殿牌前、而不

得命、事記于左、

○六七九 種子島久芳口上覺

口上覺

御代々様御逝去之節者、私家より種子島之本源寺

江野諷經并御經献納ニ而御座諷經為相勸來申候間、

此節 淨岸院様御葬送并御中陰ニ付、御正統様御
同様勸方被仰付度奉願候、尤本源寺早々罷登り候
様、飛船を以申越置候、此旨被仰上可被下儀奉願
候、以上、

二月十七日

種子嶋左内

○六八〇 寺社奉行申渡書

種子嶋左内

用頼江

右者、御尊骸様御葬送・御中陰ニ付、種子嶋之
本源寺江野諷經并御經献納ニ而、座諷經為相勸度
旨、先格を以被申出趣有之、此節者野風經不及差
出、御經献納ニ而座諷經被仰付候条、此旨被申付
候様可申渡候、

二月

寺社奉行

○六八一 寺社奉行申渡書

種子嶋左内

用頼江

種子嶋之本源寺御經獻納ニ而、座諷經被仰付置候
得共、此節者御正統様ニ而無之、御女性様之事故、
御取返ニ而御經獻納座諷經不被仰付候、後例ニ者
不相成候、此旨可申渡候、

二月

寺社奉行

十九日、淨岸院殿尊骸到於福昌寺、豫蒙命布救
火備衛南林寺、

廿六日、締方横目伊勢権九郎・田中早左衛門・西
十郎左衛門・野添善助来、

廿九日、平瀬新右衛門為組士、以治工功也、

三月六日、普請奉行西村六郎太寺入六月、下村宇
左衛門・川内九郎右衛門・下村喜左衛門禁錮三月、
坐久芳去年趣覺府時制船屋形不審固也、

萬壽姫君、二月廿日薨去、三月十五日訃音到、

廿日、赦古田村阿世知喜兵衛・阿世知仲左衛門・

源六・西之表武田喜助・牧瀬孫十郎、

廿九日、蒙可助聖堂經營之費之命、事見于左、

○六八二 樺山久智申渡書写

写

種子嶋左内

右者、此節 聖堂御建立ニ付、文庫并張番所御手
傳被仰付候、右可申渡候、左候而入目料者御物御
取替を以調方被仰渡、追而返銀有之筈候条、是又
首尾係江茂可申渡候、以上、

三月

(樺山久智)
左京

○六八三 樺山久智達書写

写

鳴津因幡殿

鳴津筑後

種子島左内

右者、此節 聖堂方御建立ニ付、御一門以下諸士
迄茂、寄附祈心落次第寄附可有之旨致通達候、

右、面々御手傳被仰付候間、寄附祈被差出不及
候、此旨可相達候、

壬三月

(樺山久智)
左京

閏三月三日夜、安城村妙泰寺火、聞官、

四日、加與篠川・樋口・八ヶ代・八板・荒木・池

村・松下・田中・中村・檜原・長野・山縣等二十

人高各一斛、嚮坐過失減其祿、今以困窮故也、

十三日、命聖堂落成之間家老西村甚五右衛門時右

宜在府、

十四日、締方横目宅万與八左衛門來、

十五日、中村伊兵衛成邑以納錢五百貫為粗土、

二十三日、豫計聖堂・文庫・張番所造營之用費、

納銀子七貫目、

四月、以異國船來之候、國老嶋津仲・喜入主馬・

樺山左京・嶋津左中傳長崎奉行之令、如例、

五月十七日、知覽弥兵衛行哉以數年役内横目、為

代々小頭、

二十七日、家老種子嶋三左衛門時利死、

重豪公改定府下諸家之行列、命以吾家萬石以上

故諸式準大身分、御用人小松相馬清行傳之、

以下民困窮故、見免銀五分賦、

六月二日、以嚮準大身分、使用頼森八太郎問禮辭
及行列等于 官、記左、

〇六八四 森八太郎伺覚

(六八四の二)
覚

一 御一門・大身分其外、獨礼・万石以上之内ニ相込

り、以前より供定被仰渡候ニ付、大身分之方ニ準

供廻召列申候、此節被仰渡候供廻ニ付而者、萬石

以上部屋栖供廻之儀、如何可仕哉、

一 萬石以上乘輿御免被仰付置候ニ付、年頭又者何欵

屹と立候節者乘輿仕候、五節句・月次之節者如何

可仕哉、

一 右同部屋栖供廻如何可仕哉、

右之通、御内意を以御尋申上候、
六月二日

(六八四の二)
本行ニ付、仲殿より御取次、御口達小松相馬殿を

以、萬石以上之儀者大身分之方ニ被準候ニ付、五節

句・月並等之儀も都而大身分之仕向可被致候、尤部屋栖乘輿之儀茂大身分部屋栖之通可被相心得候、一辭儀對之儀茂都而之儀先達而被仰渡置候ニ付、大身之仕向ニ被準可然候、然共人跡ニよつてハ其身之考も可有之事ニ候、

右之通、御口達を以被仰渡候ニ付致承知候、

巳六月七日

森八太郎

(六八四の三)
一大身分之所江見舞之人有之節、取次番之次第、

一 所持以下寄合并之所江見舞之人有之節、右同断、

右兩条、此節委敷被仰渡置候處、惣躰供廻等之儀、萬石以上ハ大身分之方ニ準候様被仰付候、

右式對之儀茂右ニ準候様可仕哉之旨、森八太郎

を以御尋申上候處、左之通被仰渡候、
辭儀對之儀茂都而大身分之仕向ニ準可然旨、先達

而承知被致置、右ニ付咄喚取次番仕向之儀、大身

分之仕向・一所持より寄合迄之仕向分ニ被仰渡置

候ニ付而者、大身分之方ニ可準、又者一所持之仕

向ニ可仕哉、此儀茂分而不被仰渡候ニ付御尋申上候、小松相馬殿江私より御尋申上候處、萬石以上之儀者、都而大身分之方ニ可被致旨、先日被仰渡候間、取次番仕向茂乍勿論大身分之方ニ準可然候、此儀者御家老衆へ御尋ニ茂不及、先日茂被仰渡為差究事候間、相馬殿より御同役中被仰談、被成御差圖候ニ付、右之趣左内殿江茂可申上旨致承知候、右之通ニ而何そ相違之儀有之間敷候旨被仰候、

巳六月十一日

森八太郎

三日、第五女子初袈裝為種子嶋雲治時庸養女、

六日、光壽院死、法号光壽院殿花岳貞法大姉、

十五日・十六日、修究竟院殿三十三年忌於本源寺、

十七日、以牧庄左衛門為家老、西村五次右衛門物

奉行、

廿二日、唐船福建省廈門船頭崔輝水稍共六十七人漂到于坂井村熊野前

洋、有司到彼地、使扁舟五十余艘掣入於赤尾木港、

乃以小舟二隻足輕二人・水守之、廿五日、以飛船告官、

廿九日、使川内珠右衛門時賢・下村宇左衛門時圓・足輕二人・舵工二人・夥長・總咄各一人、小舟二十隻護送山川、屬之覺府唐船警固人川邊平八歸、七月六日、以上妻惣左衛門為用人、

八月一日、就伊東藤五郎祐喜獻太刀・馬代銀一枚、使者日高源右衛門為將、

廿五日、得許獻納曆史綱鑑・四書蒙引・四書正解・五車韻瑞・國語戰國策於 聖堂、使者知覽牧右衛門、

九月廿七日、締方横目志賀武右衛門・海老原筑兵衛・有川万兵衛・八木助八郎來、

十月十一日、締方横目伊勢權九郎・田中早左衛門・西十郎左衛門・野添善助・宅万與八左衛門・札改檢使本田治右衛門・松元伊角婦、

廿四日、官命以府下士困窮故免重米賦、寺社及郷土如舊、

廿九日、火於嶋間浦新次郎宅、餘煙及六十家、事告官、

十一月三日、締方横目小篠六左衛門來、
十二月九日、重豪公賜時服二領於久芳、賞助聖堂造營之費、事見于左、

○六八五 島津久金達書寫

寫

御時服二 種子嶋左内

右者就 聖堂御建立、文庫并張番所御手傳相勤候ニ付、右之通拜領被仰付候、

十二月 (島津久金) 左中

廿七日、上妻小左衛門妹小以數年勤勞、與高三石、

歲暮、規式、如例、

安永三年甲午正月、規式、如例、

六日、初狩名代家老種子嶋郷兵衛時尖物奉行野間仲左衛門宗愛・平山新兵衛信友、用人上妻惣左衛門宗弘組頭前田六郎右衛門・知覽長左衛門行通、如例、

十一日、具足祝、軍陳・温座祈念、的始射手一番美座照・川内秀八時次、二番嶋嶋八郎太宗員・下村用右、衛門時許、三番羽生善次郎道綱・八板孫左衛門安直、如例、

久芳為興國寺火消奉行、

十八日、上書請庸時取前髮、見于左、

○六八六 種子島久芳口上覺

(六八六の二)
口上覺

私嫡子種子嶋彈正事、當拾五歳ニ罷成申候間、御見分之上、前髮取 御免被仰付被下度奉願候、尤初而之 御目見相濟申候、此旨被仰上可被下儀奉頼候、以上、

午正月十八日

種子嶋左内

(六八六の二)
写

本文不及見分、前髮取被成 御免候間、如例可申

渡候、

正月

(島津久健)
仲

十九日、庸時取前髮、

廿日、樋口十七兼寛以納錢五百貫為組士、

二月三日、令下村嘉藤右衛門充扶改野間氏、從古制又撞十二時鐘、

四日、組士羽生五郎右衛門請為郷士、

三月廿七日、締方横目折田權左衛門・堀休右衛門・

今井仁三太・野添善助・家村平六来、

四月九日、船改檢使黒田市左衛門自屋久嶋来、

十三日、以異國船来之候、國老嶋津仲・川田伊織・

嶋津左中傳長崎奉行之令、如例、

十六日、締方横目小篠六左衛門・志賀武右衛門・

海老原筑兵衛・有川萬兵衛・八木助八婦、

四日、芝平六左衛門以杉形勤功為小頭格、

十四日、大風洪水、田地多損、顛倒百五十二家、

事聞 官、

八月一日、(G.A.)

八月、請候寒暑獻采地之産、因命 公在國暑則以

物一品、寒則鴈鴨之類二翼為例、

○六八七 種子島久芳願書

亡父代乘輿等迄茂段と雖有被仰付置、且御在國之節計福多目進上仕來申候、依之奉願候、御在府・

御在國共ニ、暑寒ニ茂在所産物之内、又ハ當季之

品一・二種ツ、進上仕、伺御機嫌被仰付被下度奉

願候、不成合之儀ニ奉存候得とも、何とぞ御免被

仰付置被下候様ニ被仰上可被下儀奉願候、以上、

(安本)

巳九月六日

種子島左内

右、九月十六日森八太郎を以差出候処、取次御

用人大野多宮より御披露、嶋津仲被受取置候、

○六八八 島津久健申渡書寫

寫

暑氣

一當季之品壹種 但壹所之産物ニ而茂、

寒中

一鴈・鴨之間壹番 但右同断、

種子島左内

右者、 御在府・御在國共ニ暑寒為伺御機嫌、當

季之品一所之産物ニ而茂、御内と進上被仰付被下
度旨、願被申出有之、進上物者有來通ニ而、萬石
以上之御取分を以、御在國之節計為伺御機嫌、右
之通御内と進上被仰付候条、此旨如例申渡、可承
向と江茂可申渡候、

八月二日

(島津久健)
仲

右之通、今日顚娃波衛名代ニ而承知被成候ニ付、

御礼廻り等何様ニ可有御座哉与御尋申上候處、御

内と之事ニ而候故、御礼廻り等ニ者及申間敷、御

用人座御相談ニ而候、左候而明日又波衛殿江御頼

申入、御禮被仰上筈候間、明日波衛殿方ニ者御禮

被仰進方可宜、用頼小平次より承置候、

九月一日夜、大風、糸荷船官遣船琉球、載異邦・臺所

船久芳載貨物、運漕其餘破大小十六艘于赤尾木港、

廿九日、大雄院日近再為本源寺住職、

安置熊野權現第六神石于魔府、

十月、濱田桐助以數年為僕之功為郷土、

十日、河嶋源五右衛門以覺府之賈人久田休四郎誣盜其小刀殺之、官論之下覺府獄、獄中死、官

許之葬^{正建寺}、

十一日、第一女^{滿壽}嫁嶋津助之丞、

十一月十六日、男子生、名要次郎、

十二月廿四日、國老傳將軍之命、令祿萬石以上者一斛貯粟二升六合、

歲暮、規式、如例、

(表紙)

安永四
種子嶋家譜
二十一代
十九

天明八
久芳

永四
種子嶋家譜
二十一
十九

明八
代久芳

- 安永四年乙未正月元日、規式、如例、(マ)、用人
- 六日、初狩、名代家老牧庄左衛門、物奉行、三組頭羽生十太左衛門・西村西太左衛門・上妻九郎、如例、左衛門
- 同日、沖个濱田長七宅火、餘煙及廿五家、

- 十一日、具足祝、軍陳・温座祈念、的始一番美座次五左衛門・川内
- 覺右衛門、二番殿嶋定七・下村珠兵衛、三番日高權助・八板長左衛門、如例、
- 十五日、久芳為淨光明寺火消奉行、
- 二月廿七日・廿八日、以久芳四十二厄年祈願等由舊、
- 四月、以異國船來之時、國老嶋津仲・川田伊織・小松帶刀傳長崎奉行之令、如例、
- 五月晦日、以久芳四十二歲厄年且日理大居士四十九年忌、赦西村甚七・西村伴九郎・西村文右衛門妻・西村甚七妻・西村官左衛門母及妻、足輕牧瀨與八・上妻助右衛門・牧瀨杉右衛門、現和村勘左衛門・六平、西之表村利右衛門、古田村之源六・前田太兵衛之僕仁八、水手新七・休平、
- 六月十八日・十九日、修事全院殿日理大居士四十九年忌于本源寺、
- 七月一日、以野間嘉藤右衛門為代々小頭、因嗣野間治兵衛二男家長七遺跡也、
- 二日至三日、大風雨、

○八月一日、就新納彌右衛門時意獻太刀・馬代銀、使者河内市左衛門、

○十七日、以三好伴七肥之後州天草之産也、其從弟今村政十郎者事 太守公為昵近、以故及此

為座附士、以阿世知嘉右衛門數年勞於僕為組士、

○今年、官命定賦外納人一口・牛一頭・馬一匹銀

一匁、船帆八反至廿三反八匁、五反至七反反五

匁、四反以下及橋舟川平太反一匁、

○九月、川内茂助・河野一十右衛門以多年近侍之功

茂助為小頭、與一十右衛門祿一斛、日高十五郎以

多年勞御者為鄉士、

○十一月十五日、種子嶋三七家僮淺太以墾工為足輕

與氏今成、

○十二月九日、尚袈裟元服、加冠久芳、理髮時庸、

彌太郎左衛門時美、

○廿三日、曾山平太夫姊見放來、

○廿八日、久芳登城、就川上頼母久(カ)、獻鴈二翅真摺

如法之鳴子間服用頼小瀧長藏服上下、上宰領前田平八、盛之、下宰領足輕古市勘助撰袴

○歲暮、規式、如例、

○安永五年丙申正月元日、規式、如例、

○六日、初狩名代家老西村甚五右衛門、物奉行 三組頭上妻惣左衛門、知

繁源大兵衛、日高文左衛門、如例、

○十一日、具足祝、軍陣・溫座祈念、的始射手一番美座 六兵衛・川内

大兵衛、二番蛟嶋喜市・下村六郎左衛門、三番日高猪三太・八板平太夫、如例、

○十二日、久芳為興國寺火消奉行、

○二月十一日、上里村百姓藤助・金八、足輕有富太

右衛門・羽生十助・羽生覚兵衛、郷士羽生嘉右衛

門坐以濫奸事傷平山村百姓仲七、放金八・十助・

太右衛門于馬毛嶋、其餘連坐者十五人各有差、

二十日、請使時美謁 太守公、事記于左、

○六八九 種子島久芳願書

私二男種子島太郎左衛門事、未初而之 御目見不

仕候間、以御序 御目見被仰付被下度奉願候、私

家之儀近代二男ニ而、御目見仕候者無御座候間、

進上物之儀者御見合を以被仰付被下度、是又奉願

候、此旨被仰上可被下儀奉願候、以上、

申二月廿日

種子嶋左内

○廿七日、若年寄嶋津采女傳 命、開于左、

○六九〇 某申渡書

写

種子島左内より、二男種子嶋太郎左衛門事、初而之御目見并進上物願被申趣有之、

御太刀・二種疋荷

進上ニ而、来月朔日 御目見被 仰付候条可申渡候、

○三月一日、時美獻太刀一腰・馬代銀一枚・二種一荷、奉謁于 太守公、奏者嶋津又七郎久(マ)、

○八日、牧瀬休次以冶工之功為組士、

○去年、赤尾木町樋口友七為船長、自徳之嶋載 官砂糖船頭水主 十六人、會洋中大風漂流于朝鮮國、船亦破矣、於是自朝鮮國送對馬、自對馬送長崎、自長崎

送覺府、遂歸于本地也、

○四月八日、小笠原郷左衛門傳戒琉球船之律令、

○六九一 小笠原郷左衛門申渡書

一船頭共於琉球唐物買取候儀、從前々御禁止之事情処、密々買取持登由相聞得、不可然候条、糸荷船之儀ニ付而者、例年段々締方被仰渡事候得共、右式技物之聞得候故、締方之格被改、諸所津口番所其外被仰渡趣有之候、天氣依風波種子嶋へ致漂着儀茂可有之候、糸荷船者員を吹致相圖候様ニと兼而被仰渡置候間、琉球登之時節者心掛罷居、糸荷船嶋邊江乗掛、湊江志候様子ニ相見候ハ、挽船を出し湊江引入、浦役弁指之内一兩人ツ、小船ニ乗、番船付置、水主之外橋船を以陸通用堅無用申付、獵船迄茂本船ニ不近奇様ニ申付、何程輕品たりと云とも、曾而陸へ不卸様ニ締方堅固ニ申付候様可申渡候、

一琉球渡唐船直ニ種子嶋江致漂着候ハ、猶以入念

番船數艘付置、昼夜無油斷致勤番、乘組之琉人共陸卸堅無用申付、獵船迄茂本船江不近寄様可申渡候、

一琉球より商物船致漂着候ハ、唐物抜荷買無之様是又締方可申渡候、

右之通、堅固可申渡候、此旨可申越候間、御差圖ニ而候、以上、

但此書付見届、便を以可致返納候、以上、

申四月八日

小笠原郷左衛門

種子嶋

役人中

○十五日、以異國船來之候、國老赤松造酒・山岡市

正・小松帶刀・喜入主馬傳長崎奉行之令、如例、

○五月三日、加世田新助商船將赴道之嶋破船於住吉港、事達 公府、船中有放流彼地者八人、令上妻

喜平太・川内覺右衛門及足輕五人送之覺府、

○十二日、貶郷土羽生源兵衛為庶人、进于莖永村、是坐狩安納村山日盜獲也、

○六月十六日、請干禄五百斛與于時美、事記左、

○六九二 種子島久芳口上覚

○ 口上覚

私二男種子嶋太郎左衛門事、當拾壹歳ニ罷成、此節初而之 御目見被仰付ニ付、先様別立之願申上、五百石買地を以附屬仕度候得共、未幼年故御奉公方相勤候年齢ニ罷成候節、別立願可申上候、其節分地高買地を以附屬仕筈ニ候得共、當分より賣地有之候ハ、少々ツ、ニ而茂時と相求置申度御座候、萬石以上之儀御法茂有之候得共、右差分高時と相求、私高之内ニ被召加置被下度奉願候、左候ハ、別立之願申上、附屬高御免被仰付候節、右高差分申度御座候間、御差支無之候ハ、御免被仰付被下度奉願候、此旨被仰上可被下儀奉願候、以上、

申六月十二日

種子嶋左内

○七月七日、以要玄院為本源寺、

○八月一日、就肥後太郎右衛門盛香獻太刀・馬代銀、使者河内何國、

○十八日・十九日、修清運院殿日啓大居士三十三年忌于本源寺、

○十三日、第二女留亭嫁島津主右衛門、

○歲暮、規式、如例、

○安永六年丁酉正月元日、規式、如例、

○六日、初狩、名代家老渡邊勘右衛門、物奉行、三組頭種子島傳助・東八郎右衛門、用人、

西村權兵衛、如例、

○十一日、具足祝、軍陣・溫座祈念、的始射手一番美座治五左衛門・西村善右衛門、二番鯨嶋伊平太・下村為右衛門、三番日高權助・八板小平次、如例、

○同日、官命自十五日至十二月可守柵形柵門、

○二月九日、濱田十次郎東町市人以納錢二百貫、賞之為組士、

○十二日、三好武之進以陶冶之功為組士、

○四月、官梟首鯨島與八左衛門家僕金七、以竊盜

覺府也、

○同月、以異國船來之時、國老不詳傳長崎奉行令、

如例、

○八月一日、就四元正藏獻太刀・馬代銀、使者前田太兵衛、

○八月、以長野休右衛門及其妻子盜禱放上瀬田、

○九月十八日、牧瀬加賀八以久侍永照院之功為鄉士、

○十一月二十日夜、現和村孫次郎宅火、餘煙及勘助・鯨嶋甚之丞宅、事告 官、

○十二月二日、井元彦兵衛錢百五十貫・羽生伊左衛門百六十貫・濱田甚七東町市人二百五十貫・榎元元右衛門同上二百五十貫・宇多津

古兵衛同上百五十貫・川北休右衛門嶋間村足輕百貫・住吉村與三

左衛門三十貫・賞納錢給營記錄所之費、井元・羽生為

永代小頭、濱田・榎元・宇多津組士、川北鄉士、

與三左衛門足輕、

○十五日、濱脇之弥七坐恣烹塩放馬毛嶋、其余連坐者有差、

○歲暮、規式、如例、

○安永七年戊戌正月元日、規式、如例、

○六日、初狩、名代家老種子嶋郷兵衛時央、物奉行三組頭種子嶋次郎左衛門、

時盈・西村番右衛門時眉、如例、
・川内八郎左衛門時

○十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座、
大兵衛、二番鮫嶋定七・下村用右衛門、如例、
門、三番羽生岡右衛門・八板平十郎

○同日、久芳為聖堂・神農堂火消奉行、

○十三日、要次郎病疱瘡夭亡建正、法名春月幻孝、

○二十二日、招覽府醫指宿仙庵令治永照院病、將歸

于覽府吾地冶工所鍛小刀、或青銅・織木綿、
鹿肉・猪肉・火酒・蝦海苔、其余許多、

○二月二十五日至二十六日、雫于中嶋、

○三月五日、池田浦漁者五人漁于馬毛嶋、破船溺死、

事告 官、

○四月十五日、以異國船來之時、國老赤松造酒・嶋

津仲・山岡市正・小松帶刀傳長崎奉行之令、如例、

○廿五日、女子穂嫁新納五郎太夫、

○自三月至五月不雨、雫鴨女川、

○五月廿一日、安城村鍛冶田上七左衛門以獻自所鍛

刀及錢七十、為郷士、

○同日、以西侯傳左衛門為家老、平山拓右衛門物奉

行、

○七月九日至十日、大風、倒家七十二、事告 官、

○八月一日、就伊集院成之助俊文獻太刀・馬代銀、

使者西村五次右衛門、

○同月、建記(總)所大、

○九月二十七日、家老平山藤左衛門死、

○十月十七日、女子滿嫁仁禮仲右衛門、

○二十九日、以日高源右衛門為家老、鮫嶋榮治物奉

行、

○十一月十日、令分三月九日行役覽府者、半以正月

七日為更代期、

○同日、住吉村火、人家五十七燒亡、事告 官、

○十二月十三日、就侍臣二階堂部獻 太守公鷹一雙、

○歲暮、規式、如例、

○安永八年己亥正月元日、規式、如例、

○六日、初狩(名代)家老日高源右衛門、物奉行
三組頭美座村右衛門・平山新

兵衛・知寛、如例、
長左衛門

○十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座、
庄左衛門・川

内岡八、二番鮫嶋孫右衛門・下村主、如例、
兵衛、三番日高權助・羽生伊平太

○二月晦日、櫻嶋百姓五市見放來、

○四月十五日、以異國船來之候、國老赤松造酒・二階堂主計・嶋津仲・小松帶刀傳長崎奉行之令、如

例、

○七月二十九日、柳田八左衛門以犬神害人、貶為庶人放中之村、

○八月一日、就汾陽次左衛門獻太刀・馬代銀、使者

鮫嶋榮治、

○十一日、第二女亭生一女、後夫主右衛門死、以舅

常隱有所思辭彼家歸、

○十二日、熊野谷六兵衛以工匠之功為座附士、

○九月二十九日至十月一日、櫻嶋及海中大燃二十九日之方吾地之

乾黑雲沖、天地震鳴如雷、至十月一日朝雨灰如雪、積可二三寸、即方東北嶼湧出七、

○十月六日、庸時娶嶋津圖書(七)女、行婚禮、

○二十二日、免物奉行平山平右衛門、貶家格為小頭、

坐野間仲左衛門下人以耕平右衛門所有之地、與仲

左衛門詳論、使組頭・高奉行札之時侮諸有司有不

敬之言也、

○十一月二十三日、家老西俣傳左衛門死、

十二月一日、上妻小左衛門以數年仕覺府邸、與高解五解、

三日、以上妻小左衛門為家老、川内何國用人、

同日、牧瀬甚兵衛・西表村之周七以納錢甚兵衛為

鄉士、周七足輕、

七日・八日、修妙運日詮大姊二十五年忌于本源寺、

九日、登城就市田勘解由獻鷹二雙、

歲暮、規式、如例、

安永九年庚子正月元日、規式、如例、(七)

六日、初狩名代家老美座十郎右衛門、物奉行用人、西太左衛門時伴、三組頭前田六郎右衛門、西村

西太左衛門時伴、如例、高崎一右衛門

八日、去十二月二十四日 帝崩訃到、停樂五日、

同日、阿世知圓右衛門・石堂孫七坐藩奸之罪流圓

右衛門于大嶋、孫七于沖永良部嶋、

○九日、久芳婦人卒、法号晴雲院殿妙詠日涼大姊、

殯正建寺画遣髮厝正建寺釋迦堂西側、莊嚴等從浮屠之法、

○十三日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座平兵衛、川内

大兵衛、二番鮫嶋喜市・國上勘七、如例、以 帝崩之
三番日高猪三太・羽生岡右衛門

故緩婦人喪以末、
到故及此

○十四日、婦人訃到、

○十五日、為造士館・演武館・神農堂・明時館火消
奉行、

○晦日、前田六郎右衛門使西町之善八毀城東之外壁、
伐其竹木燒之、城中騷動、諸人走來救之、火滅、

○二月十五日、奉婦人遺髮、太郎左衛門及用頼國分
五兵衛來、

○十六日、獲江豚十六于阿高磯、

○二十一日卯時、葬晴雲院殿于本願寺西之地、太郎
左衛門代庸時奉神主、

○二十二日、北條十左衛門奉職將趣琉球、道利到吾
地、且為拜祖廟來、

○二十八日、太郎左衛門及國分五兵衛趣寬府、
同日、榎本九賀右衛門以庖人在寬府有數年、改賞之

與祿一石五斗、

○三月三日、上西之表百姓武平太以納錢十五為足輕、
實

與氏山野、

○七日、納官村春田文兵衛以納錢四十為郷士、
實

○十五日、以晴雲院殿喪且自照院殿三十三年忌、赦

古田村阿世知喜左衛門・住吉村源次郎・鮫嶋真左
衛門家僕金兵衛、

○去歲正月二十七日・同二月、官命自屋久嶋官庫
所賜之材詳書其始元以聞焉、即書之一卷御勝手方以
卷屋久嶋藏

聞、事記左、

○六九三 屋久島方達書

一平木式拾五万丁

一杉実料拾四丁

右者、種子嶋慈遠寺三ヶ年ニ壹度ツ、申受、不
及御證文相渡候筋ニ、亥二月十九日被仰渡候通、

當座壁書ニ相見得有之候得共、右何之何年亥二
月と不相知、御用ニ付帳内段と相糺事候得共、

未見當、右不及御證文申請被仰付候年間相知有

之候ハ、早と書付可差出候、此段申達候、以

上、

亥正月廿七日

屋久嶋方

種子嶋左内殿

役人

○六九四 屋久島方達書

一平木三拾萬丁

一杉実料拾四丁

右、種子嶋本源寺申受、

一平木拾五万丁

一杉実料七丁

右、同島大會寺申請、

右、六年耆度ツ、申請、最初被仰渡候年月、且何

様之訳、委細相しらへ可申出由ニ付、當座相札儀

ニ候間、右申受方何年間、最初何様被申出、申請

ニ被仰付候訳相知有之筈候間、被相札、明日可書

出候、此段申達候、以上、

亥二月

屋久嶋方

種子嶋左内殿

役人

○六九五 西村甚五左衛門外四名連署覚

(六九五の二)
覚

屋久嶋より八石米ニ而申受候平木・実料・樽底、

其外隔年ニ申受候平木類、且本源寺・慈遠寺・大

會寺より三年ニ一度宛申受来候平木・実料等、何

之年より申受来候哉、申出候様被仰渡奉承候、

然者屋久嶋・恵良部嶋之儀者、種子嶋左内先祖代

々支配之地ニ而御座候処、文録四年一所領地之面

々、所替被仰付、左内先祖も知覧江居住仕居候、

其後慶長四年己亥六月、左内先祖十六代左近太夫

江本領種子嶋再一所之領地ニ被仰付、其節より屋

久・恵良部両嶋之儀者御借地ニ被仰付、種子嶋より

代官遣置、公用承申事数年ニ而御座候、然處、慶

長十七年夏、鹿兒嶋より中村与左衛門様被成御下

嶋、屋久嶋一嶋之御裁判被成由ニ而、種子嶋役々

引取候筋ニ、旧記ニ相見得申候、其節迄者平木類

入用之程、種子嶋ニ取寄方をも仕候得共、御物御

支配相成候而より者當分之通申受来申候、且又當

分申請平木員數外ニ茂鹿兒嶋并種子屋敷大修甫之節者、重ニ臨時申受來候、尤八石米之儀ニ付而者、別紙寫之通御證文被仰付置候書留茂相見得申候、是等之段可被申上候、以上、

但本源寺・慈遠寺本堂之儀者、小板葺ニ而候故、ふき替之節者、三年ニ壹度申受候、外ニ入用之分小板并そぎ平木・大小平木申受ニ被仰付事ニ御座候、

役人

日高源右衛門

子三月二日

種子嶋郷兵衛

渡邊勘右衛門

美座十郎右衛門

西村甚五左衛門

上妻小左衛門殿

(六九五の二)
右之通申出趣種子嶋左内被承届、此段私より可申上旨被申付候、以上、

用頼代

森八太郎

子三月十八日

○六九六 森八太郎請書

一八石米平木之儀ニ付、今日屋久嶋奉行江都而古來より仕來候通被仰付候間、左様可相心得旨被仰渡候由、山之内市内殿より只今致承知候、左候得者何ぞ以前へ不替筋被仰渡候間、例年申請御證文之儀も屋久嶋方へ此内之通申出、申受候様可致旨致承知候、尤屋久嶋奉行より段々相調へ、伺ニ被申置候得共、無御取揚、都而被成御下ケ候通之儀も、内々致承知候、

一右ニ付、別紙御勝手方江被差置候書付も、今日御勝手方折角見合候得共不相見得、如何様屋久嶋奉行江其節しらへニ御下ケ被成爲被置ニ而者有之間敷哉、左候得者、八石米之儀者しらへ最中之時分ニ而候故、別紙申請之儀茂、屋久嶋方へ差扣爲被置共ニ而者有之間敷哉与、御勝手方ニ而致吟味候、

何分屋久嶋方へ申出候ハ、相知れ可申候、

森八太郎

三月廿七日

上妻小左衛門殿

○六九七 上妻小左衛門届書

種子嶋左内私領屋敷元用事ニ付、毎年米八石を以入用之材木・平木屋久嶋より直ニ申受、且又本源寺・慈遠寺・大會寺三ヶ年ニ壹度ツ、代米相渡申受来候ニ付、右之訳可申上旨被仰渡趣承知仕候、右ニ付、宝永四年亥正月、向井市之丞様御取次を以、向後之儀御證文ニ不及、役人年々申出次第申請被仰付旨被仰渡置候、其後者、享保十九年寅三月八日、右亥年被定置候通、向後證文ニ不及申受ニ被仰付旨、鎌田太郎右衛門様御取次御證文を以被仰渡置候、夫より永々當分之通申受来候、此段申上候間、被仰上可被下儀奉頓候、以上、

種子嶋左内役人

上妻小左衛門

子三月十九日

屋久島方
御書役衆中

○六九八 国分五兵衛達書

種子島平木申受之儀、先達而由緒書を以申出候ニ付、屋久嶋奉行方江茂しらへ方申渡、右願之儀者、跡々之通申請ニ被仰付候、左候而、其節差出候書付之儀不相下候ニ付、是又申達置候様、御勝手御用人大野隼人殿より用頼名代川上小平次江、口達を以被仰渡候段承候ニ付、後年見合ニ茂相成事ニ候間、帳留等儘ニ有之候様被申渡、此段申達候、以上、

国分五兵衛

子四月三日

上妻小左衛門殿

○廿九日、除現和村庄司浦彌五郎宅地之税、旌表之

先以弥五郎孝有、襃賞今亦及此、彌孝行屋敷、

○四月十日、納官村牧瀨權大・住吉村松下五右衛門
以納錢牧瀨四十貫
松下二十貫為郷士、

○十八日・十九日、修晴雲院殿百箇日于本源寺、

○廿一日、赦牧瀨利右衛門百姓仲七・上里村之某女
彼・金八・羽生十助・有富太右衛門百姓藤助・羽

生覚兵衛・有富勘八・羽生嘉右衛門・池村順安・
牧瀨免八・牧今兵衛妹波、

○四月、以異國船來之候、國老二階堂主計・小松帶
刀・喜入主馬傳長崎奉行之令、如例、

五月一日、修自照院殿三十三年忌于本源寺、

○二十日、樋口十七以船檢者監船具、謂之之功為小頭格、
桑原清五兵衛以大匠工之功為座附士、

○同日、緋方横目中野彦兵衛・伊集院伊平太・伊藤
左衛門・税所弥一郎・野元新五兵衛來、

○同日、納官村日高渡右衛門四十貫・春田彦兵衛四十貫以
納錢為郷士、

○廿六日、流國上村瀆脇之平七于大嶋、初平七告種
子嶋次郎左衛門國上井関之榎元次郎右衛門・柳田

權太左衛門、犯國制密藏鉄炮獲鹿、次郎左衛門告
之、事下有司訊詢之無驗、因下平七獄責之、得構
成柳田・榎元惡將陷之罪事及此、

○六月十一日、應 命獻黃鷹二居 太守公、

○廿一日、納官村春田大古衛門四十貫・日高堅五右衛
門以納錢為郷士、

○同日、以遠成院為本源寺、

○七月廿三日、庸時生女子武良、母嶋津圖書女、

○八月一日、就鹿嶋傳五左衛門獻太刀・馬代銀、使
者前田太兵衛、

○十五日、日高早喜賞以庖人數年役覺府、與宅地、

○十八日、大山善左衛門以納錢為一代士、

○廿二日、前田六郎右衛門坐毀城壁之事、廢其家格
及官為諸士、流之德之嶋善八于大嶋、

○廿七日、郡奉行右松十郎太・牧野仁左衛門、横目
長谷場喜左衛門・伊地知庄左衛門、書役河野幸右
衛門・岩元仲兵衛、地方定檢者西休兵衛等來檢點
吾地田圃謂之持留年、

○十月五日、以上妻惣左衛門為物奉行、

○十一月二十六日、以種子嶋三七為用人、

○十二月九日、修晴雲院殿一周忌于本源寺、

○十日、以平山柘右衛門為家老、西村番右衛門物奉行、牧九郎兵衛用人、

○十二日、以種子嶋三七為家老見習、席於家老上、歲暮、規式、如例、

○天明元年辛丑正月元日、規式、如例、

○六日、初狩名代家老西村甚五右衛門、物奉行、(一)、三組頭種子嶋傳助・牧九郎兵衛・上妻九郎、如例、

左衛門宗恒、

○同日、上妻小左衛門以多年侍庸時之功、與祿十石、

○十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座、次五左衛門・西村六七、二番鯨嶋貞七・下村珠兵衛、三番日高權助・八坂平太夫、如例、

○官命自正月十五日至十二月可守升形柵門、

○十八日、除野間仲左衛門俸祿半逼塞、十二月、先是仲左衛門僕掠平山平右衛門圃耕裁割之時、仲左衛門爭給其費之事、坐忘其職爭之也、

○二月七日、以修日蓮五百遠忌、贈白銀各五兩于本

能寺・本興寺、

○廿五日、流羽生伊右衛門于大嶋、坐燒阿世知六之進禱也、

○三月六日、郡奉行右松十郎太・牧野仁左衛門、其餘輩帰國、今所檢訂之高、記左、

○六九九 高所覺

○ 覺

御高頭壹万千九百三石六斗三升七勺壹才

內

壹万六拾五斛八升貳合六勺六才種子嶋

內

四拾六石八斗七升六合

畠田成增

三百七拾四石五斗六升八合六勺四才御持留增

四百九拾壹石八斗六合五勺六才 新仕明增

拾九石六斗五升九合四勺八才 荒起增

八千三百六拾貳石六斗五升八合四勺 古田

千百九拾石九斗五升八合貳勺貳才 御持留

四百九拾壹石八斗六合五勺六才 新仕明

拾九石六斗五升九合四勺八才 荒起

但御國高御差引ニ相成申候、

千八百三拾八石五斗四升八合五勺 御国高

外ニ 拾九石六斗五升九合四勺八才種子嶋荒起

御差引ニ上ル、

内

四斗貳升八合壹勺三才 坂元名御持留

右者、去丑ノ年御直リ竿ニ付、御增高有之、惣

御高頭右之通相究申候、以上、

高所

五月

○同日、締方横目宅間與八左衛門・須田平治・伊東

次郎太・野元新五兵衛・加治木仲藏來、

○廿三日至晦日、雫于中嶋、

○四月以異國船來之候、國老二階堂主計・嶋津仲・

小松帶刀・嶋津大進傳長崎奉行之令、如例、

○五月九日至十一日、雫中嶋、

○廿四日、與牧藤藏祿三斛、賞數年侍庸時左右也、

○閏五月廿一日、吉留傳平橋鴨女川、

○廿七日、瀨田十藏以犯國制裁材木于己船將賣之他

邦、籍波船及材木、罰錢三十貫文、寺入二年、其

余連坐者有差、

○七月廿七日、大風洪水、高千八百九十四石五斗餘、

當損十七石余、永損額家五百四十四倒家八十六、損家四百五十八

死馬十五疋、死牛十五頭、流失船三二枚、事聞 官、

○八月一日、(マヤ)

○十月三日、締方横目猿渡仲右衛門・國生仲左衛門・

中村小平次・比志嶋彦四郎來、

○廿一日、締方横目宅間與八左衛門・須田平次・野

元新五兵衛・加治木仲藏・伊東次郎太歸、

○十一月三日、太郎左衛門時美射鑰流馬于稻荷神前、

○五日、庸時生女子左登、母同前、

○十二月九日、修晴雲院殿三年忌于本源寺、忌日當

明年壬寅正月九日、以事頻繁也、

○十三日、第三女保野嫁西恰之助、

○十六日、以緒方與兵衛數年近侍庸時左右之功、與宅地、

○歲暮、規式、如例、

○天明二年壬寅正月元日、規式、如例、

○六日、初狩 名代家老上妻小左衛門隆、
昭、西村田代時甫、
日高文左衛門實本、
用人、 如例、

○十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始 射手一番美座
次五左衛門、

川東五郎左衛門、二番鮫嶋孫右衛門・下
村幸十郎、三番日高孫兵衛・八板平十郎、如例、

○正月、久芳為興國寺火消奉行、

○二月五日、木山峯八以數年為小者之功、為物奉行所座附土、

○十五日、上里村百姓勘平以盜竊擊「繫」卒百日、

○三月二十八日、西村權兵衛家儻紋七以作弓、為足輕、與氏栢竹、

○四月十三日、吉留傳平以事母孝與米十俵、事記左、

○七〇〇 種子島久芳覺

○ 覺

米十俵 吉留
傳平

右者、母江致孝行之由相聞得、輕身として別而神妙之至ニ候、依之為褒美、右之通申付候、

右、先例之通可相計候、

左内

寅四月

役人江

○十五日、以異國船來之候、國老宮之原主膳・二階

堂主計・嶋津仲・喜入至馬傳長崎奉行之令、如例、

○六月六日、住吉村足輕能野市八以竊盜擊「繫」卒百日、

○七月十五日夜至十六日、大風雨、田一町八畦二十

三步永損、二十六町五反五畦當損、傾壞家七十五

厩五百三十七、死牛二頭、死馬二十五疋、事告 官、

○二十日、美座五藤右衛門・梶原武左衛門以數年勘

定中取按府庫之財、辨其經
謂之勘定中取之功、為小頭格、

○二十二日、遠藤五一左衛門以數年侍太郎左衛門左

右之功、與高貳斛且為小頭格、

○八月一日、(一八)

○二十七日、貶羽生七左衛門為郷士、以犯舊制放鐵炮于春日山也、

○同日、阿世知新之丞免大匠為郷士、追放中之郡、以修葺蟹田陶屋之日私其茅也、

○二十九日、官賜吉留傳平米四斛、賞事母孝且橋鴨女川便往来也、國老喜入主馬傳命、事記左、

○七〇一 喜入久福達書

(七〇一の二)
○御米四斛

種子島東町之

傳平

右者、多年老母江深切致孝養、且所中之為自分物入を以、同所甲目川(鴨女川之)江新規橋掛調候段相聞得、奇特成心入候、依之為御褒美右之通被下候条、難有頂戴可為仕候、

右之通、於領主宅可被申渡旨申渡、御米渡方之儀ニ付、御勝手方江可相達候、

八月

(喜入久福)
主馬

(七〇一の二)

右之通、御用ニ而被仰渡候間、難有頂戴可為致候、

左内

寅八月廿九日

役人

(七〇一の三)

右之通、被仰出候条、如例可申渡候、以上、

御役所

日高源右衛門

寅八月廿九日

御用人

○九月二日、官賞吉留之孝所賜米十八俵、本府物奉

行芦谷市助令諸郷吏陸轉於山川港、乃港津口番人川上左太夫・町田此右衛門副書以至我地、事記左、

○七〇二 芦谷市助送状

送状

真米四斛者

但

貳盃入ニシテ拾七俵

壹斗九升貳合

種子嶋東町之

傳平

右者、多年老母江深切致孝養、且所中之為自分物入を以、同所甲女川江新規ニ橋掛調候段相聞得、奇特成心入ニ候、依之為御褒美右之通被下候旨、寅八月晦日、小笠原郷左衛門殿取次御證文を以被仰渡候ニ付、山川津口番人方迄宿次を以被差越、彼地より便船次第可差越候間、難有致頂戴候様可被申渡候、左候而致頂戴候首尾、便宜を以可被申越候、以上、

物奉行

芦谷市助

寅九月二日

種子島

役人中

○七〇三 町田此右衛門・川上左大夫

連署送状

送状

真米四斛者

但

貳盃入ニシテ拾七俵

壹斗九升貳合

種子嶋東町之

傳平

右同嶋船頭

山縣正藏

右者、毎年老母江深切致孝養、且所中之為自分物入を以、同所甲女川江新規ニ橋掛調候様相聞得、奇特成心入ニ候、依之御褒美被下候旨、寅八月晦日之御證文を以被仰渡、山川迄宿次を以被差越、便宜次第種子嶋江差越候様被仰渡候旨、物奉行芦谷市助送状を以被差越候ニ付、此節右船頭山縣正藏江相渡、積入差越候間可被請取候、尤右物奉行芦谷市助送状一通、右船頭江是又相渡差越候、相届候首尾、物奉行所江可被申出候、以上、

山川津口番所

川上左大夫

寅十月八日

町田此右衛門

種子嶋

役人中

○締方横目河村新助點檢、官府用木黒松六十九本・

五葉松二十八本・楠五本、

○十月六日、官令西村清之丞・中田左太夫・石黒

平兵衛・美座権太夫・國上勘七・宇多津數右衛門、

足輕長野利右衛門・石堂太一左衛門各納錢八百文

購其罪、先是己亥年在馬毛嶋監往來船之日、日州

福嶋之商船載國禁屋久嶋材木来、職當送本嶋聞

官而懈告之、於是官召西村以下八人于廳、責其

怠惰及此、

○十五日、締方横目竹下仲左衛門・松田七郎右衛門・

白尾五郎左衛門・伊勢權九郎・稻田次郎左衛門

来、

○十一月二十八日、締方横目名越七郎太・上井五右

衛門・永田藤左衛門・野元新五兵衛・河村新助歸、

○十二月十三日、濱田八郎太以數役柵門之功、與祿

一斛、

○歳暮、規式、如例、

○天明三年癸卯正月元日、規式、如例、

○六日、初狩名代家老平山祐左衛門清友、物奉行三組頭日高平太左衛門・渡邊源次兵衛、如例、

衛門・西村權兵衛

○十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座庄左衛門・西

村善左衛門、二番鮫嶋員七・下村四、如例、

○二月四日、嶋間村伊三次以盜締方上井五右衛門錢、

繫牢百日、

○三月十日、流納官村之善太子鬼界嶋、桑山藤右衛

門為庶人于德之嶋、先是善太行不善、親族裏教誨

之、遂不覺悟以故、告之納官村横目、横目告府下

有司、於是幽善太室中不得通世人、少焉善太密破

幽室、出為盜事泄、按之得藤右衛門與之結交與鏝

破室之事、故及此、

○十二日、前田太兵衛為家老、

○二十七日、令物奉行西村五次右衛門禁錮二十四月、檢

者上妻七左衛門寺入三十、先是貿易吾地生蠟于大

坂之時、擅以假其價也、

○四月二日、嶋間村之源次郎以盜米繫牢二百日、嚮為搬嶋間倉米於府下倉、出積之波戶上、港渚高石垣防風浪、謂之波

戶時盜米一包、即使諸吏糺之、源次郎曰、有老母、固家貧、加之以饑饉無供老母一食、故過平生也、以彼孝心恕及此、

○十二日、以異國船來之時、國老宮之原主膳・嶋津仲・喜入主馬・嶋津左中傳長崎奉行之令、如例、

○二十五日、締方横目弟子丸與次右衛門・里村十左衛門・比志島彦四郎・猿渡彦八・伊勢仁右衛門來、

○五月十七日、締方横目伊勢權九郎・白尾五郎左衛門・松田七郎右衛門・竹下仲左衛門・稻田次郎左衛門歸、

○七月十八日、濱田十藏寺入月、五客歲之秋、有試田

圃肥瘦之役、本府官吏數十人俄然將來于吾地、斯事謀告本嶋時、十藏買船幸在本府、故令彼水手渡持撤使者於古江、彼連令寄船於垂水、乃使者亦下船、而道險告事本嶋甚遲遲、於是乎及此、

○八月一日、獻太刀・馬代銀奏者相良甚五右衛門長、與、使者高崎一右衛門

○十九日、免高奉行平山仁左衛門貶家格為平士、先是上妻三右衛門壘樋崎山為甫地、舊制禁開山為田

甫矣、仁左衛門職當止之、然利人開之、強得村吏券書、為已有事泄、故及此、連污其子元助及美座宗四郎・上妻三右衛門、西之表村吏等罪各差、

○二十四日、以松下幸右衛門數年侍太郎左衛門左右為組士、且與高一石五斗、

○歲暮、規式、如例、

○天明四年甲辰正月元日、規式、如例、

○六日、初狩名代家老種子嶋三七時具、物奉行用人、(44)三組頭種子嶋傳助・東八郎右

衛門・知覽、如例、

十一日、具足祝、軍陣・温座祈念、的始射手一番美座、大兵衛、二番鯨嶋喜市・下村新五、川內六兵衛、三番羽生惣次郎・八板平太夫、如例、

○十六日、川野二三右衛門以數年勞納殿役、與高三石、

○二十三日、妙心院殿卒、命停樂五日、

○閏正月十六日、久芳及二男太郎左衛門到、

○十七日、久芳及太郎左衛門詣三ヶ寺、

○十八日、諸士見、

○二十日、見前家老西村甚五右衛門、物奉行森周右

衛門・岩川十右衛門、本源寺・慈遠寺於奥書院會大

寺以、
病辭、

○二十二日、與高五石種子嶋友右衛門、以為親族也、

○三月十三日、締方横目白尾五郎左衛門・飯牟禮新

之丞・高城主左衛門・伊尻甚之丞・田尻善之助來、

○二十六日、以美座五藤右衛門・梶原八左衛門為代

々小頭、賞數年勤勞勘定所中取役辭於月俸也、

○同日、與羽生七郎次高二石、以父子相繼勤勞於政

府筆吏也、

○四月十五日、以異國船來之候、國老宮之原主膳・

二階堂主計・嶋津仲・嶋津大進傳長崎奉行之令、

如例、

○五月八日、見諸士武藝于廣間庭上、一番鎗師範子

嶋五郎左衛門・平山羽平次、二番天真流師範日高

文左衛門・遠藤壯兵衛、三番燕飛師範石黒定之進、

四番居合師範平山新兵衛・緒方曾兵衛・前田只右

衛門、五番組討、六番組仕合入身、七番組輕取方、

畢而賜盃酒師範、流盡門弟・足輕、亦家老與流盡、

○二十九日、奉 命獻鹿二疋・黑鳩八翼、

○六月九日、永照院卒、法號永照院殿妙觀日義大姊

停樂二十日、

○十四日、與高二石于水原甚右衛門、三石于川口三

輪右衛門、三石于名越貞右衛門、三石于渡邊藤次

兵衛美姊美、二石于長野仲太右衛門姊古、二石于田

上小助女美與、以數年昵近永照院之側也、

○二十二日、葬永照院于本源寺、

○七月一日、垂水島津備・日置島津左衛 二家各備小舟、

送使者垂水使者宮田休兵衛・本田助左衛門 訪永照院之喪

來、使者代各主以黃金白銀五十兩嶋津左衛門、金子二百疋

郎夫婦、金子百疋赤山三之嶋津左衛門妻、金子二百疋嶋津又六

遺髮駕日置船、客之乃附僧二人、亦備吾舟一艘、

使物奉行牧九郎兵衛・納殿川口三輪右衛門・侍女

二人婦美・隸僮村松喜與八・夫一人各駕之、護遺

髮而赴日置、其行裝如從生衣服財器、初永照院嫁嶋

津左衛門久甫生一男初出雲後一女嫁嶋津、而后久甫

死為尼、寶曆四甲戌二月二十一日、官命召歸嶋

津出雲母於吾、而後來歸種子嶋、以病死、方此之

時左衛門久(A)要迎遺髮而葬夫采邑置也、以為事生

本也事死末也、今失定省之道、而微事死、蓋外本

內末者乎、

○八月一日、獻太刀・馬代銀奏者橫山梶右衛門安當、使者西村番右衛門

十五日、修永照院妙觀日義大姊百箇日于本源寺、

○十月二日、久芳及太郎左衛門赴于覺府、

○十日、免獄吏羽生淺之助・河野孫七・小川善次郎・

梶原新助・鮫嶋善六、除其祿、初繫現和村嘉八・

西之表村休八于窄、竊穿窄遁出再、以獄吏不嚴及

此、

○十二月、得許太郎左衛門為鎌田衛衛嗣子、改名右

門、獻太刀・馬代謝之、

○歲暮、規式、如例、

○天明五年乙巳正月元日、規式、如例、

○六日、初狩名代家老渡邊勘右衛門、物奉行、(A)

嶋友右衛門、如例、

○十一日、具足祝・軍陣・温座祈念、的始射手一番美座

西村熊之助、二番鮫嶋榮右衛門・下村珠兵衛、三番日高十郎左衛門・羽生岡右衛門、如例、

○同日、久芳為福昌寺火消奉行、

○晦日、羽嶋新左衛門以五年勤勞覺府邸納殿、為組

士、日高十太多年勤勞覺府、與宅地貳斗八升屋敷謂之宅地

下良八勤勞小者與高一石、長山津右衛門勞府庫下

吏與宅地、

○二月七日、締方橫目長田藤左衛門・伊知地八藏・

有馬治平次・今井八左衛門・平瀬權藏來、

○四月十五日、以異國船來之候、國老宮之原主膳・

嶋津仲・嶋津近江傳長崎奉行之令、如例、

○二十一日、以西村西太左衛門為物奉行、

○五月四日、宮之城之助左衛門被放來、

○十日、洪水嶋中、損田十六町二反六畦二十九步、

二十日、以種子嶋傳助為用人、

○六月九日、修永照院殿妙觀日義大姊一周忌于本源

寺、

○十一日、笹川助八以犯國制放鉄炮于麓、寺入二十四月、

○十五日至二十三日、霧中嶋、不雨、二十四日、霧于鴨女川、至二十五日雨、

○七月七日、都之城助左衛門病死、告之官、

○十七日、芝榮右衛門以勤定方之功為代代小頭、同日、長野仲右衛門寺入十二月、為下屋敷藏吏之時以有私曲也、

○八月一日、就堀八百助貞起獻太刀・馬代銀、使者岩川彦左衛門、

○九月二十三日、男子生、名左太郎、母家女房初津後左賀、薩、州市來人

○十一月二日、以羽生十太左衛門為物奉行、種子嶋友右衛門用人、

○十二月八日・九日、修晴雲院殿七年忌于本源寺、歲暮、規式、如例、

○天明六年丙午正月元日、規式、如例、

○六日、初狩名代家老美座十郎右衛門、物奉行用入、三組頭種子嶋次郎左衛門、(A1)
・西村九郎次、如例、
平山藤左衛門

○十一日、具足祝、軍陣、温座祈念、的始射手一番美座庄左衛門、西村權十郎、二番蛟嶋官兵衛・下村四郎次、三番羽生惣次郎・八板平十郎、如例、

○十六日、以西之表村大山五郎左衛門・西之村日高喜右衛門為郷士、

○二十日、締方横目永田藤左衛門・伊知地八藏・今井八右衛門・有馬治平次・平瀬權藏歸、

○二十三日、以修大會寺社頭寄附米一斛、

○同日、赦名越喜藤太・國上村濱脇之弥七・上里村百姓金八・十助・太右衛門・水手庄七復舊、以晴雲院七年忌也、

○二月二十九日、磔中之村善五郎于能野濱、以放火寺中之村寺上野、且於處處竊盜也、

三月四日、西之表村足輕牧瀬杉右衛門以妻勞檢察田圃豊凶、與高六斗、

○四月九日、柳田善右衛門以三代堪大匠為組士、十三日、以異國船來之候、國老宮之原主膳・嶋津近

- 江・喜入安房・嶋津伊賀傳長崎奉行之令、如例、十五日、野間村鎌田吉兵衛有罪廢士追放于下之郡、其黨鎌田源七・西田傳八・鎌田喜七・鎌田休平・鎌田三五郎・鎌田平九郎・鎌田政八・鎌田勘左衛門・鎌田覺七・鎌田伊平太・鎌田嘉左衛門廢士寺入^{三十}、鎌田順左衛門・鎌田五左衛門・鎌田休助廢士寺入^{月三}、鎌田十郎廢士追放之、自往昔馬追之日、有牧池之平之馬遣高峯之路也、平生少年馳馬遊遨焉、或墾其地為穀地、時有夜破壞其垣為廣原者、風聞吉兵衛等含墾驅馬之地破焉、村吏按之不伏、因告籠、於是有司治其辭得實、故及此、
- 五月十一日、以上妻七兵衛宗弘為家老、牧九郎兵衛胤似物奉行、
- 同日、橋元喜六請為家臣、宅覺府、
- 十八日、野間村石堂弥三次寺入^三、坐誦佛經廻村、蠱惑廣人而取米錢、
- 六月三日、西之村濱田桐助以構成僧勸事院惡為陪罪、廢士籍、沒田及宅地、放之上之郡、其黨濱田八

郎太廢士、濱田源太左衛門廢足輕、共籍沒田及宅地、放于上世田、其余連及之者罪有差、

○二十三日、久芳以多病奉書請讓家統庸時、事記左、

○七〇四 種子島久芳口上覺

○ 口上覺

私事、先年大病相煩候処、寸切之全快不仕、其後病等節と差發候 = 付、段と手を尽加療治候得共、其詮無之、猶以多病 = 罷成、往と家格之御奉公等相勤申躰無御座候、依之奉願候、未老年与申 = 而茂無御座候得共、右通病身罷成候間、私江隠居、嫡子種子嶋彈正江家督被仰付被下度奉願候、彈正儀初而之御目見相濟申候、此等之趣被仰上可被下儀奉願候、以上、

六月廿三日 種子嶋左内

○七月三日、伊集院之関六・田布施之長助被放來、

○二十七日、以渡邊源二兵衛寬為用人、

○八月一日、就野間勘九郎盛弘獻太刀・馬代銀、使者羽生十太左衛門、

○十五日、市來順密以待讀於庸時為小頭、

○十七日、締方横目上野弥太郎・坂元覺之助・高城主左衛門・本田庄右衛門歸、

○二十八日、夜大風、拔木傷稻、

○九月八日、將軍薨、停樂禁殺生五十日禁經營室屋市衆人相集、交易五十日等七日、為

○十月五日、納官村春田利平次以通侍女、廢足輕放下郡、

○二十二日、官命自來丁未年以往五年定賦外每祿一斛須稅米五升、

○同日、赦長野仲右衛門、

○歲、不登、

○十二月二十五日、久芳第二女留尊嫁赤松造酒、

○歲暮、規式、如例、

○天明七年丁未正月元日、規式、如例、

○六日、初狩名代家老上妻七兵衛宗弘、物奉行三組頭羽生仙右衛門 (一七)

・一湊六郎兵衛、如例、
美座七郎右衛門

○十一日、具足祝、軍陣・溫座祈念、的始射手一番美座六番日高十郎左衛門・羽生伊平太、如例、

○二月五日、札改檢使谷山角太夫・佐土原八次郎來、

○同日、締方横目永田藤左衛門・鮫嶋長右衛門・種子嶋善藏・鮫嶋甚藏・淺江四郎次來、

○九日、與美座五藤右衛門系圖、

○十日、日縁辞本源寺、

○十七日、締方横目德永善左衛門・武元善右衛門・

米良次郎右衛門・蒲生十郎太・伊東仲右衛門歸、

○二十三日、緒方主藏以數年侍庸時左右、與高二石、

○四月十五日、以異國船來之時、國老関山札・宮之

原主膳・二階堂主計・嶋津仲・川上頼母・菱刈大炊・喜入安房・嶋津豊前傳長崎奉行之令、如例、

○二十七日、折田彦左衛門奉命來放白鷺于現和村、

令家老・組頭・横目・山奉行監之、蓋白鷺異邦之産也、欲蕃息吾地乎、

○六月十九日、命公在國候寒暑、暑則索麵、寒則 (マ)

鴈二翅或鴨獻於中來、自今更就於表、以使者宜獻之雉子之間、亦吾土之產福多目加一品、如先規獻於中也、國老市田勘解由傳之、事記左、

○七〇五 市田貞英達書

暑氣
一素麵

壹折

寒中
一鴈鴨之間 一番

種子嶋左内

右之通、御内へ進上仕來候得共、右品

御両殿様御在國之節計、表向進上被仰付候、且

從御内證差上來候福多目、向後者外ニ何そ相添、

都合二種是迄之通進上被仰付候、

六月

(市田貞英)
勘解由

○六月廿一日、就奏者名越佐源太有引進者、伊集院戸十郎不知其所事、蓋補使者乎、獻素麵於雉子之間、使者鮫嶋惣右衛門服上、若黨一人服、事記左、

○七〇六 種子島久芳進上目錄及添狀

進上

素麵 一折

以上、

種子嶋左内

久芳

○右納箱、裏以紫幅巾、

暑氣中為何 御機嫌進上仕候、

六月廿一日

使者

鮫嶋惣右衛門

○右書中奉書横切紙、以美濃紙包之、上書口上覺、

託表坊主、

○此時用頼一人服上下小、獻上物宰領士小田治兵衛服上下不、足輕一人服袴羽、置獻上物於雉子間筵二疊之處也、吾使者於三家及大身分使者之下坐、申使者之言、

○中將様江種子嶋左内より暑氣中為伺 御機嫌、目録之通進上仕まする、

○趨進於奏者前、獻目録即歸于本坐、拜禮而退、

○二十五日、日高嘉左衛門以再納錢、為一代郷土、

○七月八日、以用頼森八太郎服上下小者一人、上宰領士一人、服袴、人服袴羽織、下宰領足輕一人、亦就

御側御用人篠崎藏太左衛門、獻同品于 御内證御方、事記左、

○七〇七 種子島久芳進上目録及柁次第

○ 進上

福多目

御千肴

以上、

種子嶋左内
久芳

○右太守公

しん上

ふくため

以上、

一壺

○右御内證御方

一新壺盛福多目八升

一新白木臺以椗之載福多目一壺

一千肴箱長二尺高七寸

一新白木臺載于肴箱

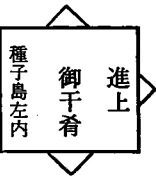
木横

進上

福多目

以中奉書紙粘壺

口裸壺盛八升、



進上

御千肴

種子島左内

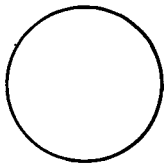
盛小鯛七十六、以中

奉書紙、如圖粘四方

以木釘緘封之、

以中奉書紙粘壺

口、裸壺盛八升、



○今茲獻上畢、赤松家謂用頼森八太郎曰、自今後以

大器二大朱具盛四升種子嶋製為定例也、初從舊章就御小

納戸役伊集院嘉盛將獻之、乃官吏議之曰、先是

獻於中品物者、就御小納戸役獻之、然万石以上獻上物何以御小納戸役哉、自今以往須就御近習役獻之也、

○十四日、免馬役西村治右衛門、貶家格為諸士、籍

沒祿及宅地、先是坐為馬毛嶋監吏時、以病竊歸于本嶋也、乃連汚書役牧平左衛門寺入三十一、

○二十日、札改檢使谷山角太夫・佐土原八次郎歸計共壹萬六千四百三十一人

○八月一日、獻太刀・馬代銀、奏者内山幸太郎往盛、使者時任三左衛門時睦、

○締方横目鎌田源助・伊地知助太郎來、

○二十日、初置近習役・小納戸役之官、以時任三左衛門為近習役席船奉行上代代小頭、與高五石、西村藏多・緒方主藏為小納戸役席高奉行下一代小頭、

○二十二日、締方横目永田藤左衛門・鯨嶋甚藏・種

子嶋善藏・淺江四郎次・鯨嶋長右衛門歸、

○十月十五日、初置納殿役人官、以前田只右衛門任之、

○十九日、唐山南京船主張兩滄、飄到吾地赤尾木浦

時唐人劉孝死、請柩以葬于御坊、唐人五人從葬上

山此時忘入死人於港内、入自築外植松塚上、不用僧徒、從先規使駕宰領・足輕

貳人・舵工二人、夥長・總喃各壹人于唐船、做當

的二人于吾警衛船西村甚七船奉行・知覽雲太普請奉行

者柳田休藏、各宰其事、二十四日、發赤尾木浦赴山

川港、不意於洋中遭暴風、復漂來唐船于國上村湊、警固船于浦田

西村・知覽・柳田告事急、即家老日高源右衛門・

平山二郎兵衛・横目上妻九郎左衛門・日高源兵衛

以下諸吏、不待駕各到國上村湊、已見唐人下船運各貨于海岸、即使譯者柳田問之、唐人云、船屢遭

難風、船底各處損壞、潮水發漏、懼離性命之患、

捨船上山也、不堪使用物甘從國法、請速集船加人

夫揚貨物而已、家老以下胥議構柵於民屋四戶、使

異客六十三人寓宿焉每家警固三人、即歇撤府下、諸吏數

十人、星夜前來捧寄船於渚二十五日、日揚貨、或

乾、或量、或斗、夜於海汀各所然火警其變、同二

十七日、唐人三名病死、葬于湊冷水谷、唐人五人

上山從葬植松塚上不用僧徒、十一月朔日、將轉送貨物於府下、

先遣異客二人附警固察到府下慈遠寺境內濱側坊構榭于四

守衛之、乃謀告之、本府官、而連西風激浪、不能

以小舟得浮於大洋、立坐不安、已十一月四日、國

上村橫目忙來曰、本府官吏數十人唐船改日置五郎太、

役兼中馬喜平次、御徒目附大山宗之丞、警固伊東教右衛門、唐

船方書役石原助一、橫目山口孝右衛門、佐藤休左衛門、醫師馬

場玄仙、橋口順友、與力坂口兵右衛門、本通事太平源藏、小橋

金次郎、稽古通事小橋喜作、森山權九郎、荻原藤助、園田嘉右

衛門、道心須田喜八、永田渡右衛門、聆唐人破船、備官

船各來于浦田向唐船發赤尾木浦之日、屋久嶋船亦發自浦田

事聞、即家老平山二郎兵衛、橫目上妻九郎左衛門

至浦田見諸官吏、吏曰、聞唐人破船、有諸曰、然、

曰、然則何告之遲異焉、曰、自我地將赴本府、則

要東南風、今方中冬連西北風大也、非敢懈告焉、

諸宜慮之也、乃導諸官吏到于湊、乃本府諸吏及譯

者與唐人對話移時、唐人告諸吏以初自漂到吾地至

破船之眞、於是本府諸吏俄然解顏、謂吾諸吏曰、

今而後相俱宜為國家小心勿必懈弛於事、美我職事

人員、吾徒方安心也、官吏曰、聞唐人及貨物在府

下、官吏亦分日置五郎太、大山宗之丞、譯同小橋

下監其事也、十一月十日、監破船之事、終船及

使用物盡燒之、本府諸吏及吾吏、唐人警固共發湊、徒

宿府下唐人寓慈、豫備大船貳艘一艘船頭、水手二十三

日載唐人貨物、故本府同心二人每船、吾士二人每船

足輕二人每船、日夜輪互駕貳艘、以警衛之、已十

二月朔日得好風、一艘船頭使唐人三十七人、吾

士一人美座六、食焚一人、亦一艘船頭唐人二十四

人、吾士一人羽生岡、食焚一人、各駕之送山川港、

亦本府官吏乘前所駕來之官船謂奈、守護唐人乘船

二艘、發港赴山川港、我地家老以下諸吏之費心不

可勝言、況於費錢糧勞民哉用夫壹萬貳百五十三人

人至將開駕之日、贈一書於吾吏、記左、

○七〇八 張兩滄書狀

○具呈午六番南京船主張兩滄為報、明收拾貨物以謝
洪恩事、切本船在種子嶋國上村打破船隻所有、救
起銅斤包頭鋪蓋件件、收拾並無遺失、至於破損木
料俱不堪使用、伏乞、在本地燒化收拾鉄釘、兩等
親自查看並無半点存留、茲蒙費心銘感不淺矣、

天明七年未十一月 午六番船張兩滄印

○歲暮、規式、如例、

○天明八年戊申正月元日、規式、如例、

(14)

六日、初狩名代家老日高源右衛門為將、物奉行、三租頭森周八友良・下

村字左衛門時、西村田代、如例、

○同日、樋口十六衛貶士為庶人、嚮以詐從覺府浴兒

筒水温泉私歸本地、且於船上失禮締方也、官聞

嚮唐人漂來吾地之日諸有司處置不宜、國老嶋津和

泉以書箴之、記左、

○七〇九 島津久邦申渡書

種子嶋左内 用頼江

唐船漂來ニ付、手當之儀者兼而申渡置候故、諸向
無遲滞取計可有之事候、然ニ此節於種子嶋(破)及彼船
唐人共重キ災難候得者、何篇氣を附可被取扱候処、
不行届方ニ相聞得候条、已來右躰之節者、入念諸
事無遲滞取計候様可申渡置候、

右、可申渡候、

正月

(島津久邦) 和泉

○官聞唐人漂來吾地之時、横目上妻九郎左衛門・譯
者柳田休藏處置宜、以書賞之、記左、

○七一〇 島津久邦口達覺

口達之覺

種子嶋左内家來

上妻九郎左衛門

柳田休藏

右者、此節於種子嶋唐船及破損唐人共難淡之砌、
右兩人諸事取計方宜段相聞得候、已來右式之儀有
之候ハ、尚又心掛可相勤旨可申聞置候、

正月

(島津久邦)
和泉

○十一日、具足祝、軍陳・温座祈念、的始射手一番美座小八・川内大兵衛

二番鮫嶋五後左衛門・下村五郎右衛門・三番日高孫兵衛・羽生岡右衛門、如例、

十五日、得許客歲夏六月二久芳讓家統庸時、十三日上書

時良

龜之助 四郎助

○寬延二年己巳二月二十六日生、母久達女、實北郷

權八資盈三男也、寬延二年五月十一日、久芳請為

養弟、

○寬延三年二月十五日、請為後藤兵衛時庸後嗣、寶

曆二年五月二十八日、就嶋津直衛獻太刀一腰・白

銀一枚、謝為時庸後嗣、同日改名四郎助、

○六月九日、國老嶋津主鈴使肝付彈正傳 公命、為

代々小番、

○明和九年正月十日死于種子嶋、葬大會寺、法号本

承院日堯居士、

女子万
左

○寶曆七年丁丑七月二十三日生、母同庸時、

○初嫁嶋津助之丞、生一男、離別後嫁仁禮仲右衛門、

生一男一女、

女子亭留、
後里津

○寶曆九年己卯七月十二日生、母同庸時、

○初嫁嶋津主右衛門、生一女、夫死來歸、後嫁赤松

造酒、生一男、

○寬政元年己酉十月二日死、法号如律院殿無染了心

大禅尼、

○久柄

初庸時 鶴袈裟 彈正 佐渡

○寶曆十年庚辰八月二十一日生、母新納波門久門女、

○明和六年己丑十一月二十八日元服、改名彈正庸時、

事詳久芳譜中、

○安永九年庚子四月三日、被補于犬追物射手、國老

喜入主馬傳 命、

○天明八年戊申正月十五日、得許襲家、事記左、

○七一一 菱刈実祐達書

隱居

種子嶋左内

家督嫡子

種子嶋彈正

右、願之通被仰付候、

正月

(菱刈実祐)

大炊

○同日、為大乘院火消奉行、

○正月、以家格就、

(A・A)

○七一二 種子島久柄口上覚

○口上覚

私家之儀、家督之節代々奉願 御家久之字拜領被仰付来候、依之申上候、私事今度家督被仰付候間、先代之通久之字拜領被仰付被下度奉願候、為御見合七代之祖三郎次郎久時江被下置候 御判物写差上申候、此旨被仰上可被下儀奉頼候、以上、

正月十五日

種子嶋彈正
(久柄)

○ 島津義久証状写

(本文書八四六号文書ト同文ニツキ省略ス)

○同正月、請以家格獻太刀・馬代銀・三種二荷、奉謝久芳隱居庸時襲家、記左、

○七一三 種子島久柄口上覚

○口上覚

私親種子島左内江隱居、私江家督被仰付、難有仕合ニ奉存候、依之御序之節、御礼申上度奉願候、私家之儀者御太刀・銀馬代・三種二荷進上仕来申候間、此節之儀茂先例之通、被仰付被下度奉願候、此旨被仰上可被下儀奉頼候、以上、

正月

種子嶋彈正

○七一四 名越左源太・島津九十九連署

達書写

写

御自分事、明後十五日隱居家督之御禮、御太刀・三種二荷進上物ニ而、謁御家老被仰付筈候間、當日朝五半時、着服熨斗目・長袴ニ而可被罷出候、以上、

當日奏者番

島津九十九

名越左源太

二月十三日

種子嶋彈正殿

○七二五 種子島久柄請書

私事、明後十五日御太刀・三種二荷進上ニ而、家督之御礼被仰付筈候間、當日朝五半時熨斗目・長袴ニ而可罷出旨被仰渡趣、承知仕奉畏候、以上、

種子島彈正

二月十三日

島津九十九様

名越左源太様

嘗聞 官財不給、今也雖無有吾財贏餘、以北條加之助、就山田彌九郎請獻銀百二十貫目、事記左、

○七二六 種子島久柄口上覺

口上覺

近年御手迫ニ付而者、兼而存含候趣茂御座候間、別紙之通、銀子進上任度奉願候、此段被仰上可被下儀奉頼候、以上、

正月

種子島彈正

○七二七 種子島久柄覺

(七二七の) 覺

銀百貳拾貫目

右之通進上任度奉存候、

以上、

正月

(七二七の二) 張紙ニ而

都而願通進上被仰付候、

五月 (菱刈実祐)
大炊

右、五月二日被仰渡候、

(本文書ハ七一七の一号文書ノ行間ニアリ)

廿一日、以鮫嶋栄治為家老、附久芳此時加栄治、家老七人

二月三日、右門政、(マ)以多病要辭鎌田衛衛養子、故

親族嶋津内膳・新納織部及鎌田衛衛親族山田彌九

郎・義岡宗次郎上書請之、記左、

○七一八 義岡宗次郎外三名連署口上覚

口上覚

私共親類種子嶋彈正実弟鎌田右門事、依願鎌田衛

衛養子江御免被仰付置候處、近年多病ニ罷成、段

々尽手致養生候得共、全快不仕、今通ニ而者往々

々格之御奉公等相勤躰ニ無御座、養子違変仕度由、

右門より申候、然處養子違変之儀ニ付而者、先達

而被仰渡趣有之候ニ付、猶又一類中得与申談候得

共、何れニ茂養家相續仕躰無御座候、依之無是非

双方親類熟談之上、養子違変之願申上候間、御免

被仰付被下度奉願候、此等之趣被仰上可被下儀奉

頼候、以上、

種子嶋彈正親類

嶋津内膳

新納織部

申二月三日

鎌田衛衛親類

山田弥九郎

義岡宗次郎

○十日、締方横目八代三左衛門・白石直之進・山内

甚蔵・上原市太郎・米良次郎右衛門來、

○十二日、以一湊六郎兵衛為物奉行、

○三月三日、開條書毎歲、

○同日、與艾餅本源寺・慈遠寺・大會寺、以衛士為

使者毎歲、

○九日、免船奉行岩川彦左衛門寺入、(マ)以去年失禮

于唐人也、

○三日、以嗣家統赦美座宗四郎・平山元助・河野幸

左衛門・牧平左衛門・長野仲右衛門・長野休右衛

門・鎌田傳七・鎌田休平・西田傳八・鎌田喜七・

鎌田平五郎・鎌田平九郎・鎌田政八・鎌田覚七・

鎌田伊平太・鎌田嘉左衛門・西村文右衛門・上里

村之勘八・前田太兵衛僕藤六、

廿一日、西村春右衛門以不得命居中之村久之、貶

組士為郷士、

三月、官搜索西之表村市兵衛於此地、而不得焉、

初與熊野浦之六七為官船水手之時爭論、殺六七奔

故有此命也、

四月十日、以種子嶋三左衛門時見為家老、

十七日、以異國船來之時、國老傳長崎奉行之令、事

記左、

○七一九 島津久邦外三名連署申渡書

吳國船入津之時分候間、可被入御念旨、長崎奉行

被仰渡候条、兼而申渡候趣、弥以堅固ニ相守候様、

種子島江可被申渡者也、

(行見)
二階堂主計

四月十七日

(実祐)
菱刈大炊

(久禮)
喜入安房

(久邦)
島津和泉

種子嶋彈正殿

廿三日、久芳請剃髮、改名自遊、記于左、

○七二〇 種子島久柄口上覚

(トシヨシ)
口上覚

願名

自遊

右者、同氏左内事、隱居被仰付置候ニ付、右之通

名替被仰付度候、左候而剃髮有髮勝手次第為仕度

御座候間、御免被仰付被下候様奉願候、此等之趣

被仰上可被下儀奉願候、以上、

申四月廿三日

種子嶋彈正

(七二〇) 張紙ニ而

都而願之通被成御免候、

七月

(菱刈実祐) 大炊

(本文書ハ七二〇の二号文書ノ行間ニアリ)

右、登城之上於御用人座、本文北郷八右衛門御取継を以、都而願之通御免、御家老・御用人之宅差越、袖扣ニ而伸謝、

五月五日、以舊例與粽子本源寺・慈遠寺・大會寺、以衛士為使者每歲、效之、

同日、慈遠寺納粽每歲、效之、

六月廿九日、浮小舟江口池田浦以爭遲速謂之夏競、假營蓬

舍於本源寺弓場觀之、西之表村庄官勸酒肴在本府、

則納酒肴于政府、

七月六日、重豪公賜嚮所請久字庸時、改久柄、

記左、

○七二一 島津重豪一字狀 (七二〇)

種子嶋彈正

久

天明八申

六月六日

(重豪) (花押)

(七二〇)

種子島彈正

右、依願久之御一字拜領、御折紙頂戴被仰付候条、一世可被相用候、

右、可申渡候、

七月

(菱刈実祐) 大炊

○七二二 種子島久柄一字拜領次第

右之通、御家老衆御添書ニ、於御用人座伊集院伊

膳様より承知、彈正様四ツ前被遊御登城候處、

御書院二之間江、菱刈大炊様前以御居付、彈正様

三之間下敷居より式量目ニ而御礼、奏者番新納織

部様御引進、大炊様よりは是江と御挨拶有之、彈正

様ニ之間下敷居より四疊目江御進、其時大炊様より拝領之旨御達有之、御一字御折紙被相渡候ニ付、御頂戴候而御退座、右御座末江御側役衆壹人御詰、奏者番島津采女様・島津左中様竊之間ニ御詰有之候、左候而御用人座江彈正様御出、御頂戴之御礼、伊集院伊膳様御取次御口達ニ而被仰上候、

○七三三 種子島久柄口上覚
(七三三)
口上覚

私事、御家久之御一字拜領被仰付、難有仕合奉存候、依之御序之節、先例之通御太刀・銀馬代・三種二荷進上仕、中將様江茂右同様進上仕、御礼申上度奉願候、此旨被仰上被下度奉頼候、以上、

七月 種子島彈正

(七三三)
張紙

願之通進上ニ而、来廿九日御礼被仰付、中將様江茂右同様進上納物被仰付候、

四月

(島津久祝)
求馬

西四月廿六日、北郷八右衛門取次ニ而、北条十左衛門承知、八月九日御禮、

同日、久芳得許、改左内自遊、

○七日、以家例飾具足一領于廣間、家老拜之每歲、
倣之

○八日、以舊章祭先祖乃諸臣忠死之靈於大會寺每歲、
倣之

○十一日、右門(A.P.) 辞鎌田衛衛嗣子歸、

○十二日、締方横目永田藤左衛門・山之内清八・伊

地知甚藏・武井清右衛門・河野四郎右衛門来、

○十三日、以先躰祭先祖及忠死者之靈於慈遠寺每歲、
倣之

○十四日、以舊章祭先祖於本源寺祖師堂每歲、
倣之

○十六日、以舊躰祭先祖及忠死者之靈于本源寺方丈每歲、
倣之

○同日、以舊祭先祖於持佛堂每歲、
倣之

○同日、西町祭禮踊每歲、
倣之

○十七日、東町祭禮踊每歲、
倣之

○同日、以羽生四郎左衛門為一代小頭、賞請自今年至亥年三年、納高二十七石税于府庫也、

○同日、陶工大山五右衛門以納瓦、賞之為組士、

○廿四日、締方横目八代三左衛門・白石直之助・米

良次郎右衛門・上原市太郎・山内源藏婦、

○廿八日、榎元休左衛門以納錢百貫文、為代々小頭、

○八月一日、獻太刀・馬代銀、奏者迫水強平太久賢、

使者西村番右衛門、

○同日、以舊章慈遠寺・大會寺納紙各二十帖、亦與

同品于兩寺每歲、
傲之、

○八日、自遊及佐太郎到自覺府、

○十日、自遊久芳見本能寺日順上人於廣間、先火本

能寺、為勸化來而得伏見院家老後藤李權頭正紀・

小川圖書頭則村之書、記左、

○七二四 小川則村・後藤正紀連署書狀

○一筆致啓達候、然者當地本能寺日順上人法用之儀

ニ付、薩州表江来ル廿一日罷下候、就夫其御表江

茂罷越可申候得者、滞留中可然被添御心遣候之様

致度候、本能寺儀者此御所御由緒有之候寺之儀ニ

付、此段御頼申入度、得御意候儀ニ御座候、恐惶
謹言、

六月十五日

後藤李權頭

正紀 (花押)

小川圖書頭

則村 (花押)

種子嶋左内殿

○八月十五日、以舊章蓮勝寺納御穀供三寸每歲、
傲之、

廿二日、命久柄朝見之禮、須一人於御書院敷居

一疊目拜謁 公、國老喜入安房傳之、事記于左、

○七二五 喜入久福達書

種子島彈正

右、月次御礼等之節者、以来獨礼之面々御礼相濟

候而、其身老入於 御書院御敷居一疊目御礼可申

上候、右、格別之 思召を以、其身計被仰付候、

八月

(喜入久福)
安房

○廿五日、須木村今別府門名子長次郎被放來、

○九月二日、野間村石堂利三右衛門及家人、以犬神惱人放上世田、

○五日、就奏者喜入休右衛門請官暇、嚮久柄襲家、既欲歸吾地而督理嶋中之事也、事記左、

○七二六 種子島久柄口上覺

○ 口上覺

私儀、先達而家督被仰付候、右付、先代より家督涯私領江差越、取計候舊式之儀共段と有之、且家來共江申附候先格之儀も御座候間、此涯六ヶ月程私領江之御暇被成下度奉願候、左候ハ、順風次第罷越、諸事相辨申度候、此等之趣被仰上可被下儀奉頼候、以上、

九月

種子嶋彈正

○是月、馬追不知自何世始、謀地廣狹險易、或高牆、或淺塹、廻堵曠野可一二里、而牧牝馬、謂之牧、年一之其

牧而筭其蕃息夏秋之交際卯日以為吉日、且躬焼印于去年所生牝

馬、謂之馬追、實觀風俗也本壇野在野間村・大町野油久村・前之田元中之村・崎原野

嶋間村・真崎野西之村、家老・物奉行・用人從駕、嶋主在本府

則家老代之每歲、倣之、

○九日、以舊章開條書每歲、倣之、

○久柄襲家欲歸我地、而觀政事、携婦人及二女武良左登、

廿六日駕船船主樋口十兵衛・船附笹川五六、船頭田中甚左衛門、發覺陽前之濱、

同日晚到山川港、

○廿八日、某時得東北風發山川港放洋、已見吾種子

嶋比及于六七里、俄然船底發漏我駕船、則陪水手、乘舵工以備不虞之用、

水手驚愕乘身命雖防禦、不見其効、唯任風浪、同

日未時幸漂到于能野小濱、陸行申時至赤尾木城、此

時家老平山二郎兵衛・船奉行西村甚七等從駕、

○二十九日、久柄及婦人二女武良左登、詣持佛堂及本源

寺・慈遠寺・太會寺、

○十月九日、以舊例詣本源寺、執供法華宗祖日蓮上

人祭祀一餅、以挿其供中謂之手懸之餅、在覺府則家老代

之每歲、倣之、

○十一日、以祭法華宗祖詣本源寺、在覺府家老代之每歲、

○十三日、以祭法華宗祖詣本源寺、且與酒食于僧徒、
修法會祭禮、畢而拜石塔書宗祖之名之、石謂之石塔、在覺府則家

老代之每歲、

○二十八日、足輕鮫嶋休藏・牧瀬善五右衛門以於覺府竊盜、各貶為庶人、放休藏下之郡、除善五右衛門高扶持、

○十一月六日、觀諸士武藝于城内、一番本心鏡智流

鎗師範平山藤左衛門、子島五郎左衛門、二番天心流劍術師範日高幸兵衛、遠藤壯兵衛、

三番示現流燕飛師範石黒、貞之進、四番水之流居合師範鮫嶋孫

田只右衛門、上妻鉄右衛門、岩河傳藏、梶原源左衛門、緒方筑兵衛、

廻師範日高幸兵衛、山之内流居合(7)、畢而與盃酒于師範、

滴酒于諸士、

同日、諸士武藝畢而見無双流捕手府下足輕、十六人、

○以西村甚七・平山藤左衛門為用人、

○九日、以繼家統初到本地、赦岩河彦左衛門・羽生七左衛門・阿世知新之丞・榎元弥八郎・鎌田順左

衛門・鎌田五左衛門・鎌田休助・鎌田十郎・牧平左衛門・舊樋口姓十兵衛・能野之市八・西之村之勘七・女僧惠京・智順・宣長坊・濱田源助女・羽生十助妹・下田塩屋十八・金兵衛・孫六・阿世知圓右衛門・石堂孫七、

○十一日、以襲家初到巡廻一嶋觀風俗家老種子嶋三左衛門、村西太左衛門、用人上、妻九郎左衛門等從之、

○十九日、種子嶋平八來、以襲家後初歸吾地、欲携平八來、躬請之官暇也、

○十二月七日・八日、修清心院殿妙運日詮大姊三十年忌於本源寺、

○十一日、見諸士踊于城内、賀吾襲家始到本地也、
十三日、上妻号寺田家源左衛門納餅二於廣間、與酒肴、

是舊例也每歲、名代家老上妻七兵衛、

○十六日・十七日、見西町歌舞戲于城内、

○十九日・二十日、見東町歌舞戲于城内、

○二十三日、命自明年己酉正月年々可獻太刀于江戸、事記左、

○七二七 伊集院久文・喜入久量連署達書

○種子嶋彈正事、家督被仰付御礼迄茂相濟候ニ付、
來年頭より家格ニ付、於江戸御太刀進上被仰付候
間、可被得其意候、尤年々御渡者無之候、此旨播
磨殿被仰候、以上、

十二月廿三日

喜入休右衛門

伊集院伊膳(久文)

種子嶋彈正殿

名代

○七二八 北條十左衛門請書

種子嶋彈正儀、家督被 仰付候ニ付、來年頭より
家格ニ付、於江戸御太刀進上被仰付候、尤年々仰
渡者無御座段、御書付之趣承知仕候、彈正儀當分
私領江罷有候付、私より御請申上候、

北條十左衛門

十二月

喜入休右衛門様

伊集院伊膳様

○廿七日、廿人家謁家老於廣間、賀歲暮、各勸三種

二瓶、與羹及盃酒每歲
倣之、

○同日、本源寺・慈遠寺・大會寺、賀歲暮、納折三

合煎餅薯野
老每歲倣之、

○同日、賀歲暮、鍛冶納自作庖刀每歲
倣之、

○節分之夜、於奧書院柴鳴豆蒔物真似之式一番鶏、二
番鳥、三番

奥、四番犬、五、
番雀、每歲倣之

○二十八日、與系圖一卷美座七郎右衛門、以往年所

與系圖羅元祿年間薩邸回祿之災也、

○除夜、本源寺住職卜吉時、禱禱於持佛堂、拜戴經代

家老種子嶋三左、
衛門、每歲倣之

○除夜、以舊章詣本源寺今疾家老種子嶋三、
左衛門時見代焉、是夜召家老

平山二牧九郎・物奉行牧九郎・用人種子嶋次
兵衛・奥座、與酒食、

此例也每歲
倣之、